

# 淀川水系神崎川ブロック河川整備計画

## ＜参考資料＞

平成 30 年 7 月

大阪府

\*\*\*\*\*

## － 目次 －

第 1 章	河川整備計画の目標に関する事項.....	1	第 2 章	河川整備の実施に関する事項.....	212
第 1 節	流域及び河川の概要.....	1	第 1 節	河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要.....	212
1.	流域の概要.....	1	1.	洪水対策.....	212
2.	流域の特性.....	4	2.	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持.....	222
3.	河川特性.....	30	3.	河川環境の整備と保全.....	222
第 2 節	河川整備の現状と課題.....	36	第 2 節	河川維持の目的、種類及び施工の場所.....	223
1.	治水の現状と課題.....	36	1.	河川管理施設.....	223
2.	河川利用及び河川環境の現状と課題.....	46	2.	許可工作物.....	224
第 3 節	流域の将来像.....	63	3.	河川空間の管理.....	224
第 4 節	河川整備計画の目標.....	64	第 3 章	その他河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	225
1.	洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標.....	93	第 1 節	地域や関係機関との連携に関する事項.....	225
2.	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標.....	190	第 2 節	河川情報の提供に関する事項.....	226
3.	河川環境の整備と保全に関する目標.....	207			
4.	河川整備計画の計画対象区間.....	211			
5.	河川整備計画の計画対象期間.....	211			
6.	河川整備計画の適用.....	211			

# 第1章 河川整備計画の目標に関する事項

## 第1節 流域及び河川の概要

### 1. 流域の概要

#### (1) 神崎川ブロックの構成

神崎川は、摂津市の一津屋で淀川より分派し、安威川をはじめ糸田川、高川、天竺川を合流しながら西へ流下し、右支川猪名川を合流して南下すると共に、左門殿川、中島川を分派しつつ大阪湾に注ぐ、流路延長が18.6km（猪名川合流点より上流の流路延長は11.4km）の一級河川です。

安威川は、京都府亀岡市亀ヶ尾山や高槻市の榎田地区に源を発し、途中下音羽川と合流して南流し、茨木市田中町付近で茨木川と合流してさらに南流し、摂津市域で流路を西方に変えながら、大正川、山田川、正雀川を合流し、大阪市東淀川区相川で神崎川に注いでいます。流路延長は28.2km（京都府亀岡市域内を除く）となっています。

神崎川ブロックは、猪名川合流点より上流の神崎川及びその支川から構成されます。

流域面積は208.1km<sup>2</sup>となっており、神崎川流域と当ブロックで最大の支川である安威川流域に大別でき、大阪府全体を地域分割した場合の豊能地域と三島地域にまたがって位置しています。また流域の下流部は地盤標高が出水時の河川の水位より低いために溜まった雨水を河川に自然放流できない内水域となっており、全体の約3割（65.3km<sup>2</sup>）を占めています。

流域に関連する大阪府域の自治体は大阪市（西淀川区、淀川区、東淀川区）、豊中市、吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、箕面市、豊能町の7市1町です。

表-1.1 神崎川ブロック対象河川一覧表

河川名	延長(km)	河川名	延長(km)	河川名	延長(km)
神崎川	11.4	正雀川	3.5	佐保川	6.8
旧猪名川	1.4	正雀川分水路	0.5	勝尾寺川	9.6
天竺川	7.6	山田川	7.4	箕川	3.8
兔川	1.5	大正川	5.3	郷之久保川	0.9
高川	4.3	境川	1.0	川合裏川	2.2
糸田川	2.3	三条川	1.7	裏川	0.8
上の川	1.8	新大正川	1.1	土室川分水路	1.1
安威川	28.2	茨木川	2.1	下音羽川	3.2

表-1.2 各市町が占める割合

市名	流域内面積(km <sup>2</sup> )	流域に占める割合(%)	市名	流域内面積(km <sup>2</sup> )	流域に占める割合(%)
大阪市	2.2	1.0	高槻市	19.7	9.5
豊中市	25.3	12.1	箕面市	11.6	5.6
吹田市	35.1	16.9	豊能町	0.1	0.1
摂津市	13.0	6.2	尼崎市	0.6	0.3
茨木市	76.5	36.8	亀岡市	24.0	11.5
合計				208.1	100

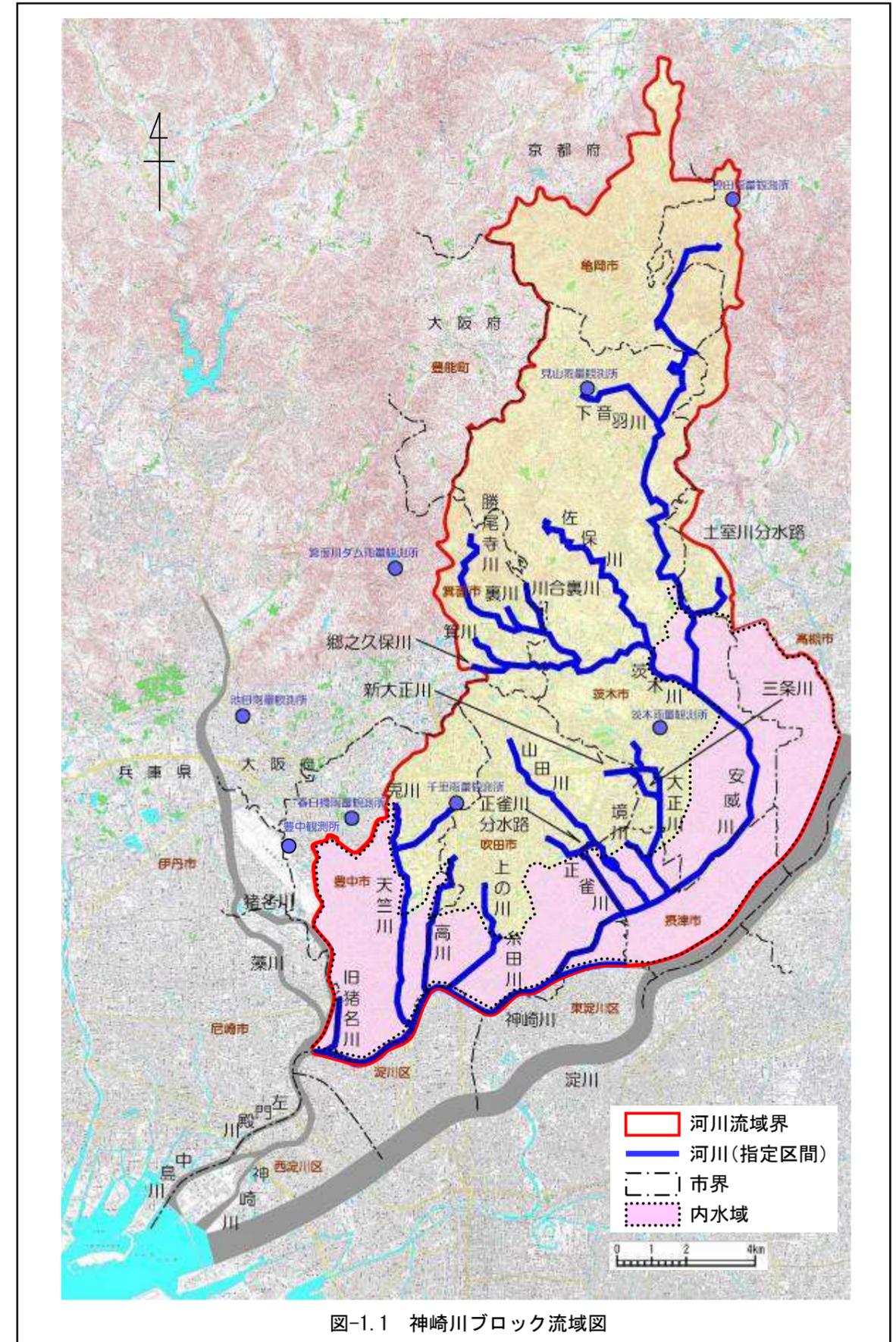


図-1.1 神崎川ブロック流域図

## (2) 流域市の概要

### ①大阪市（西淀川区・淀川区・東淀川区）

現在の東淀川区一帯は、縄文・弥生期までは芦の繁る多くの浅洲や島があり、これらの島々をぬって淀川・中津川・三国川（現在の神崎川）などの河川が西へ流れていました。今の南江口・大桐あたりが淀川の河口でしたが、長い歳月のなかでしばしば洪水が発生し、流路が変わりながら現在の姿になりました。古くから交通の要衝で、現在も東海道新幹線をはじめ多くの鉄道や道路が整備されており、区域の北側を西に流れている神崎川にも、数多くの橋が架かっています。神崎川周辺は住宅や工場などで高度に市街化が進んでおり、内水域でもあることから、洪水による被害は甚大なものと考えられます。

### ②豊中市

大阪市北部に接する大阪都市圏の典型的な近郊住宅都市となっています。古くから能勢街道沿いの街村を中心とする近郊農村として発展し、現在は全域が市街化区域となっています。高速道路各路線が結節する道路交通上の要衝でもあり、大学など教育機関も多く立地しています。

神崎川・猪名川の沖積低地は、大阪市北部に続く工業地帯となっており、機械器具・金属工業・製油工業などの工場が建ち並んでいます。また、伊丹市・池田市にまたがって大阪国際空港があり、阪神地方における空の玄関となっています。市域の南側を神崎川が西に流れており、市域の西側では旧猪名川が、東側では高川が、その間を天竺川が南流して神崎川に合流しています。菟川は、天竺川に合流する支流です。天竺川、高川は天井川となっており、市域の北東部を除いて、大半が内水域となっていることから、洪水発生時の被害は甚大なものとなります。

### ③吹田市

延暦年間（782～806）に三国川を改修して京都への河川交通の要地となり、江戸時代には亀岡街道・伊丹街道の分岐点となり、交通上の要地として発展しました。明治時代には鉄道が開通、さらに酒造工場が進出するなど大阪北部の工業地域としても発展しました。大正時代からは大阪近郊のベッドタウンとして発展してきましたが、昭和30年代に始まった千里ニュータウンの建設、昭和45年に開催されたわが国最初の万国博覧会は、まちの様相を大きく変えました。市域北東部には、万国博覧会跡地付近を上流端とする新大正川、山田川があり、市域の東側では正雀川がそれぞれ市域の南東側を流れる安威川に向かって流れています。市域の西側では高川が、千里ニュータウンの南側を上流端とする上の川が糸田川に合流後、南流して神崎川に合流しています。ほとんどの河川が、千里ニュータウンの建設や万国博覧会に関連して河川改修などが行なわれ、その後河川沿いに住宅などが建設され、住宅が連続して張り付いた状態（このような状態を人家連担と呼んでいます）となっています。



図-1.2 流域市の概要 (1/2)

#### ④摂津市

大阪平野北部、淀川流域に位置し、低湿地帯にあたるため洪水の被害も多かったため、輪中堤<sup>わちゅうづつ</sup>や段倉造り（家の床より一段高く石を積み上げた倉）などの水との戦いの中で生み出された跡が残っています。戦前・戦後は鉄道・道路網の整備に伴い、大阪中心部に近いことも手伝って、企業が相次いで進出しました。高度成長期に急激な都市化が進み、大阪市近郊の中堅産業・住宅都市として発展しています。市域の西部では正雀川が、市域の北西部では正雀川分水路が山田川に合流後、安威川に向かって流れています。山田川の東側では、大正川が境川を合流後、山田川と平行して安威川に向かって流れています。

#### ⑤茨木市

かつては片桐且元の城下町として栄え、慶長6年（1601）に且元が大和国竜田に移封後は天領となり、京都、大阪を結ぶ亀岡街道の交易都市として栄えました。明治以降は三島郡の中心都市となり、鉄道・産業道路の開通後は工業都市として、また住宅・文化都市として発展し、山麓地域には大学なども移転・新設されています。市域の東部を安威川が南北に縦断しており、北部から下音羽川、茨木川の順に合流しています。茨木川は、市域の中西部で勝尾寺川と佐保川に別れており、勝尾寺川は、市域の西部でさらに箕川や川合裏川に別れています。市域の南西部では、大正川が三条川を合流後、摂津市域へ流れています。中西部では、彩都（国際文化公園都市）整備が進められています。安威川上流においては、昭和42年7月の北摂豪雨被害を契機に計画された、安威川ダムの本体建設工事を進めています。

#### ⑥高槻市

市内を横断する西国街道は、8世紀の山陽道の後身にあたり、約8.1kmにわたり市域を東西に貫いています。京から太宰府に通じ、淀川とともに三島地域の政治・経済に大きな影響を及ぼしました。市域の南西部が安威川流域に入っており、土室川分水路が整備され、安威川に合流しています。また、市域北部の檜田地区内を安威川が南西方向に流れています。

#### ⑦箕面市

市域の大部分は秩父古生層からなる山地で南部は箕面山地と千里山丘陵との間に開けた平野部となっています。明治時代に観光のため鉄道を開通させて以来、住宅地として発展しています。市域の東部を勝尾寺川と箕川が茨木市域に向けて流れています。勝尾寺川には、裏川や川合裏川が合流しており、彩都の開発に伴う整備が進められており、平成16年度には、そのまち開きが行われました。箕川には郷之久保川が合流しています。

出典  
「日本歴史地名大系 大阪府の地名」平凡社  
摂津市ホームページ、Yahoo!ホームページ  
「ふるさとの文化財 郷土資料事典 大阪府」人文社

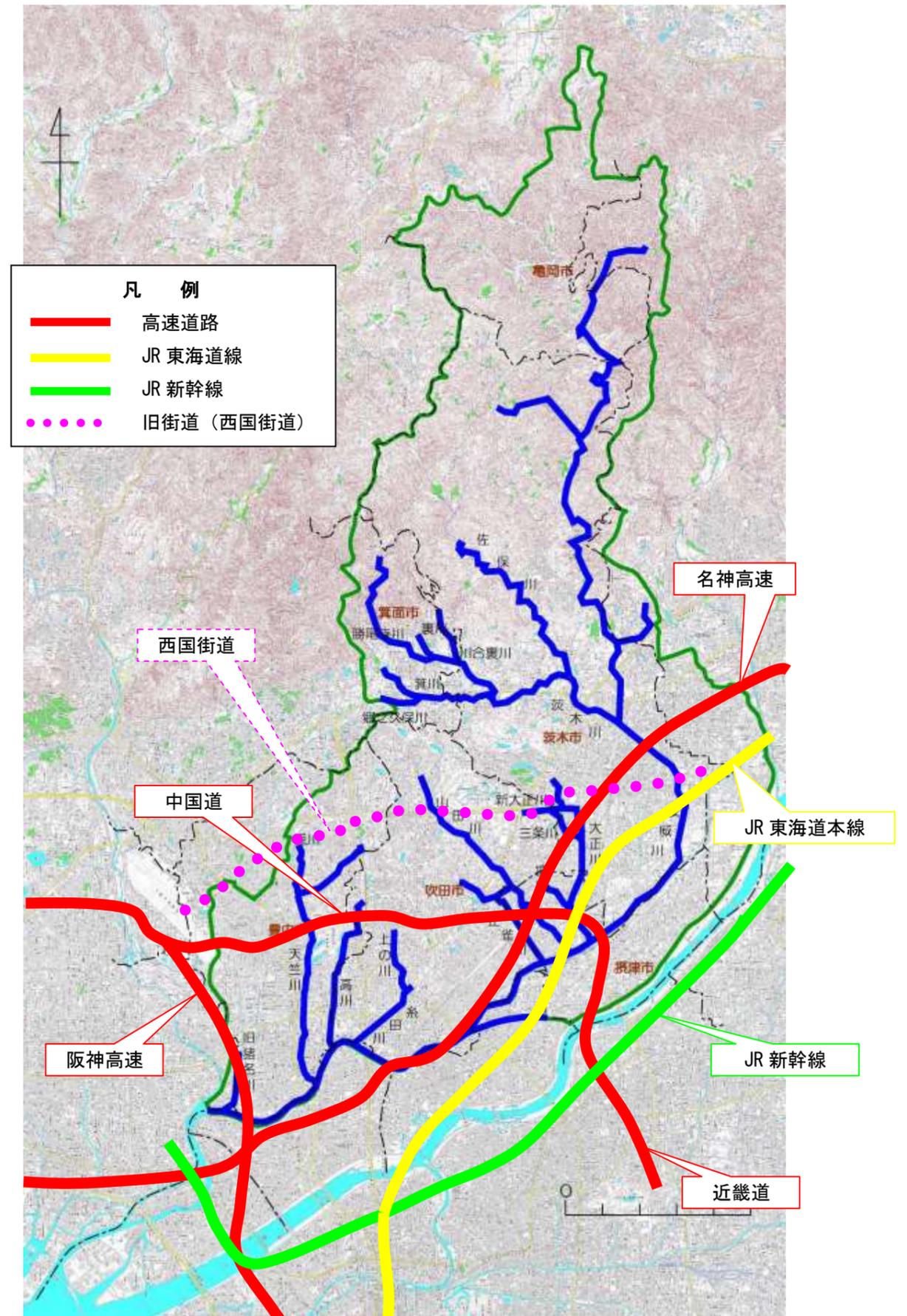


図-1.3 流域市の概要 (2/2)

1) 輪中堤：特定の集落を洪水から守るために、集落を囲むように造る堤。

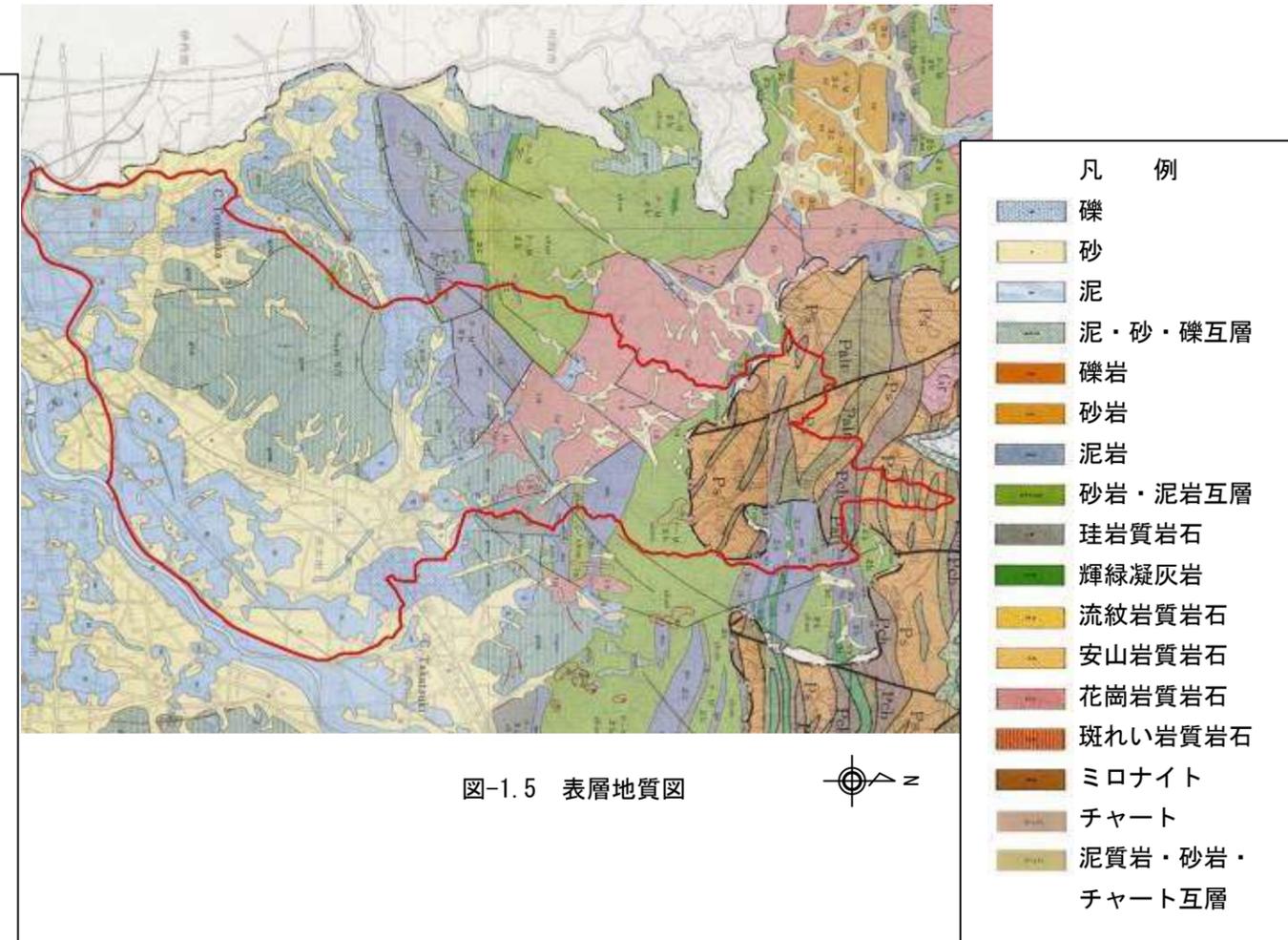
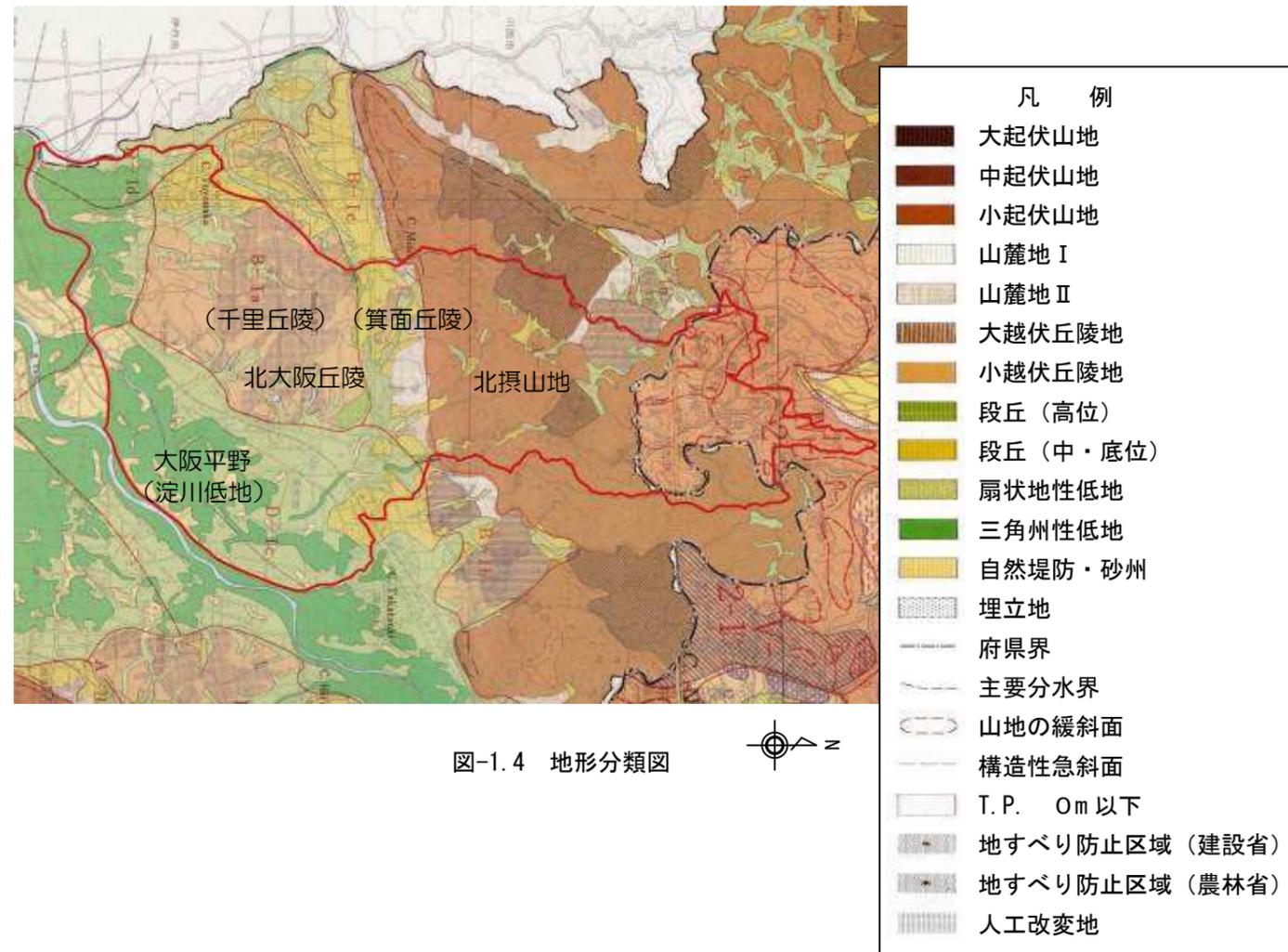
## 2. 流域の特性

### (1) 自然環境特性

#### ①地形・地質

神崎川ブロックの地形は、上流の山地部は北摂山地、丘陵部は北大阪丘陵、平野部は大阪平野で構成されています。北摂山地は急峻な斜面が発達していますが、山頂部には定高性<sup>2)</sup>がみられ、標高は700m以下で、全体としては高原状の地形的特徴を示しています。

上流の山間部では、砂岩・泥岩の互層、泥岩及び花崗岩質岩石等がみられ、低地部には未固結堆積物の砂や泥が広く分布しています。西部の丘陵部の地質は、泥・砂・礫の互層となっています。



出典：土地分類図/国土庁土地局（昭和51年）

<sup>2)</sup> 定高性：稜線が同じような高さで長く続いていること。

②気候

神崎川ブロックの気候は、山間部と平地部との違いはあるものの、全体的には比較的温暖な瀬戸内気候区に属し、四季を通じて穏和で降水量が少ないという特性があります。

大阪管区気象台豊中観測所の20年間（平成9～28年）の観測結果によると、年平均気温は16.5℃、年間降水量は、1,329mmとなっています。



出典:「大阪気象百年」大阪管区気象台

図-1.6 気候区分図

豊中 平年値(年・月ごとの値) 主要要素

要素	降水量 (mm)	平均気温 (℃)
統計期間	1981～2010	1981～2010
資料年数	30	30
1月	43.0	4.8
2月	61.3	5.3
3月	103.0	8.6
4月	103.0	14.3
5月	148.4	19.0
6月	188.8	23.0
7月	157.4	26.9
8月	105.6	28.3
9月	158.6	24.4
10月	106.1	18.1
11月	67.3	12.4
12月	40.2	7.2
年	1280.4	16.0

図-1.7 豊中観測所の平均値(年・月ごとの値) (1981～2010年)

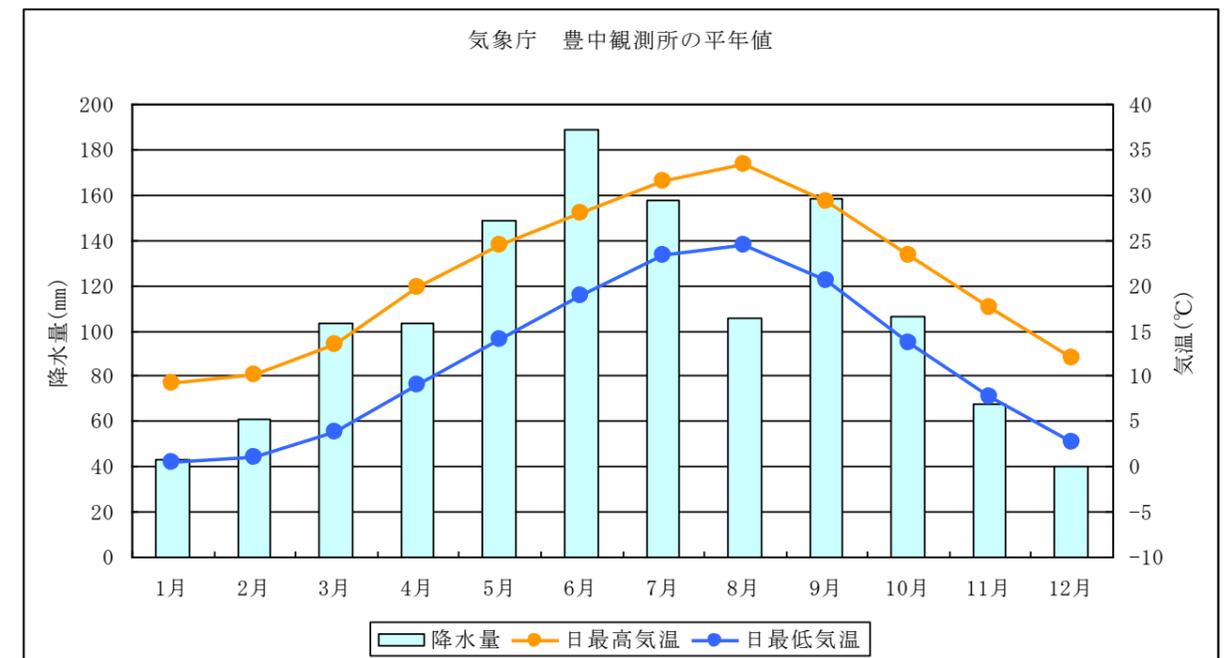


図-1.8 豊中観測所の月別の降水量と気温(昭和56～平成22年:30年間)

③植物

神崎川ブロックの植生は、自然環境保全基礎調査<sup>3)</sup>（第5回）によると、上流の山地部は、そのほとんどは人の手が入った代償植生<sup>4)</sup>であり、山地部にモチツツジーアカマツ群集、コナラ群集が広く分布します。自然植生としては、アラカシ群落<sup>しもとおわ</sup>が安威川上流の下音羽川合流点付近に分布しています。近年、北摂山系では、ナラ枯れ被害が確認されています。

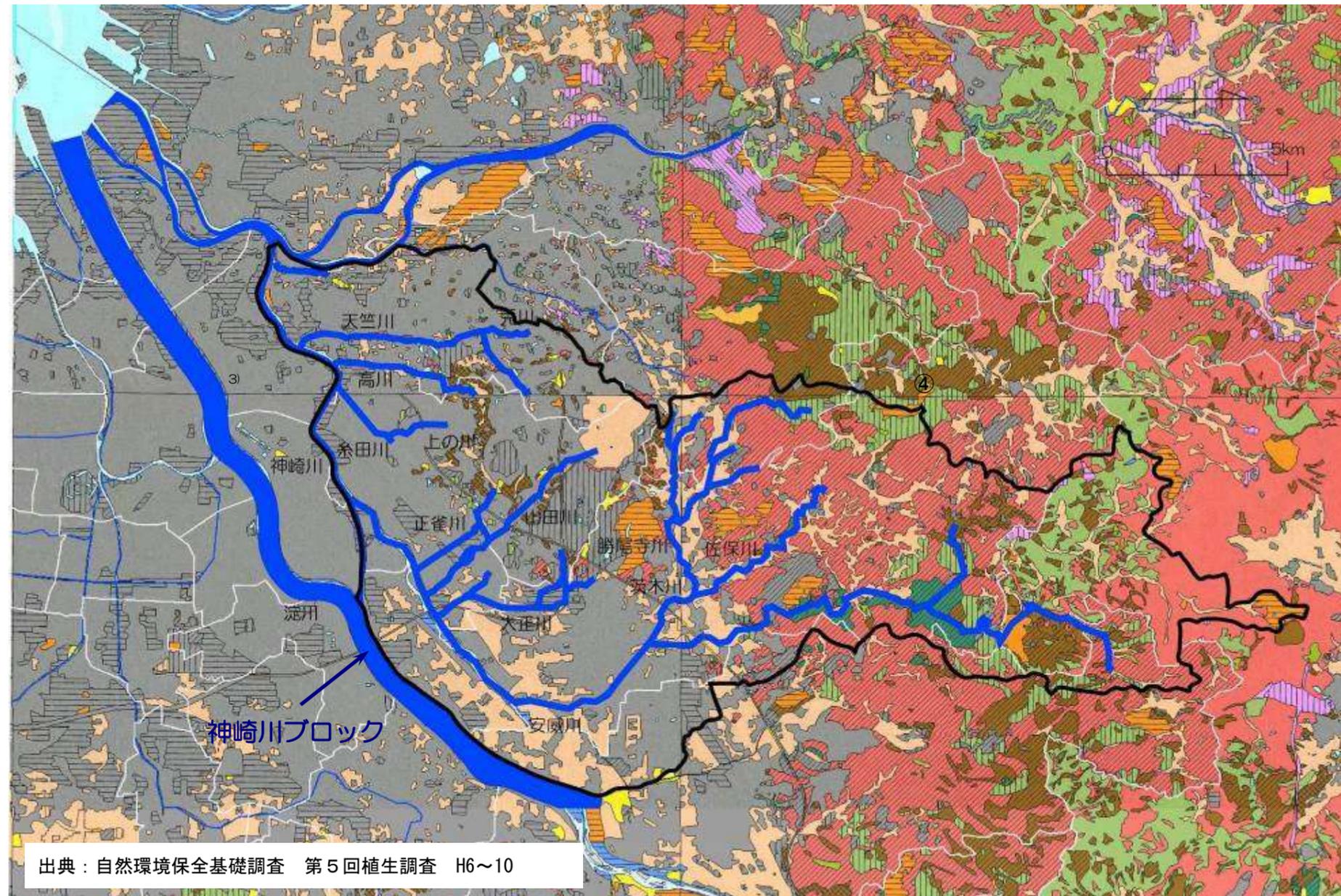


図-1.9 植生の状況図

<sup>3)</sup> 自然環境保全基礎調査: 全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために、環境省が昭和48年度より自然環境保全法第4条の規定に基づき概ね5年ごとに実施している調査。第5回は平成5~10年度で実施。(環境省自然環境局生物多様性センターHP)。  
<sup>4)</sup> 代償植生: 人間の活動(伐採、植林等)によってその土地本来の植生(自然植生)に代わって生じた植生のこと。

魚類

神崎川ブロックの河川を含む北摂エリアの平成 25 年度に行われた調査では、安威川、茨木川、佐保川、山田川、勝尾寺川、大正川、芥川、女瀬川、檜尾川、東檜尾川、水無瀬川、天竺川、糸田川の 13 河川で、7 目 13 科 32 種の魚類が確認されています。

分類群別では、コイ科が 16 種、ハゼ科が 4 種確認されています。また、生活史別で見ると、純淡水魚 28 種、回遊魚 1 種、汽水<sup>5)</sup>・海産魚 3 種と淡水魚が多く、汽水魚・回遊魚が少ない状況にあります。

多くの河川に生息しているのは、オイカワ・カワムツ・ドンコ等であり、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）、タウンギ等の外来種も 13 河川のうち 7 河川で確認されています。また、確認種のうち貴重種に該当するハス、ムギツク、タモロコ、ドジョウ、ギギ、ミナミメダカの 6 種が確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査（昭和 53 年度から）では、安威川及びその支川やため池において合計 8 目 17 科 43 種の魚類が確認されています。確認種のうち貴重種に該当するアユ、カジカ、アジメドジョウ、アカザ等の 22 種が確認されています。

⑤底生動物

神崎川ブロックの河川を含む北摂エリアの平成 25 年度に行われた調査では、安威川、茨木川、佐保川、山田川、勝尾寺川、大正川、芥川、女瀬川、檜尾川、東檜尾川、水無瀬川、天竺川、糸田川の 13 河川で、23 目 73 科 163 種の底生動物が確認されています。

分類群別では、ハエ目が 32 種、カゲロウ目が 30 種確認され、昆虫網の種数が多くなっています。アメリカナミウズムシ、サカマキガイ、フロリダマミズヨコエビ、アメリカザリガニの 4 種の外来種が確認されています。また、確認種のうち貴重種に該当するキイロサナエが確認されています。この他、過去の調査で、セタシジミが神崎川・大正川で確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査（昭和 53 年度から）では、安威川及びその支川やため池において合計 31 目 135 科 514 種の底生動物が確認されています。分類群別では、ハエ目が 127 種、カゲロウ目が 71 種、トビケラ目が 69 種、トンボ目が 59 種確認され、昆虫網の種類が多くなっています。また、確認種のうち貴重種に該当するオオルリボシヤンマ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ノシメトンボ、ミヤマアカネ等の 50 種が確認されています。

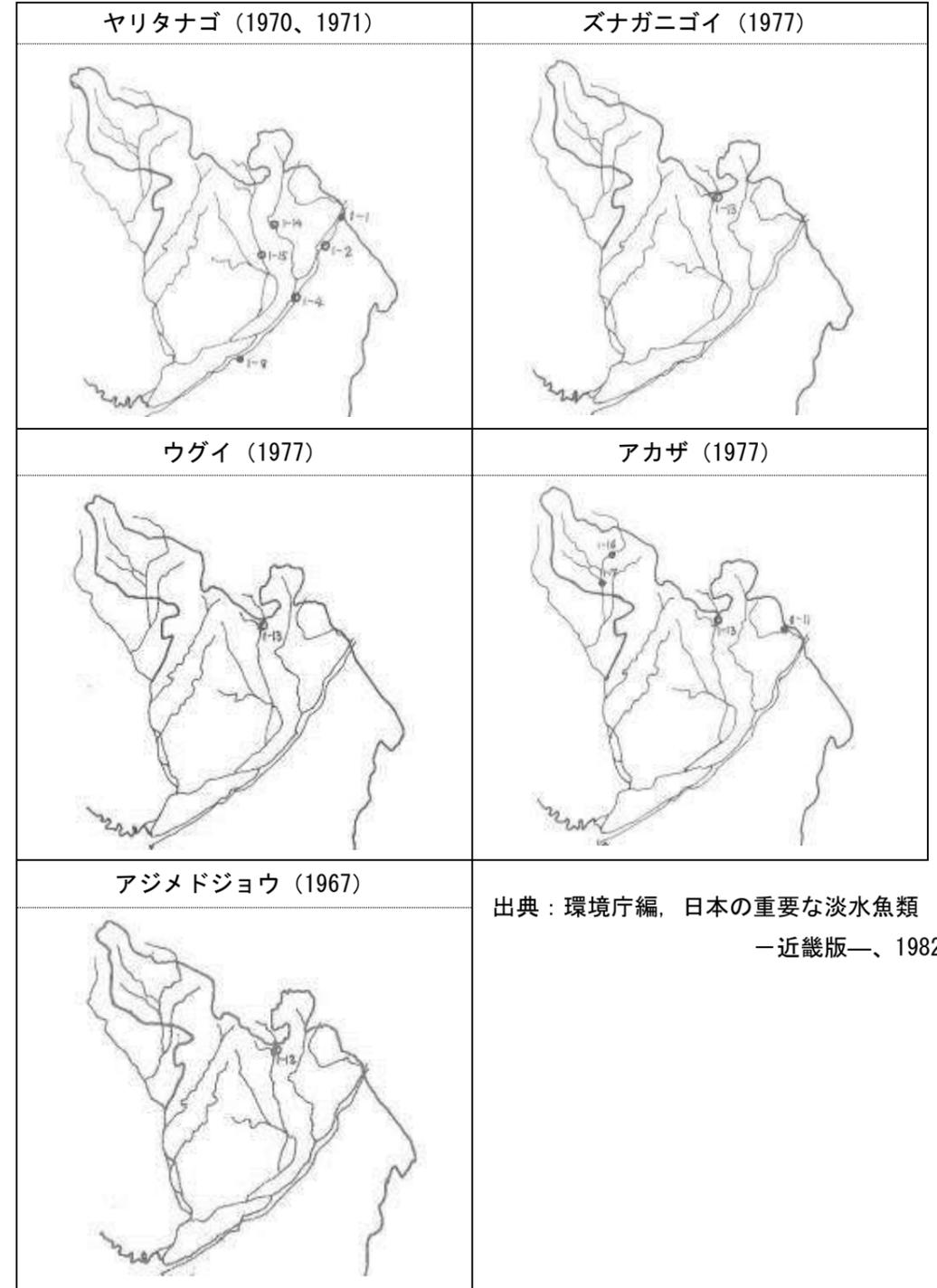
表-1.3 第 2 回自然環境調査記載種の経年変化

年	1967	1970	1971	1977	1984	1986	1992	1995	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
アカザ				○ <sup>1)</sup>	○	○	○			○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>			○ <sup>5)</sup>	○ <sup>7)</sup>	○ <sup>6)</sup>	○ <sup>7)</sup>											
ウグイ				○ <sup>1)</sup>																								
ズナガニゴイ				○ <sup>1)</sup>				○	○ <sup>4)</sup>		○ <sup>4)</sup>										○ <sup>7)</sup>		○ <sup>7)</sup>					
ヤリタナゴ		○ <sup>2)</sup>	○ <sup>2)</sup>																									
アジメドジョウ	○ <sup>3)</sup>				○	○			○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	○ <sup>7)</sup>	○ <sup>5)</sup>	○ <sup>7)</sup>	○ <sup>6)</sup>	○ <sup>7)</sup>											

- 1) 大阪府陸水生物研究会、大阪府下の川と魚(1978年)
- 2) 森下郁子、淀川水系生物調査報告書(1973年)
- 3) 水野信彦、大阪府の川と魚の生態(1968年)
- 4) 大阪府安威川ダム魚類補足調査(1997~2000年)
- 5) 安威川ダム水辺環境調査(2002年)
- 6) 安威川ダム動植物詳細調査(2004年)
- 7) 安威川ダム魚類補足調査(2001~2015年)

<sup>5)</sup> 汽水：淡水と海水が混在した状態のこと。

第 2 回自然環境保全調査に今回の調査結果を加え、重要な淡水魚のデータを基に当時生息するとされた、アカザ、ウグイ、ズナガニゴイ、ヤリタナゴ、アジメドジョウの経年変化を示しました。これによればヤリタナゴは 1971 年、ウグイは 1977 年以降確認されていません。



出典：環境庁編、日本の重要な淡水魚類—近畿版—、1982

図-1.10 淡水魚類概略分布図



アカザ



アジメドジョウ



ズナガニゴイ

表-1.4 レッドリストにおけるカテゴリーとその定義

環境省レッドリスト 2015		大阪府レッドリスト 2014	
絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	絶滅	大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種		
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧 IA 類 (CR)	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種		
絶滅危惧 IB 類 (EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い		
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種	絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	情報不足	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの		

表-1.5 神崎川ブロックにおいて注目すべき水生動物

分類	種名	レッドリストカテゴリー	確認箇所
魚類	タモロコ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川、天竺川、勝尾寺川
	ハス	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ドジョウ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト情報不足	安威川、天竺川、佐保川
	シマドジョウ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ヨドコガタスジシマドジョウ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 I B 類	安威川
	チュウガタスジシマドジョウ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	アジメドジョウ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ギギ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ムギツク	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ズナガニゴイ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類	安威川
	アカザ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ミナミメダカ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川、大正川、勝尾寺川
	カジカ (大卵型)	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	オオヨシノボリ	大阪府レッドリスト情報不足	大正川、勝尾寺川
底生動物	オオタニシ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	神崎川
	モノアラガイ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川、天竺川、大正川、勝尾寺川
	トンガリササノハガイ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	神崎川
	セタシジミ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	神崎川、大正川
	アオサナエ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ホンサナエ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ミヤマサナエ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
キイロサナエ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川	

⑥鳥類

神崎川ブロックの鳥類は、これまで行われた調査（平成 60 年度、平成 3 年度、平成 7 年度、平成 8 年度、平成 13 年度、平成 14 年度）によると、24 河川のうち安威川、大正川、佐保川の 3 河川と天竺川近傍にある服部緑地公園と高川近傍の池で、15 目 39 科 135 種の鳥類が確認されています。

河川別で見ると、安威川の 128 種が最も多く、高川近傍の池の 13 種が最も少ない状況にあります。生活環境を見ると、水辺や池沼に生息するサギ類やカモ類が多く出現しており、冬期に訪れる渡り鳥も多い状況にあります。大阪府レッドリスト：絶滅危惧 I 類の種としては、ハチクマ、サシバ、チュウヒが安威川周辺で確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査（昭和 53 年度から）では、安威川ダム予定地及びその周辺において合計 15 目 42 科 140 種の鳥類が確認されています。確認種のうち貴重種に該当するオオタカ、サシバ、コチドリ、イカルチドリ、フクロウ、ヤマセミ、カワガラス等の 58 種が確認されています。

⑦哺乳類

神崎川ブロックの哺乳類は、これまで行われた調査（平成 3 年度、平成 7 年度、平成 8 年度、平成 13 年度、平成 14 年度）によると、テン、イタチ、キツネ、ニホンリスなど、7 目 12 科 20 種が確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査（昭和 53 年度から）では、安威川ダム予定地及びその周辺において合計 7 目 15 科 23 種の哺乳類が確認されています。確認種のうち貴重種に該当するキクガシラコウモリ、キツネ、イタチ等の 6 種が確認されています。そのほか、外来種のアライグマ、ヌートリアについても確認されています。

⑧両生類・爬虫類

神崎川ブロックの両生・爬虫類は、これまで行われた調査（平成 3 年度、平成 4 年度、平成 7 年度、平成 8 年度、平成 13 年度、平成 14 年度）によると、両生類は 2 目 7 科 15 種、爬虫類は 2 目 6 科 13 種が確認されています。安威川上流や佐保川では、オオサンショウウオ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧 II 類、環境省レッドリスト：絶滅危惧 II 類、天然記念物）の生息が確認されています。

安威川ダム予定地周辺の調査（昭和 53 年度から）では、安威川ダム予定地及びその周辺において爬虫類で合計 2 目 7 科 14 種、両生類で 2 目 7 科 16 種が確認されています。確認種のうち貴重種に該当する爬虫類はニホンイシガメ、ヒバカリ、ヤマカガシ等の 5 種が、両生類はオオサンショウウオ、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の 10 種が確認されています。



オオサンショウウオ

表-1.6 神崎川ブロックにおいて注目すべき陸生動物

分類	種名	レッドリストカテゴリー	確認箇所
鳥類	ミゾゴイ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ケリ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト情報不足	安威川、大正川
	イソシギ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	サシバ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川、佐保川
	クマタカ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 IB 類	安威川
	オオタカ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	チュウヒ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 IB 類	安威川
	ハチクマ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ヤマセミ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	カワガラス	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川、佐保川
	センダイムシクイ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川、佐保川
	サンショウクイ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	セッカ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川、佐保川
	フクロウ等 58 種	大阪府レッドリスト 環境省レッドリスト 等	安威川
哺乳類	コキクガシラコウモリ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	キクガシラコウモリ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	カヤネズミ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	キツネ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類	安威川
	ニホンイタチ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川、佐保川
は虫類	アナグマ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ニホンイシガメ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川、佐保川
	タカチホヘビ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	シロマダラ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ヒバカリ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
両生類	ヤマカガシ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	カスミサンショウウオ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ヒダサンショウウオ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	オオサンショウウオ	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類 環境省レッドリスト絶滅危惧 III 類 文化財保護法特別天然記念物	安威川
	アカハライモリ	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ニホンヒキガエル	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ニホンアカガエル	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	ヤマアカガエル	大阪府レッドリスト絶滅危惧 II 類	安威川
	トノサマガエル	大阪府レッドリスト準絶滅危惧 環境省レッドリスト準絶滅危惧	安威川
	ツチガエル	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川
シュレーゲルアオガエル	大阪府レッドリスト準絶滅危惧	安威川	

表-1.7 調査文献リスト

文献No.	調査文献名・作成者・対象年度等	対応河川No.	資料番号	位置情報
1	大阪府環境白書 平成13年版 (大阪府)	①		不明
2	大阪市環境白書 平成13年版 (大阪市)	①		不明
3	大阪府における保護上重要な野生生物 -大阪府レッドデータブック- (大阪府 平成12年3月)	①, ③, ④, ⑤		△
4	一級河川茨木川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成5年3月)	①, ⑪, ⑫, ⑬	①-4, ⑪-4, ⑫-4, ⑬-4	○
5	一級河川箕面川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成10年3月)	①	①-5	○
6	大阪みどりのマップ (大阪府 平成13年1月)	①, ③, ④, ⑤		不明
7	現存植生図 (大阪・兵庫) ( (財) 自然環境センター )	①		不明
8	土地分類図 大阪府 ( (財) 日本地図センター 昭和51年 )	②		不明
9	第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 (環境庁 昭和56年)	②		△
10	第2回自然環境保全基礎調査 哺乳類メッシュ図 (環境庁 昭和57年)	②		△
11	第3回自然環境保全基礎調査 現存植生図 (環境庁 昭和60年)	②		不明
12	第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 (環境庁 平成元年)	②		△
13	第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 (環境庁 平成7年)	②		△
14	安威川水生生物現況調査報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 昭和60年)	②	②-14	○
15	安威川河川整備全体計画調査等業務報告書 (大阪府茨木土木事務所 昭和61年)	②	②-15	○
16	安威川水生生物現況調査報告書 その2 (大阪府北部特定事業建設事務所 昭和62年)	②	②-16	○
17	安威川ダム水質及び河川現況調査業務委託報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 平成3年)	②	②-17	○
18	安威川ダム河川現況調査及び影響予測検討業務委託報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 平成4年)	②	②-18	○
19	安威川ダム工事用道路に係る水生生物調査検討委託報告書 (大阪府安威川ダム建設事務所 平成8年)	②		不明
20	安威川総合開発事業に係る環境影響評価書 (大阪府 平成8年)	②	②-20	○
21	一級河川楠根川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成8年)	②	②-21	○
22	安威川上流多自然型河道基本計画業務報告書 参考資料 (大阪府茨木土木事務所 平成8年)	②	②-22	○
23	一級河川安威川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府茨木土木事務所 平成11年)	②	②-23	○
24	新修 豊中市史 -自然- (豊中市 平成11年3月)	③, ④, ⑤		×
25	豊中市 市街地図 縮尺1:12,000 (豊中市)	③, ④, ⑤		×

文献No.	調査文献名・作成者・対象年度等	対応河川No.	資料番号	位置情報
26	フィールドガイド とよなか むし (豊中市教育委員会 平成7年9月)	③, ④, ⑤		×
27	一級河川天見川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成7年3月)	③	③-27	○
28	一級河川千里川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成13年11月)	③	③-28	○
29	ホームページ 和田の鳥小屋 (和田岳)	③, ④, ⑤	③-29, ⑤-29	○
30	河川水辺の国勢調査様式集	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		×
31	多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成6年3月)	⑥	⑥-31	○
32	一級河川大正川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成13年11月)	⑥	⑥-32	○
33	すいたの環境 平成12年度版 (吹田市)	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		△
34	生態調査資料 (味舌水路) (吹田市 平成11年12月)	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		×
35	茨木市鳥類調査報告書 (茨木市 昭和63年3月)	⑥, ⑪, ⑫, ⑬	⑥-35, ⑪-35, ⑫-35, ⑬-35	○
36	自然環境マップ (摂津市 平成8年3月)	⑥, ⑦		×
37	川の生きものを調べよう (環境省水環境部 平成12年3月)	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		×
38	第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁 昭和56年)	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		△
39	J-IBIS 生物多様性情報システム 環境省第5回植生調査 1995-1997	⑥, ⑦, ⑧, ⑨		△
40	第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁 昭和54年)	⑩, ⑪, ⑫, ⑬		不明
41	第3回自然環境保全基礎調査 現存植生図 (環境庁 昭和60年)	⑩, ⑪, ⑫, ⑬		不明
42	一級河川箕面川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成10年3月)	⑪, ⑫	⑪-42, ⑫-42	○
43	平成7年度茨木川簡易動植物調査結果 (茨木土木 平成8年3月)	⑪	⑪-43	○
44	国際文化公園都市建設事業に係る環境影響評価 (現況調査) 業務 水生生物編 (都市整備公団 平成1年6月)	⑪, ⑫, ⑬	⑪-44, ⑫-44, ⑬-44	○
45	国際文化公園都市土地区画整理事業に係る環境影響評価書 (大阪府 平成4年3月)	⑩, ⑪, ⑫, ⑬	⑪-45	○
46	環境プランいばらき21 (茨木市 平成11年3月)	⑩, ⑪, ⑫, ⑬		不明
47	一級河川山田川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成14年11月)	⑦, ⑩, ⑫, ⑬	⑦-47, ⑩-47, ⑫-47, ⑬-47	○
48	安威川ダム自然環境保全対策検討業務委託報告書 (大阪府安威川ダム建設事務所 平成15年3月)	②	②-24	○
49	平成13年度佐保川自然環境調査業務委託報告書 (平成14年3月) 平成14年度佐保川自然環境調査業務委託報告書 (平成15年3月) 平成14年度佐保川自然環境調査業務委託 (その2) 報告書 (平成15年3月)	⑪	⑪-46	○
50	平成25年度一級河川安威川外河川水辺環境調査委託報告書 (大阪府茨木土木事務所 平成26年3月)	②, ③, ⑥, ⑦, ⑧, ⑩, ⑪, ⑫	②-48, ③-48, ⑥-48, ⑦-48, ⑧-48, ⑩-48, ⑪-48, ⑫-48,	○

\*1: 対応河川No.を下記に示す。

①: 神崎川、②: 安威川、③: 天竺川、④: 兎川、⑤: 高川、⑥: 大正川、⑦: 山田川、⑧: 糸田川、⑨: 上の川、⑩: 茨木川、⑪: 佐保川、⑫: 勝尾寺川、⑬: 川合裏川

\*2: 資料番号は、「対応河川No.」-「文献No.」とする。

\*3: 位置情報「○」は、位置情報のあるもの。「△」は、位置情報がおおまか(大阪北部等)なもの。

「×」は、位置情報のないもの。「不明」は、原典未入によるもの。

表-1.8 調査実施状況の一覧表／神崎川

項目	河川名	神崎川	
	資料番号	①-4	①-5
植物			
哺乳類			
鳥類			
爬虫類			
両生類			
昆虫類			
魚類		H4.11 7地点 目視観察、 任意採集	H9.11 7地点 目視観察、 任意採集
底生動物		H4.11 7地点 定量採集、 任意採集	H9.11 7地点 定量採集
付着藻類			H9.11 2地点3ヶ所 定量採集

表-1.9 調査実施状況の一覧表／安威川

項目	河川名 資料番号	安威川														
		②-14	②-15	②-16	②-17	②-18	②-20	②-21	②-22	②-23	②-24	②-48				
植物			S60.9 95地点 植生調査													
哺乳類																
鳥類			S60.12 13区間 不明													
爬虫類																
両生類																
昆虫類																
魚類																
底生動物																
付着藻類																
魚類		S59.9 3地点 潜水観察、 任意採集 S59.12 11地点 潜水観察、 任意採集 S60.2 11地点 潜水観察、 任意採集 S59.9 2地点 7ヶ所の調査 (潜水観察) S59.10 2地点 7ヶ所の調査 (潜水観察)	S60.12 5地点 任意採集	S61.5 7地点 任意採集 S61.8 7地点 潜水観察、 任意採集	H2.12 12地点 目視観察、 任意採集	H4.6 3地点 目視観察、 任意採集 H4.9 3地点 目視観察、 任意採集										
底生動物		S59.9 3地点 定量採集 S59.12 11地点 定量採集 S60.2 11地点 定量採集		S61.5 7地点 定量採集、 任意採集 S61.8 7地点 定量採集、 任意採集	H2.9 5地点 定量採集 H2.12 12地点 定量採集	H4.6 3地点 定量採集 H4.9 3地点 定量採集 H4.11 3地点 定量採集										
付着藻類		S59.10 S59.10～S60.1 S59.12 S60.2 上記の期間で、 11地点 定量採集		S61.5 7地点 定量採集 S61.8 7地点 定量採集	H2.9 6地点 定量採集											

安威川ダム総合開発事業に係る環境影響評価書

安威川ダム自然環境保全対策委員会

\*不明：調査方法等の記述無く、不明。  
\*資料番号：②-22は、既出報告書類をまとめたもの。そのうち、文献リスト上にない報告書のデータ分を記載する。

表-1.10 調査実施状況の一覧表／天竺川、兎川、高川

項目	河川名 資料番号	天竺川				兎川		高川		服部緑地公園
		③-6	③-27	③-28	③-29	③-48	④-6	⑤-6	⑤-29	③, ⑤-29
植物	不明						不明	不明		
哺乳類										
鳥類					H9.12 3地点(池) 不明			H9.12 2地点(池) 不明	H10.5 1地点 不明	
爬虫類										
両生類										
昆虫類										
魚類		H6.9 3地点 任意採集	H13.9 3地点 定量採集		H25.11 3地点 任意採集					
底生動物		H6.9 3地点6ヶ所 定量採集	H13.9 3地点6ヶ所 定量採集		H25.11 3地点 定量採取					
付着藻類		H6.9 3地点 定量採集								

\*不明：原典未入により、不明。

\*服部緑地公園は河川ではないが、天竺川、高川に挟まれた空間で、文献No.29「ホームページ 和島の島小屋」に情報があり、資料番号は、「③, ⑤-29」とし、記載する。

表-1.11 調査実施状況の一覧表／茨木川、佐保川、勝尾寺川、川合裏川

項目	河川名 資料番号	茨木川		佐保川				勝尾寺川					川合裏川						
		⑩-47	⑩-48	⑪-4	⑪-42	⑪-43	⑪-44	⑪-45	⑪-46	⑪-48	⑫-4	⑫-42	⑫-44	⑫-47	⑫-48	⑬-44	⑬-47		
植物						H7.6 2ルート 植物相調査 相観植生調査 高木分布状況調査		国際文化公園都市建設事業に係る環境影響評価書 佐保川自然環境検討委員会											
哺乳類						H7.6 3ルート フィールド調査													
鳥類						H7.6 3ルート 任意観察													
爬虫類						H7.6 3ルート 任意観察													
両生類						H7.6 3ルート 任意観察													
昆虫類																			
魚類		H14.9 1地点 任意採集	H25.11 1地点 任意採取	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 4地点 任意採集		S63.5 10地点 (上記中、 5地点は池) 定量採集			H25.11 2地点 任意採取	H4.9 3地点 任意採取	H9.11 3地点 任意採取	S63.5 4地点 (上記中、 2地点は池) 定量採集	H14.9 1地点 任意採取	H25.11 1地点 任意採取	S63.5 3地点 (上記中、 1地点は池) 定量採集	H14.9 1地点 任意採取		
							S63.8 10地点 (上記中、 5地点は池) 定量採集						S63.8 4地点 (上記中、 2地点は池) 定量採集				S63.8 3地点 (上記中、 1地点は池) 定量採集		
底生動物		H14.9 1地点 定量採集	H25.11 1地点 定量採取	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 4地点 定量採集	H7.6 3ルート 任意採集	不明			H25.11 2地点 定量採取	H4.9 3地点 任意採取	H9.11 3地点 定量採取		H14.9 2地点 定量採取	H25.11 2地点 定量採取	不明	H14.9 1地点 定量採取		
付着藻類				H4.9 3地点 定量採集	H9.11 4地点5ヶ所 定量採集		不明				H4.9 3地点 定量採取	H9.11 3地点 定量採取				不明			

\*不明：調査日等の記述無く、不明（記載分に関しては表に記した）。

\*奥池は佐保川、勝尾寺川の間であり、文献No.44「国際文化公園都市建設事業に係る環境影響評価（現況調査）業務 水生生物編」に情報があるが、どちらの河川に属するのか不明の為、資料番号は、「⑪, ⑫-44」とし、記載する。

表-1.12 調査実施状況の一覧表／大正川、山田川、糸田川、上の川

項目	河川名 資料番号	大正川				山田川		糸田川		上の川
		⑥-31	⑥-32	⑥-64	⑥-48	⑦-47	⑦-48	該当資料無し	⑧-48	該当資料無し
哺乳類										
鳥類				不明(繁殖期) 1ルート ライセンス						
				不明(越冬期) 1ルート ライセンス						
爬虫類										
両生類										
魚類		H5.8 3地点 任意採集	H13.8 1地点 定量採集		H25.12 1地点 任意採取	H14.9 1地点 任意採集	H25.11 1地点 任意採取		H25.11 1地点 任意採取	
底生動物		H5.8 3地点 定量採集	H13.8 1地点2ヶ所 定量採集		H25.12 1地点 定量採取	H14.9 1地点2ヶ所 定量採集	H25.11 1地点 定量採取		H25.11 1地点 定量採取	
付着藻類		H5 2地点3ヶ所 定量採集								

\*不明：原典未入により、不明。

○安威川ダムに係る動植物調査概要

安威川ダム建設にあたり、昭和53年度より事業予定地周辺の動植物調査を実施してきました。この調査結果をもとに平成6年3月に環境影響評価準備書、平成8年5月に環境影響評価書をそれぞれ作成しています。

また平成9年以降、環境影響評価手続き後の補足調査を実施しています。

環境影響評価の手続き完了時点での、確認された動植物種数は約2000種でしたが、その後も継続して調査が行われており、平成27年度末時点での動植物種数は4,742種となっています。

また、平成14年5年には各分野で個別に検討してきた自然環境保全対策の整合を図り、総合的な自然環境保全対策の基本方針（マスタープラン）や実施計画を策定するために「安威川ダム自然環境保全対策検討委員会」が設置され、調査・検討が進められています。

平成17年8月8日に「安威川ダム自然環境保全マスタープラン」が策定され、委員会より、意見書を附して了承を得ています。

安威川ダムの自然環境の現状を把握するため、下記に示す文献を基に調査結果を整理しています。

表-1.13 安威川ダムの自然環境の現状把握における調査対象一覧（1/5）

No.	報告書名	年月	調査・検討機関	調査項目													
				哺乳類	鳥類	オオタカ	両生・爬虫類	陸上昆虫類	植物	魚類	底生動物	付着藻類	水質等	その他			
1	大阪府の川と魚の生態	S43	大阪府水産林務課								○						
2	大阪府下の川と魚	S53	大阪府農政課水産室								○						
3	安威川ダム周辺環境調査 報告書	S54.3	大阪府北部ダム建設事務所、サンコーコンサルタンツ(株)		○					○	○	○					
4	安威川ダム周辺環境調査 報告書 第二期調査	S54.12	大阪府北部ダム建設事務所、サンコーコンサルタンツ(株)	○	○		○	○									
5	大阪府下の川と魚	S58	大阪府農林部水産室							○							
6	安威川水生生物現況調査報告書	S60.3	大阪府北部特定事業建設事務所、(社)淡水生物研究所							○	○	○					
7	安威川水生生物現況調査報告書(その2)	S62.3	大阪府北部特定事業建設事務所、(社)淡水生物研究所							○	○	○					
8	大阪府下の川と魚	H1	大阪府農林水産部水産課							○							
9	安威川ダム環境影響予測検討及び調査業務(環境影響予測検討編)報告書	H1.3	大阪府北部特定事業建設事務所、日本工営(株)	○	○		○	○									
10	安威川ダム陸生動物調査委託(その2)報告書	H1.3	大阪府北部特定事業建設事務所、(財)大阪府緑化・環境協会	○	○		○	○									
11	安威川ダム陸生動物調査委託(その3)報告書	H1.11	大阪府北部特定事業建設事務所、(財)大阪府緑化・環境協会		○		○	○									
12	安威川ダム環境影響予測検討業務報告書	H2.3	大阪府北部特定事業建設事務所、日本工営(株)														○
13	安威川ダム水質及び河川現況調査業務委託報告書	H3.1	大阪府北部特定事業建設事務所、(社)淡水生物研究所							○	○	○	○				
14	安威川ダム河川現況調査及び予測検討業務委託報告書	H4.12	大阪府北部特定事業建設事務所、(社)淡水生物研究所							○	○						
15	大阪府下の川と魚	H5	大阪府農林水産部水産課							○							
16	安威川ダム車作地区斜面地調査委託ボーリング調査編報告書	H5.3	(株)ニュージェック														○
17	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書雨量・流量年表(平成5年)	H6.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
18	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査業務報告書	H6.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
19	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書水位・流量・雨量年表(平成6年)	H7.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
20	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H7.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
21	箕面川ダム流量調査業務報告書	H7.3	大阪府安威川ダム建設事務所(株)浪速技研コンサルタンツ														○

表-1.14 安威川ダムの自然環境の現状把握における調査対象一覧（2/5）

No.	報告書名	年月	調査・検討機関	調査項目													
				哺乳類	鳥類	オオタカ	両生・爬虫類	陸上昆虫類	植物	魚類	底生動物	付着藻類	水質等	その他			
22	一級河川安威川 多自然型護岸検討業務委託～河川水辺の国勢調査～ 報告書	H8.3	大阪府茨木土木事務所、(社)淡水生物研究所			○					○	○	○				
23	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H8.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
24	安威川ダム周辺施設検討業務委託報告書	H8.3	(財)ダム水源地環境整備センター														○
25	安威川総合開発事業に係る環境影響評価書	H8.5	大阪府				○										
26	安威川総合開発事業に伴う文化財等総合調査中間報告書 安威川ダム建設関係地域の自然・歴史・文化	H9.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(財)大阪府文化財調査研究センター														○
27	安威川ダム 工事用道路に係る水生生物調査検討業務委託	H9.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(社)淡水生物研究所			○					○	○					
28	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H9.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
29	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書水位・流量・雨量年表(平成8年)	H9.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
30	平成8年度安威川ダム原石山工事用道路概略検討業務委託報告書	H9.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ニュージェック														○
31	安威川ダム周辺施設検討業務委託(その2)報告書	H9.5	(財)ダム水源地環境整備センター														○
32	安威川ダム魚類補足調査業務委託(その1)報告書	H10.3	大阪府安威川ダム建設事務所、大阪府水生物研究会										○				
33	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H10.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
34	平成9年度安威川ダム貯水池水質保全対策検討業務委託報告書	H10.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)日水コン														○
35	安威川ダム水生生物調査検討業務委託報告書	H10.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(社)淡水生物研究所										○	○			
36	一級河川・箕面川・流量調査業務委託報告書	H10.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
37	安威川ダム動植物補足調査業務委託報告書	H11.3	大阪府安威川ダム建設事務所	○	○												
38	平成10年度安威川ダム魚類補足調査業務委託報告書	H11.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ブレック研究所											○			
39	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H11.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
40	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書水位・流量・雨量年表(平成10年)	H11.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
41	安威川ダム水生生物調査検討業務委託報告書	H11.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(社)淡水生物研究所										○		○	○	
42	平成11年度安威川ダム魚類補足調査業務委託報告書	H11.8	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ブレック研究所												○		
43	安威川ダム動植物詳細調査検討業務委託報告書	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所	○	○												
44	平成11年度安威川ダム魚類補足調査業務委託(その2)報告書	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ブレック研究所												○		
45	安威川ダム水生生物調査業務委託報告書	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ウエスコ										○				
46	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書水位・流量・雨量年表(平成11年)	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
47	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
48	安威川ダム周辺施設検討業務委託報告書	H12.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)水建設コンサルタンツ														○
49	平成12年度安威川ダム濁水機構解析調査業務委託報告書	H13.3	(株)日水コン														○
50	安威川ダム動植物詳細調査検討業務報告書	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所	○	○												
51	安威川ダム魚類補足調査業務委託報告書	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所												○		
52	安威川ダム水生生物調査業務委託報告書	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)ウエスコ										○				
53	安威川ダム周辺施設検討業務報告書	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)日建設														○
54	一級河川安威川・茨木川・勝尾寺川流量調査及び水質調査業務報告書	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○
55	一級河川安威川・勝尾寺川流量解析業務報告書水位・流量・雨量年表(平成12年)	H13.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)浪速技研コンサルタンツ														○



表-1.17 安威川ダムの自然環境の現状把握における調査対象一覧 (5/5)

No.	報告書名	年月	調査・検討機関	調査項目												
				哺乳類	鳥類	オオタカ	両生・爬虫類	陸上昆虫類	植物	魚類	底生動物	付着藻類	水質等	その他		
120	安威川ダム自然環境保全対策検討業務(その4)報告書	H26.6	大阪府安威川ダム建設事務所、(株)環境総合テクノス	○			○	○			○					
121	安威川ダム猛禽類等調査検討業務委託(その6)報告書	H27.3	大阪府安威川ダム建設事務所、パンフィックコンサルタンツ(株)		○	○	○									
122	安威川ダム流量調査及び水質調査業務報告書	H27.3	エヌエス環境(株)												○	
123	平成26年度安威川ダム魚類補足調査業務委託報告書	H27.3	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所								○	○	○			
124	安威川ダム環境改善放流計画等検討業務委託報告書	H27.3	大阪府安威川ダム建設事務所、(財)水源環境センター・(株)東京建設コンサルタント共同企業体	○			○	○			○					
125	安威川ダム猛禽類等調査検討業務委託(その7)報告書	H28.2	(株)ニュージェック	○	○	○	○									
126	平成27年度安威川ダム魚類補足調査業務委託報告書	H28.3	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所								○	○	○	○		
127	安威川ダム流量調査及び測量等業務委託(H27)報告書	H28.3	(株)ムロガ												○	
128	安威川ダム環境改善放流計画等検討業務委託報告書	H28.3	(財)水源環境センター													○
129	安威川ダム環境保全対策等検討業務委託(H27)報告書	H28.5	(株)修成建設コンサルタント				○	○	○		○					

表-1.18 ダム予定地周辺で確認された生物

調査項目	確認種	注目種
哺乳類	23種	7種
鳥類	140種	58種
爬虫類	14種	5種
両生類	16種	11種
陸上昆虫類	2,482種	90種
魚類	50種	27種
底生動物	536種	49種
動物計	3,261種	247種
植物	1,193種	63種
付着藻類	288種	0種
全体合計	4,742種	310種

※平成27年度末

(2) 社会環境特性

①人口

流域関連市の人口（平成 27 年国勢調査）は、およそ 207 万人（大阪市は東淀川区、淀川区、西淀川区のみ）です。流域関連市の人口は、昭和 45 年までは急増しており、特に昭和 35 年から行われた千里ニュータウン開発により摂津市、吹田市および豊中市の人口は大きく増加しました。その後、緩やかな増加をつづけ、平成 2 年の国勢調査において 200 万人を越えました。その後、流域関連市の人口はあまり変化がみられませんが、少子高齢化などの影響によりその構成は変化してきています。

各市別に平成 22 年と 27 年の国勢調査を比較すると、吹田市は 5%の増加、淀川区・豊中市・茨木市・箕面市・摂津市は 1~3%の増加、西淀川区・東淀川区・高槻市は 1~2%の減少が見られます。

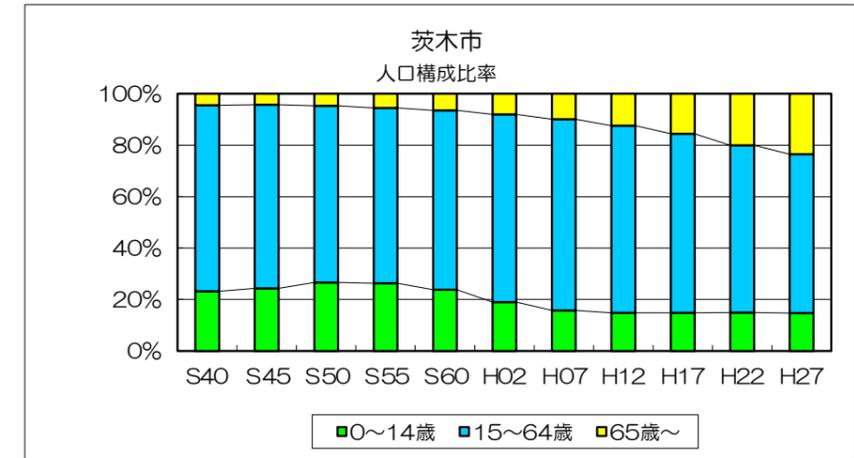


図-1.12 茨木市の人口構成の変化

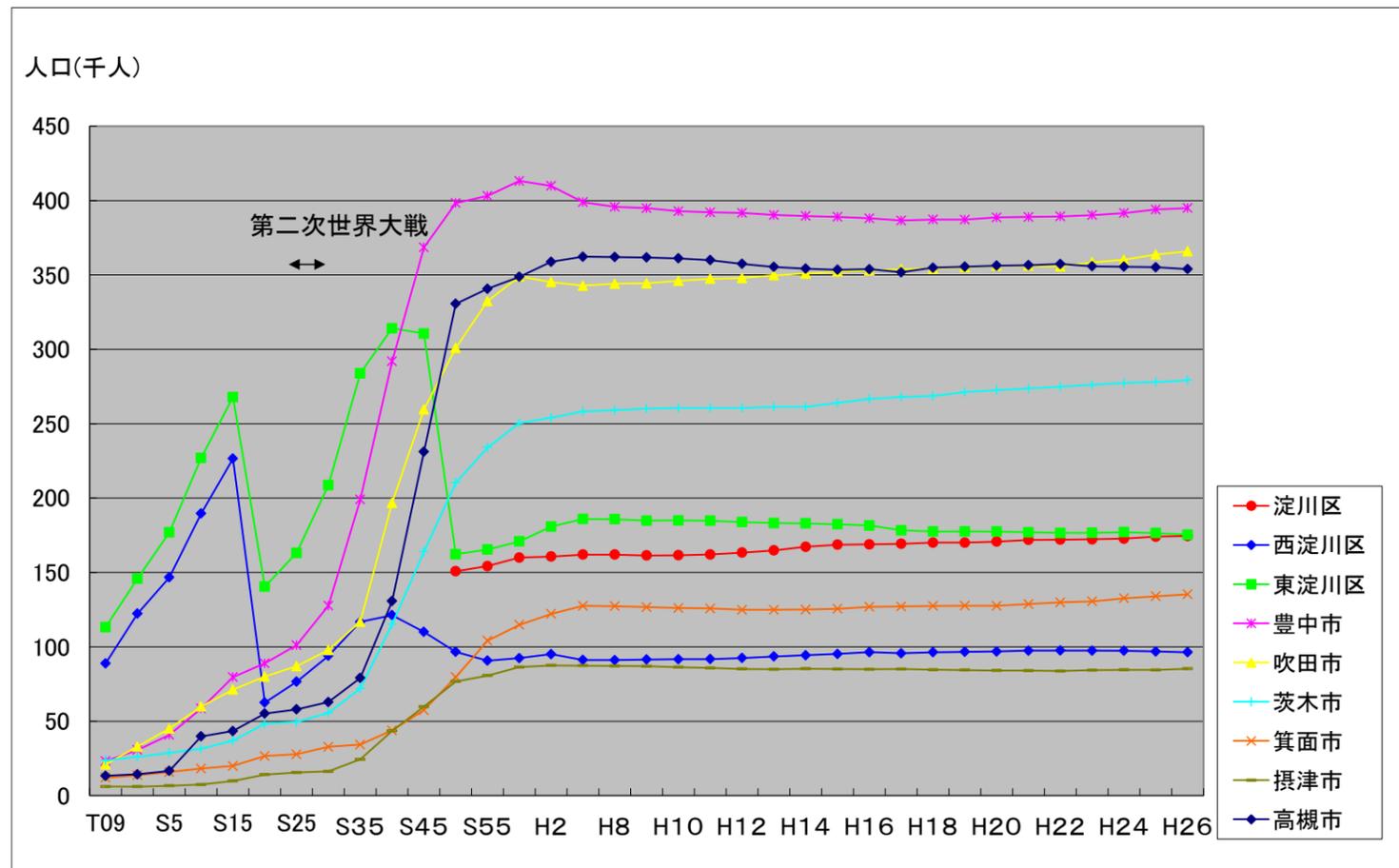


図-1.11 人口推移

表-1.19 人口

市	平成 22 年 人	平成 27 年 人	人口増加率 %
大阪市	2,665,314	2,691,742	+1
淀川区	172,078	176,411	+3
西淀川区	97,504	95,537	-2
東淀川区	176,585	175,587	-1
3区合計	446,167	447,535	0
豊中市	389,341	394,495	+1
吹田市	355,798	374,526	+5
茨木市	274,822	280,170	+2
摂津市	83,720	85,054	+2
高槻市	357,359	351,831	-2
箕面市	129,895	133,418	+3
6市3区の合計	2,037,102	2,067,029	+1
大阪府	8,865,245	8,838,908	0

平成 22 年、27 年国勢調査結果より

市町村の統廃合について

淀川区は昭和 49 年に東淀川区より分区

昭和 25 年以前の国勢調査結果は各市町区は現在の市町村に合併、分区を考慮している。ただし、市町村界の変更に伴う人口の移動は考えていない。新田村は分割して豊中市と吹田市に吸収されたため考慮していない。豊中市は豊中町、豊中村、麻田村、桜井谷村、熊野田村、中豊島村、南豊島村、小曾根村、庄内町を含む。吹田市は吹田町、千里村、岸部村、豊津村、山田村を含む。茨木市は茨木町、三島村、春日村、玉櫛村、安威村、玉島村、溝咋村、宮島村、福井村、石河村、見山村、清溪村、三宅村を含む。箕面市は箕面町、箕面村、止々呂美村、萱野村、豊川村を含む。摂津市は三島町、味舌町、味舌村、味生村、鳥飼村を含む。高槻市は高槻町、阿武野村、五領村、三箇牧村、富田町、富田村を含むが、京都府樫田村は含まない。

出典：国勢調査 H22 年、H27 年、大阪府総務部統計課「大阪府の人口」、国勢調査報告 昭和 25 年

②土地利用

下流の低平地は、古くより市街地や農地が広がっていましたが、現在ではそのほとんどが宅地化しています。丘陵部は、かつて山地丘陵であった高標高の範囲まで宅地やゴルフ場などの開発が進んでいます。上流部には山地が大きく広がり、河川沿い等の一部に平地や集落等が分布しています。

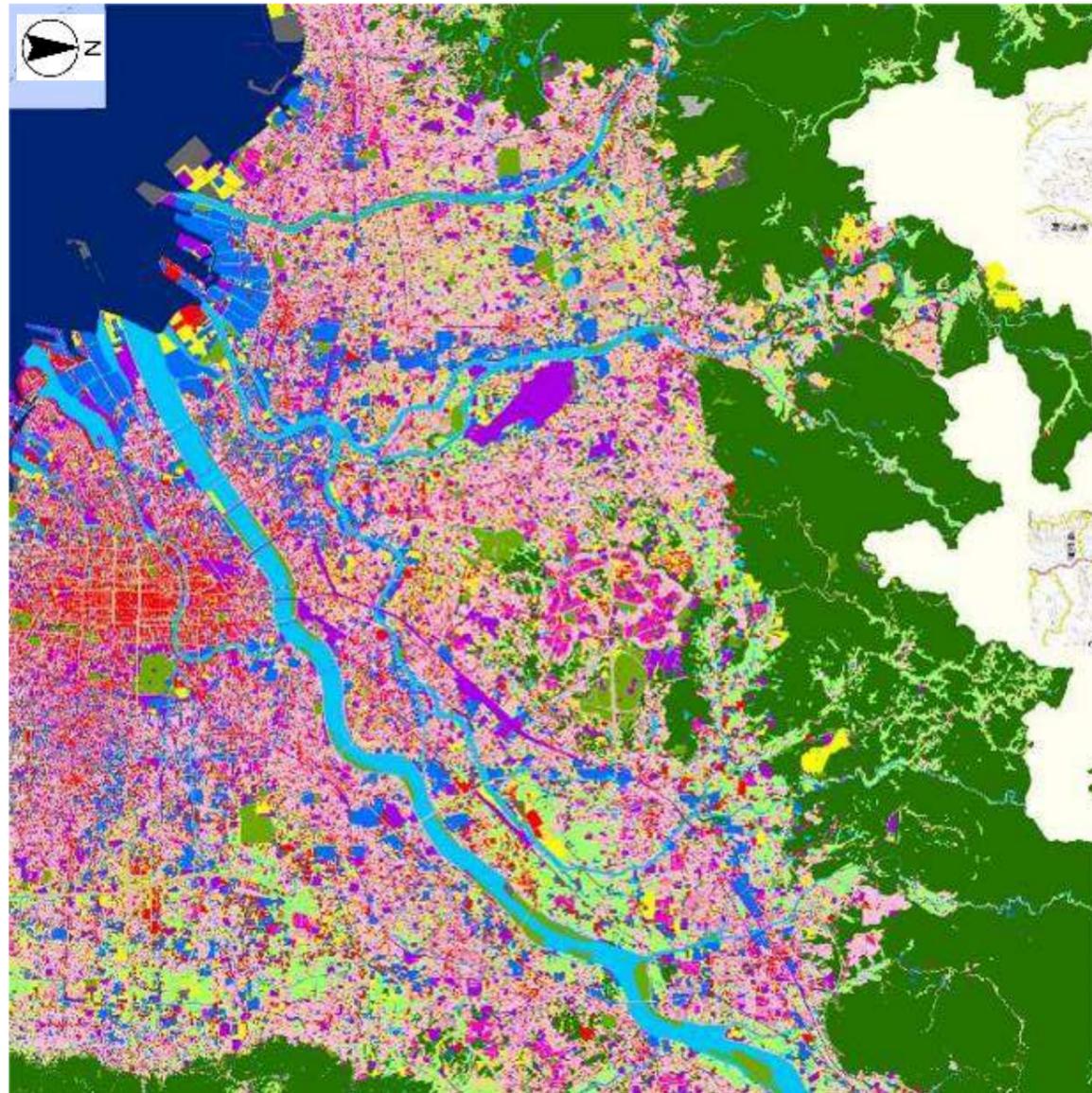


図-1.13 土地利用図 昭和49年(1974年)

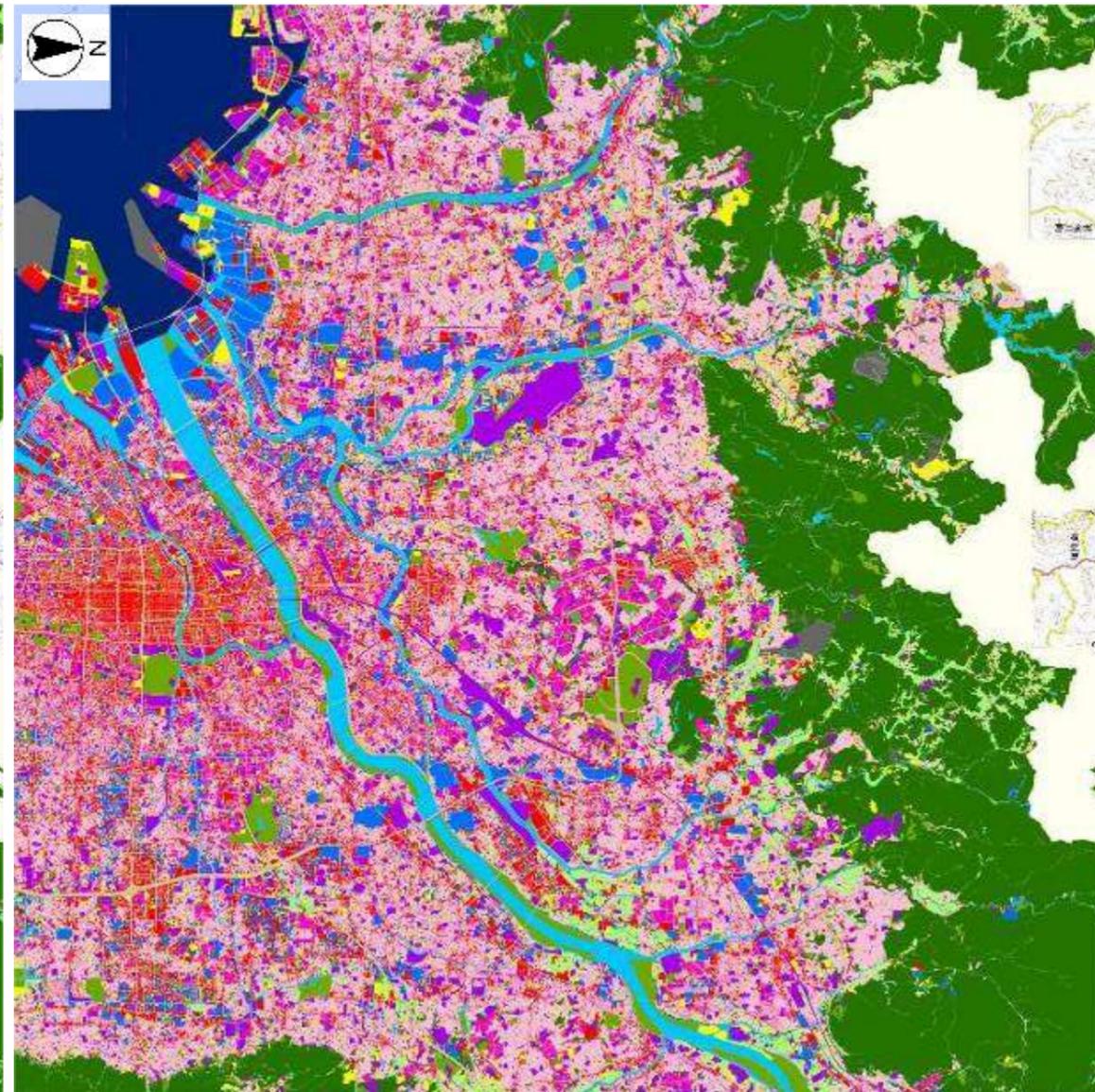


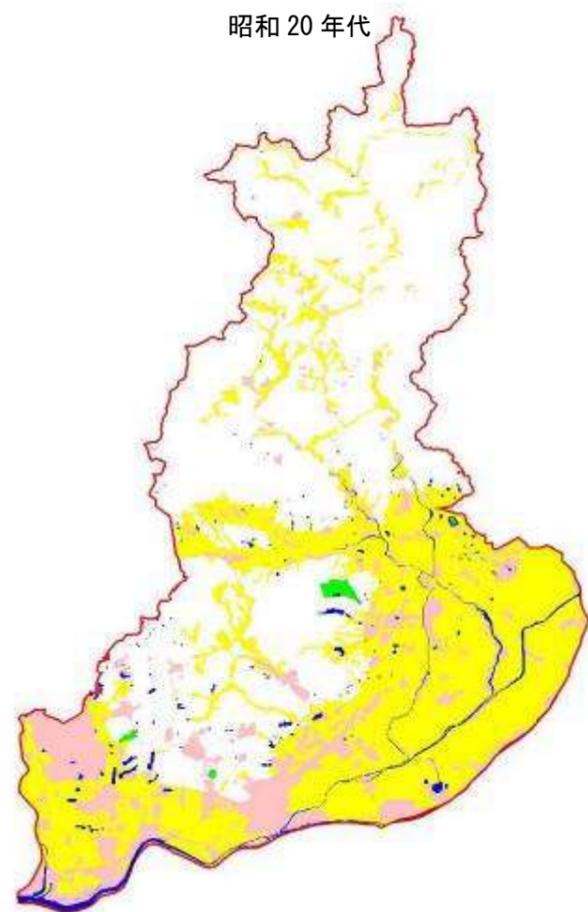
図-1.14 土地利用図 平成20年(2008年)

- 山林・荒地等
- 田
- 畑・その他の農地
- 造成中地
- 空地
- 工業用地
- 一般低層住宅
- 密集低層住宅地
- 中高層住宅地
- 商業・業務地区
- 道路用地
- 公園・緑地等
- その他の公共公益施設
- 河川・海沼等
- その他
- 海
- 対象地域外
- データコード

出典：国土地理院（電子国土Web）

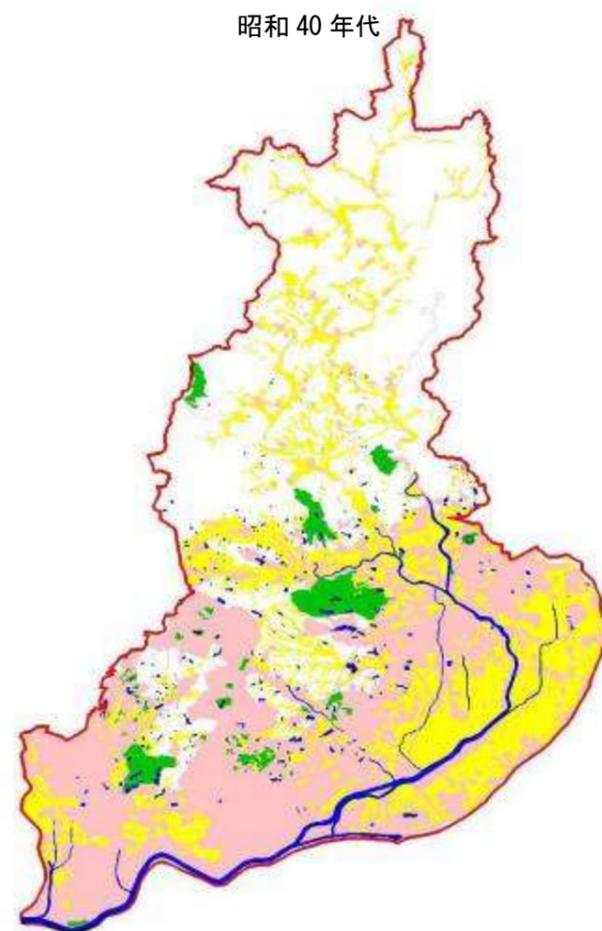
昭和 20 年代、昭和 40 年代、平成 20 年代の土地利用の変遷を見ると、昭和 20 年代には流域の 34.0% を占めていた田畑が平成 20 年代には 6.6% に減少しています。多くが田畑であった神崎川沿いや、安威川中下流部のほとんどが市街化されました。また、田畑とともに一部のため池は市街化により埋め立てられましたが、一部のため池では地域の憩いの場や流出抑制施設として利用されています。

昭和 35 年～44 年の千里ニュータウン開発、昭和 45 年の万国博覧会等の丘陵地開発により、昭和 20 年代には 11.7% であった市街地が平成 20 年代には 52.4% まで増加しています。現在、箕面市から茨木市にかけての丘陵部で彩都の開発が進められています。



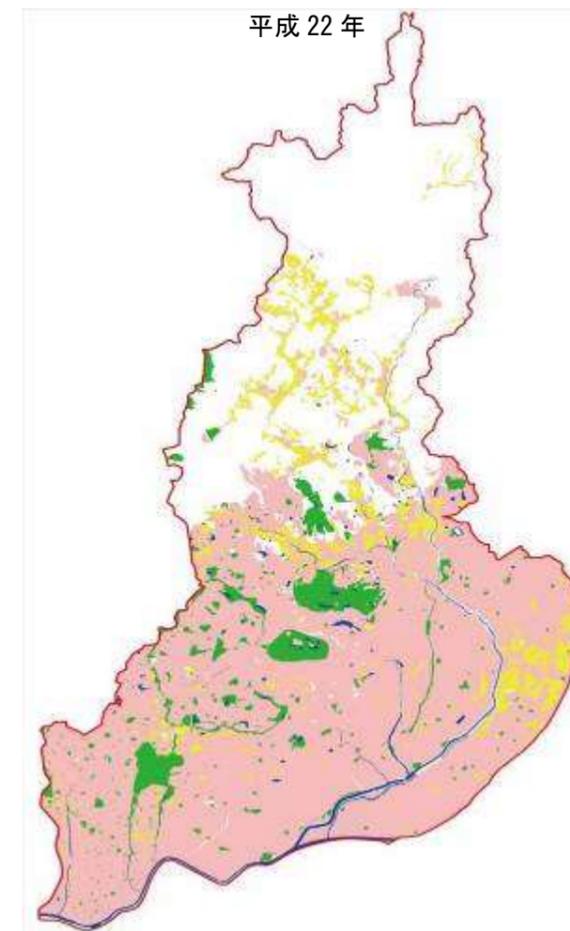
昭和 20 年代の土地利用の比率

市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
11.7%	34.0%	2.1%	0.3%	52.0%



昭和 40 年代の土地利用の比率

市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
33.1%	21.7%	2.7%	3.0%	39.4%



平成 22 年の土地利用の比率

市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
52.4%	6.6%	1.3%	5.5%	34.2%

出典：大阪府土地利用現況図

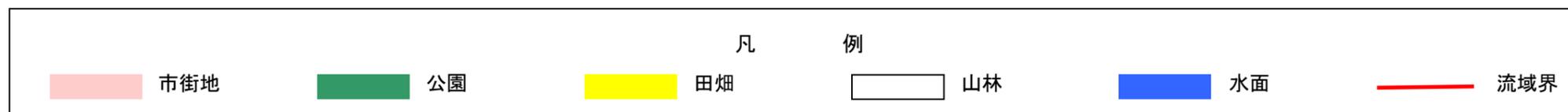


図-1.15 土地利用状況図

### ③産業

関連市の就業人口数の推移は、第3次産業が増加傾向を示す一方、第1次、2次産業は横這いかやや減少する傾向にあります。また、各市の産業別就業者比率をみると、いずれも第3次産業が大部分を占めています。

農業については、農家戸数、経営耕地面積ともに減少傾向にあります。

工業については、事業所数、就業者数ともに平成3年をピークに減少しています。

商業については、商店数・従業員数・年間売り上げ高は平成3年または平成9年をピークとして近年は減少傾向にあります。

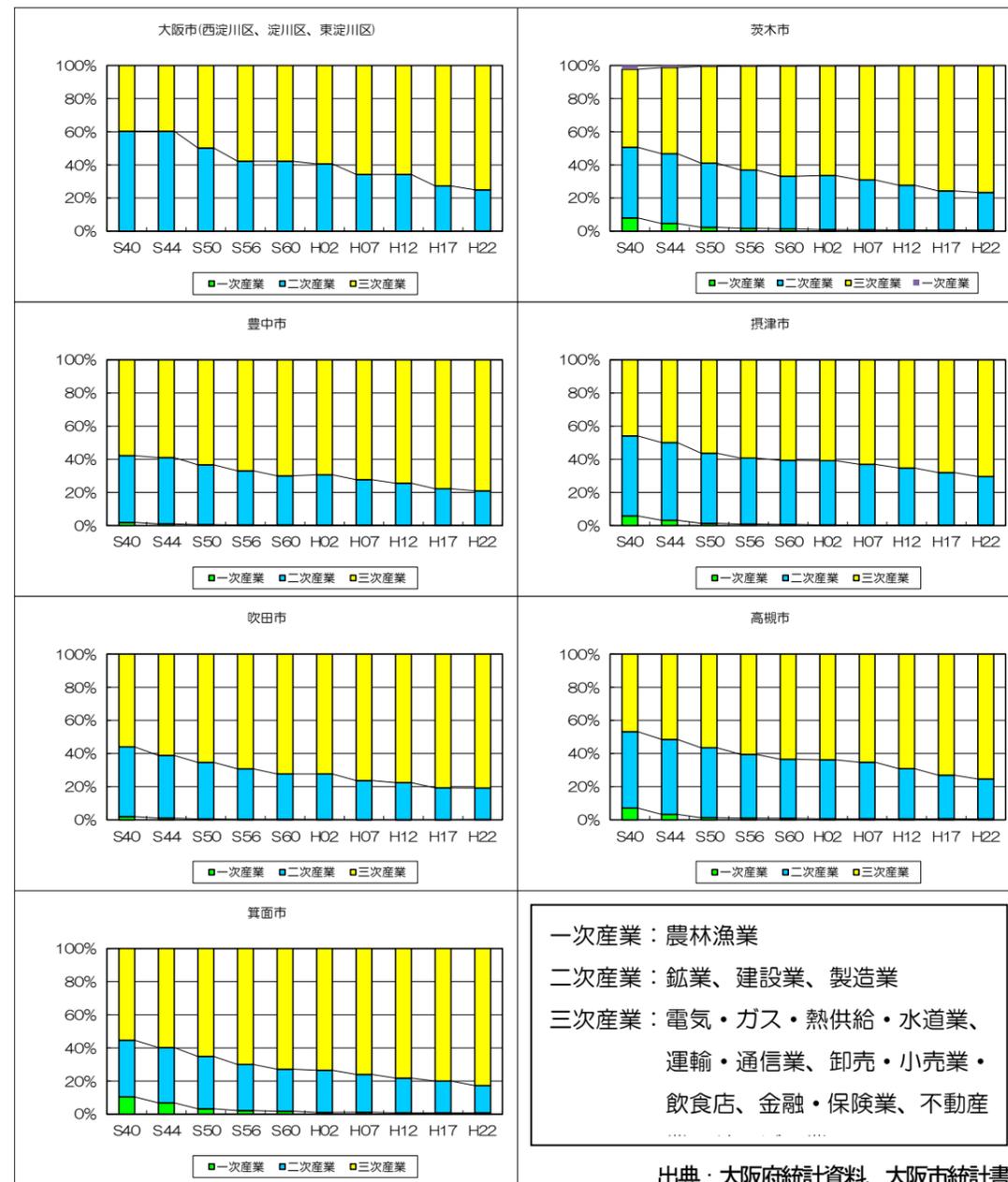


図-1.16 産業大分類別就業人口の推移

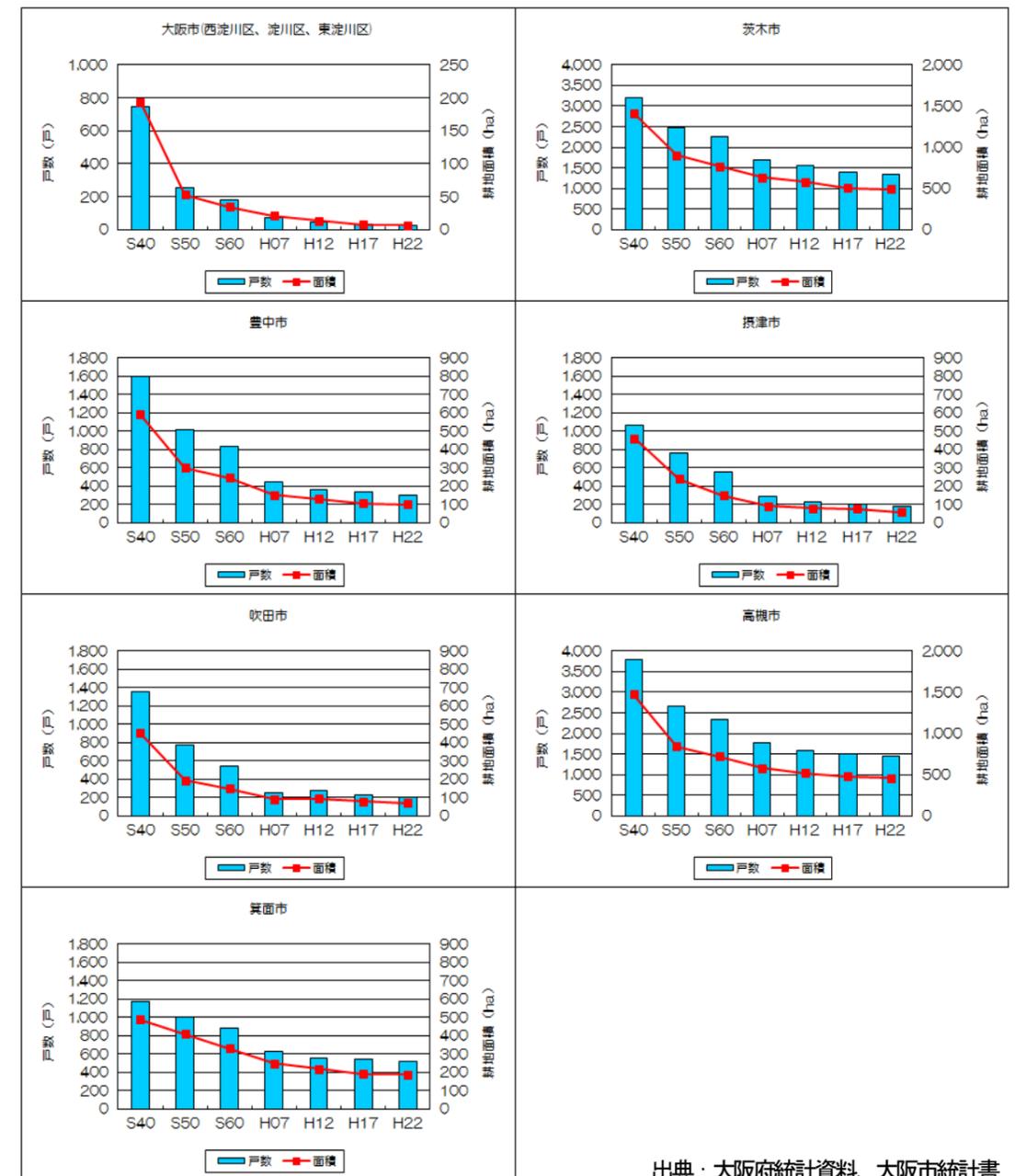


図-1.17 農業戸数、経営耕地面積の推移

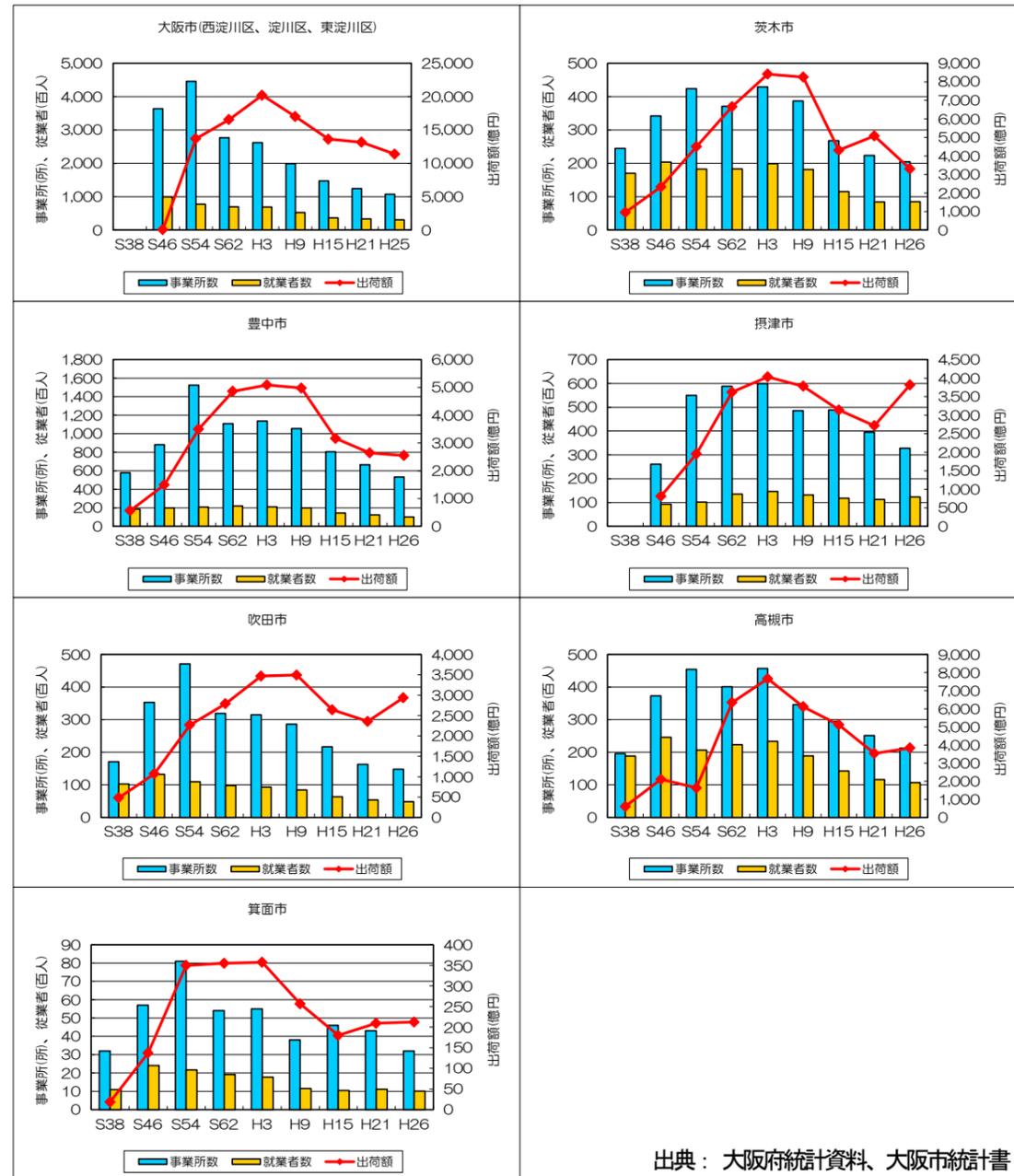


図-1.18 事業所数、従業者数、出荷額の推移

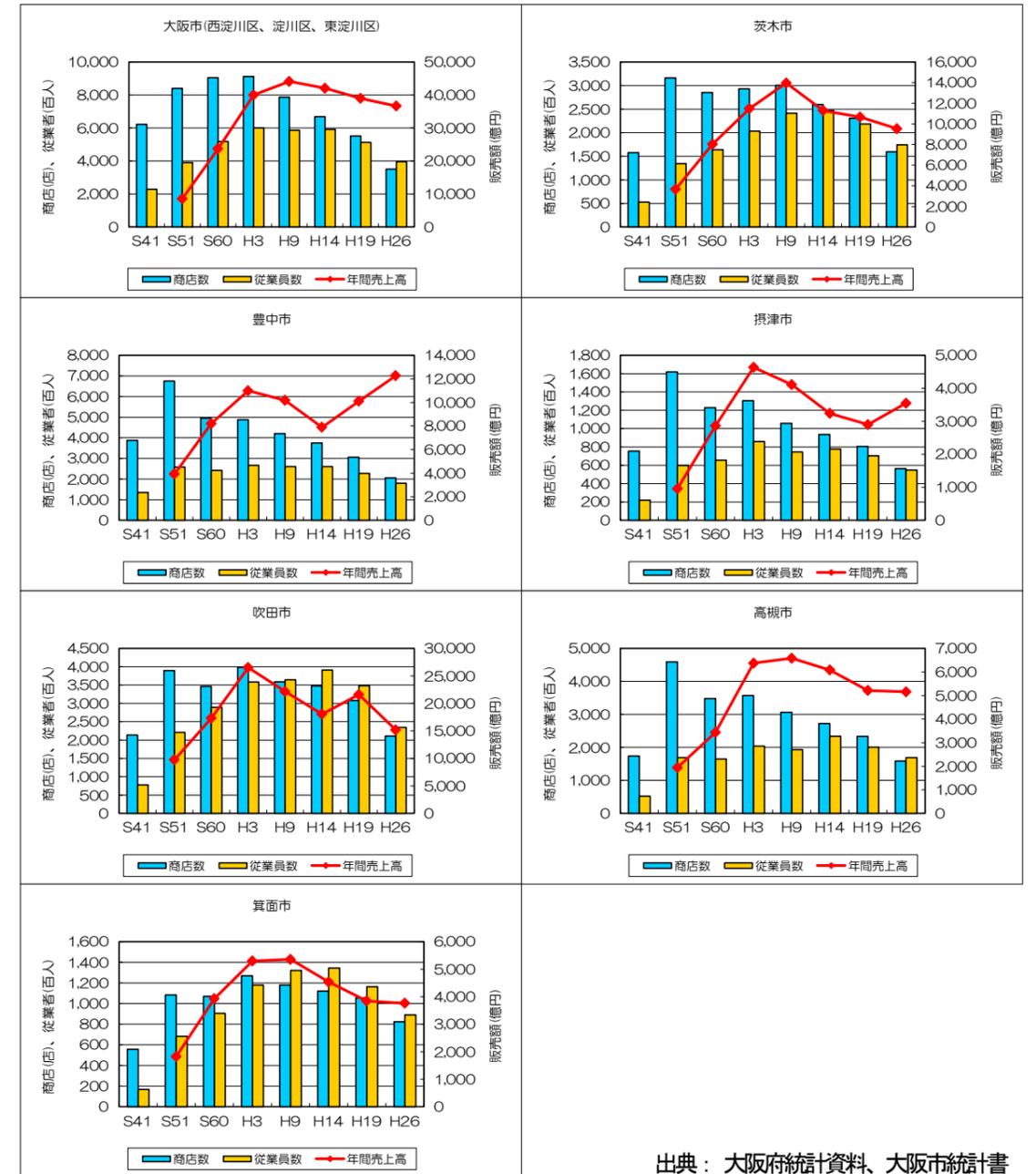
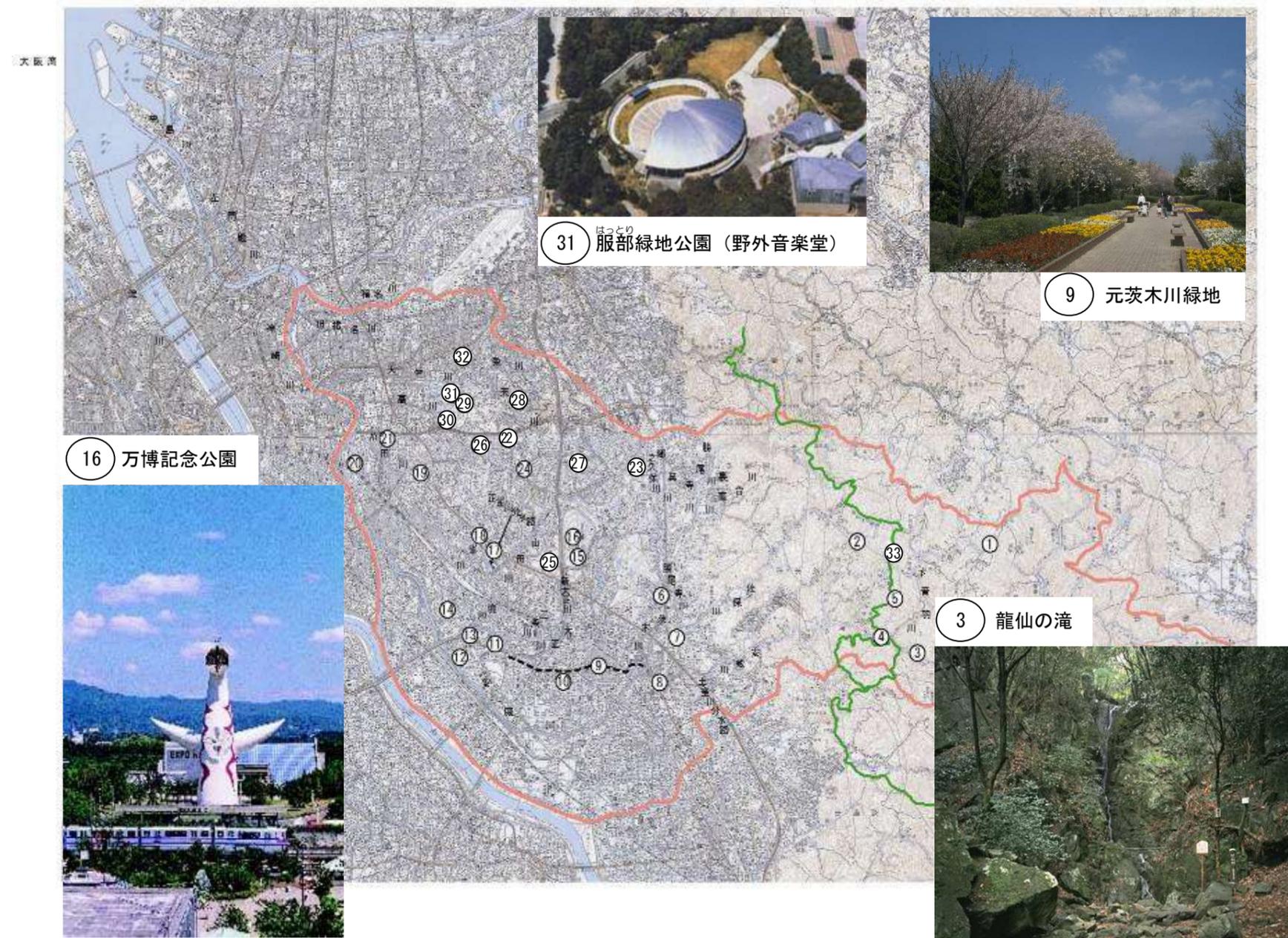


図-1.19 商店数、従業員数、売上高の推移

#### ④レクリエーション施設

丘陵地や山地部を中心に青少年野外活動センターや公園等が分布しています。また、府内でも比較的森林に恵まれた地域であることから、府民の森林性レクリエーションの場としても活用されており、山地内には東海自然歩道等が整備されています。

市街地が形成されている下流域には、万国博覧会記念公園や服部緑地、西河原公園など比較的大きな公園も整備され、地域の人々の憩いの場となっています。また、万博記念公園駅に隣接して大型複合施設エキスポシティが平成27年に開業され、新たなスポットとして注目を浴びています。



#### 凡 例

番号	施設名	位置
1	青少年野外活動センター	茨木市
2	キリシタン遺物史料館	〃
3	龍仙の滝	〃
4	龍仙峡	〃
5	竜王山展望台	〃
6	郡山宿本陣	〃
7	耳原公園	〃
8	西河原公園	〃
9	元茨木川緑地	〃
10	水尾公園	〃
11	嘉円公園	摂津市
12	青少年運動公園	〃
13	平和公園	吹田市
14	正雀ちびっこ交通公園	〃
15	国立民族学博物館	〃
16	万博記念公園	〃
17	市場池 オアシス広場	〃
18	紫金山公園	〃
19	垂水上池公園	〃
20	中の島公園	〃
21	江坂公園	〃
22	桃山公園	〃
23	千里北公園	〃
24	千里南公園	〃
25	エキスポシティ	〃
26	千里緑地	吹田市・豊中市
27	千里中央公園	豊中市
28	二ノ切公園・温水プール	〃
29	日本民家集落博物館	〃
30	都市緑化植物園	〃
31	服部緑地	〃
32	大塚公園	〃
33	東海自然歩道	

写真出典：茨木市役所 HP、吹田市役所 HP より  
大阪府観光連盟 HP より

図-1.20 レクリエーション施設位置図

⑤交通

流域には我が国の国土軸となる重要な交通網が整備されています。都市基盤である国道 171 号、国道 176 号、国道 423 号や主要地方道大阪中央環状線などをはじめ、大阪市中心部と京阪神を結ぶ阪神高速道路、さらには首都圏、中京圏、中国四国方面へアクセスする名神高速道路、中国自動車道および近畿自動車道等の道路網が整備され、現在は、新名神高速道路及びアクセス道路の建設が進んでいます。

鉄道網についても東海道新幹線、山陽新幹線、J R 東海道本線、阪急電鉄京都線、阪急電鉄宝塚線、阪急電鉄千里線、阪急電鉄神戸線、阪神電鉄本線、阪神電鉄西大阪線および地下鉄御堂筋線が大阪市に向けて求心的に走り、大阪中央環状線沿いや彩都へ向かって大阪モノレールが整備されています。また、北大阪急行電鉄が千里中央から箕面市の萱野に向け延伸工事が進められています。

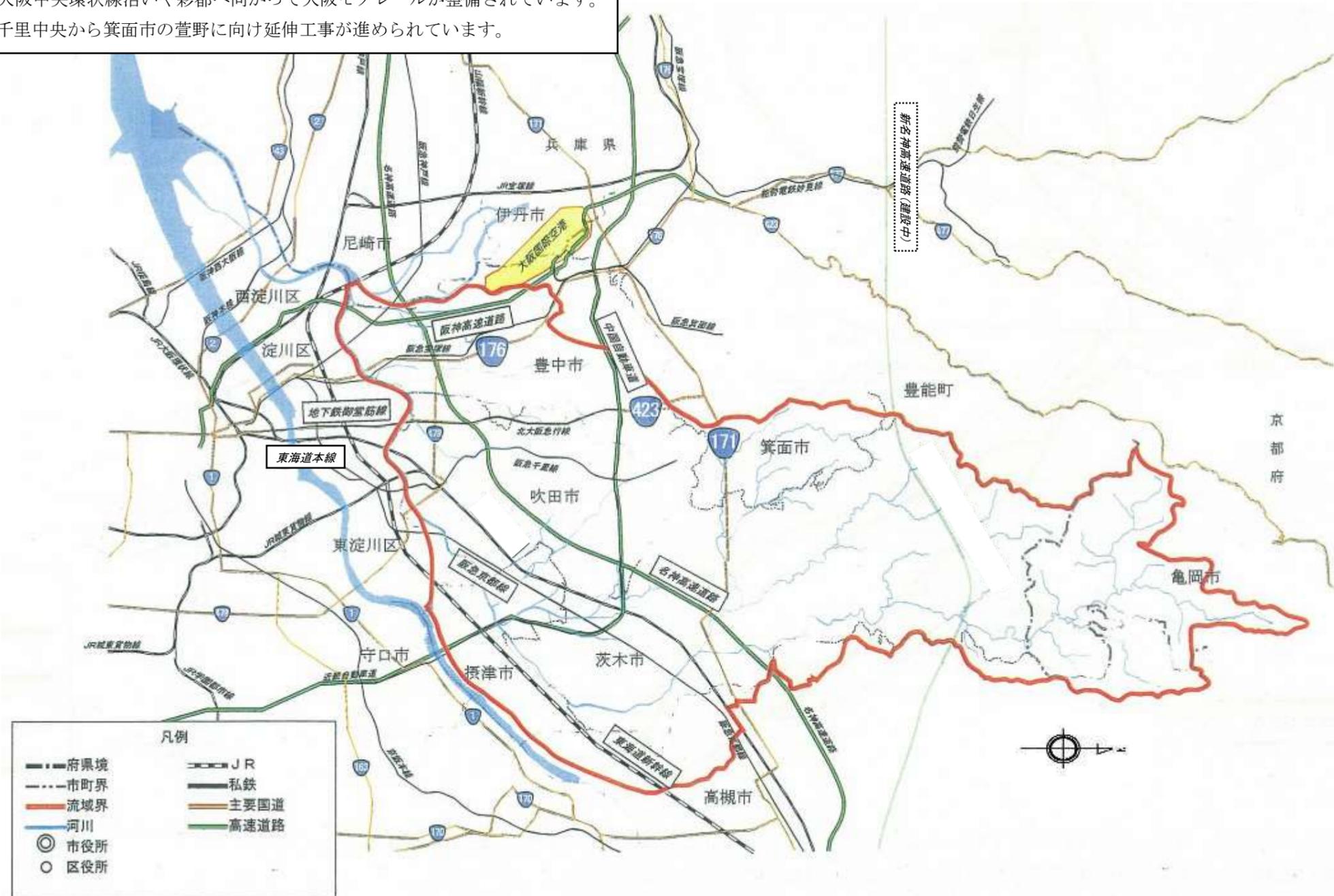


図-1.21 神崎川ブロック内の主要な交通網図



## ・猪名川

歴史上多くの水害をもたらしてきた猪名川は、明治期から堤防改修工事などが実施されましたが、根本的な対策が遅れていました。

戦時中も上流<sup>ただむらむしゅう</sup>多田村虫生（現川西市）へのダム建設および猪名川の締切りにより<sup>も</sup>藻川を拡幅、幹川とする河道改修工事が昭和15年に開始されましたが、工事はほとんど進みませんでした。戦後になり計画が見直され、ダム建設を中止して猪名川・藻川の河道改修方式に変更、まず藻川改修に着手しました。

昭和34年には、神崎川に合流する猪名川下流部を戸ノ内の東から西に移す「戸ノ内捷水路<sup>しょうすいりょう</sup><sup>6)</sup>計画」が開始され、昭和37年に完成しました（『尼崎地域史事典』「猪名川改修工事」の項目より）。戸ノ内捷水路計画により従来の猪名川が旧猪名川となり、新猪名川が藻川にむけて開削されました。

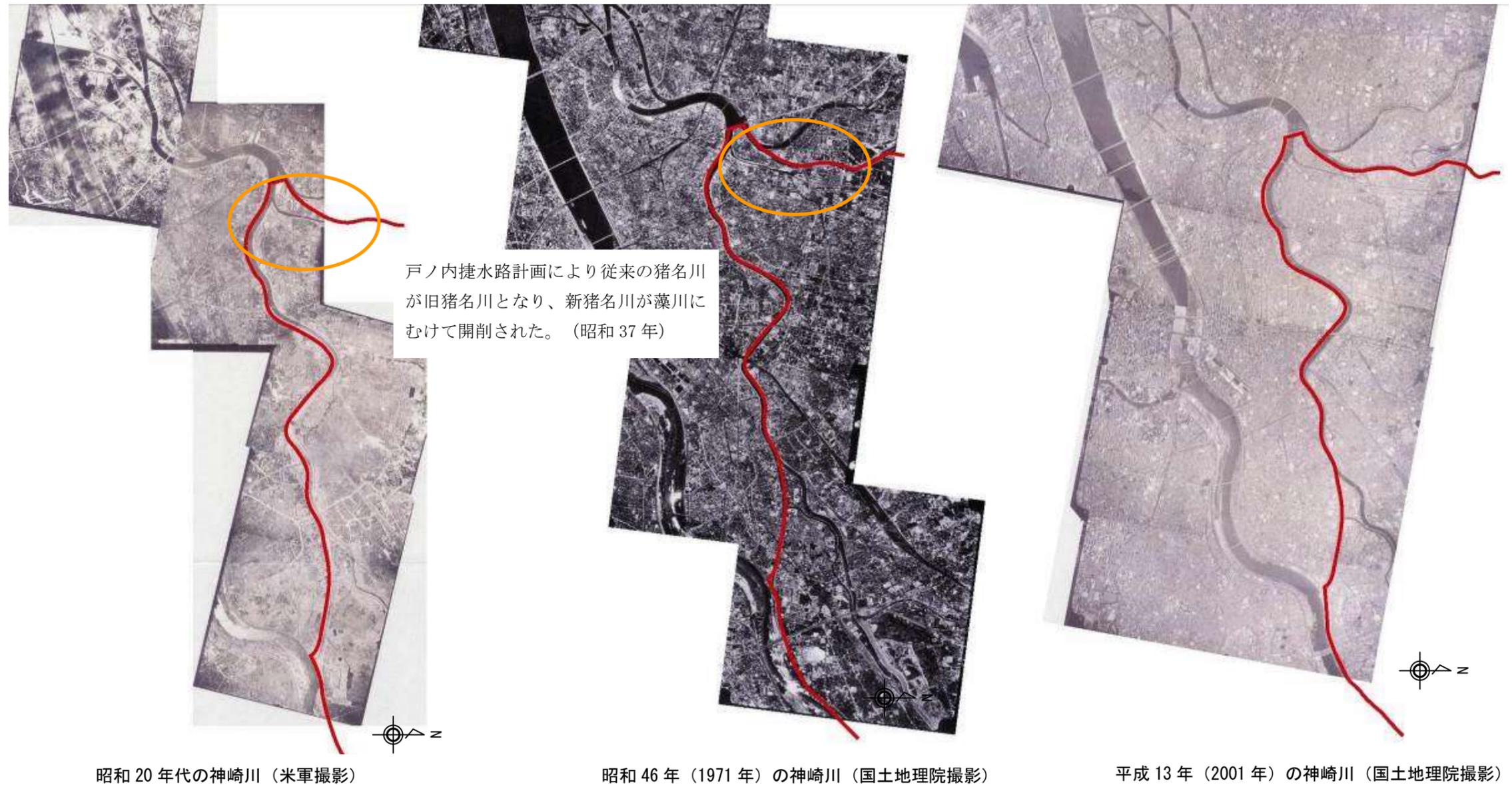


図-1.23 猪名川変遷図（空中写真）

<sup>6)</sup> 捷水路：河川が曲がっている部分をまっすぐに直して、洪水を安全に流すために削り開かれた人工の水路。ショートカットともいう。

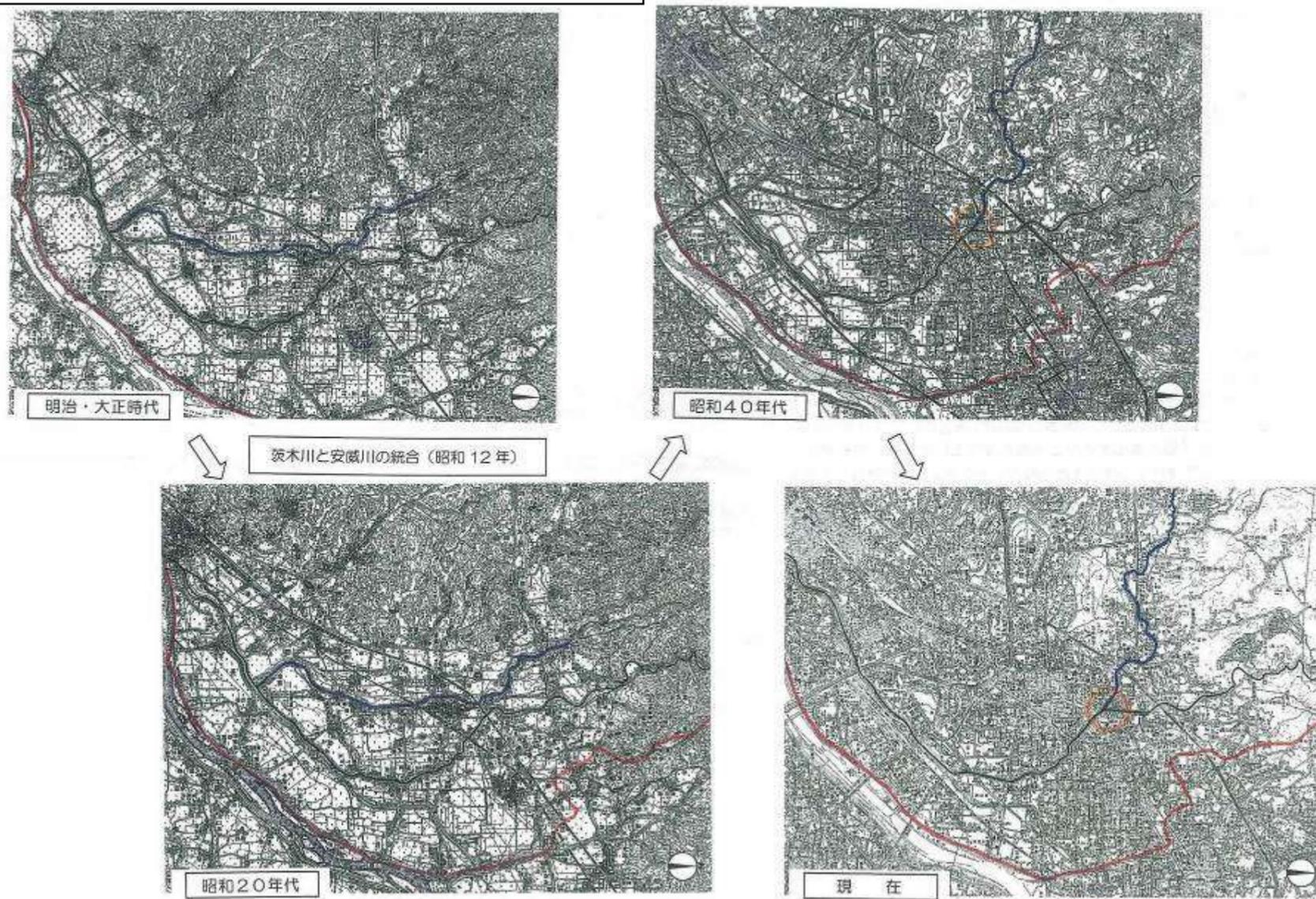
## ・安威川

安威川流域は藍の栽培地で、藍野・藍原（日本書紀）と呼ばれ、阿為（延喜式神名帳）・安井（玉葉）・藍（皆川文書）・阿威（元享積書）・阿井（撰陽郡談）とも書きますが、地名は「和名抄」の安威郷にちなんでいるといわれます。

安威川の右支川である茨木川は土砂流が多く、昔より大きな災害に見舞われてきました。

江戸時代から昭和初期まで頻繁に水害を被ってきたようで、高橋などは何度も落下した記録が残されています。また安威川、茨木川ともに決壊するような大きな洪水がたびたび発生していたようです。

昭和7年の洪水を機に府に対して安威川と茨木川の治水に関する嘆願書が提出され、さらに昭和10年の洪水を契機に府知事自ら上京して内務省に窮状を訴え、茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流させ、安威川の断面を拡幅する工事が着手されました。昭和12年には茨木川の流路（現在の元茨木川緑地）が変更され、安威川に合流されました。この改修工事は昭和18年まで大規模に進められました。



（茨木川と安威川の統合は、まだ地形図上には反映されていない。）

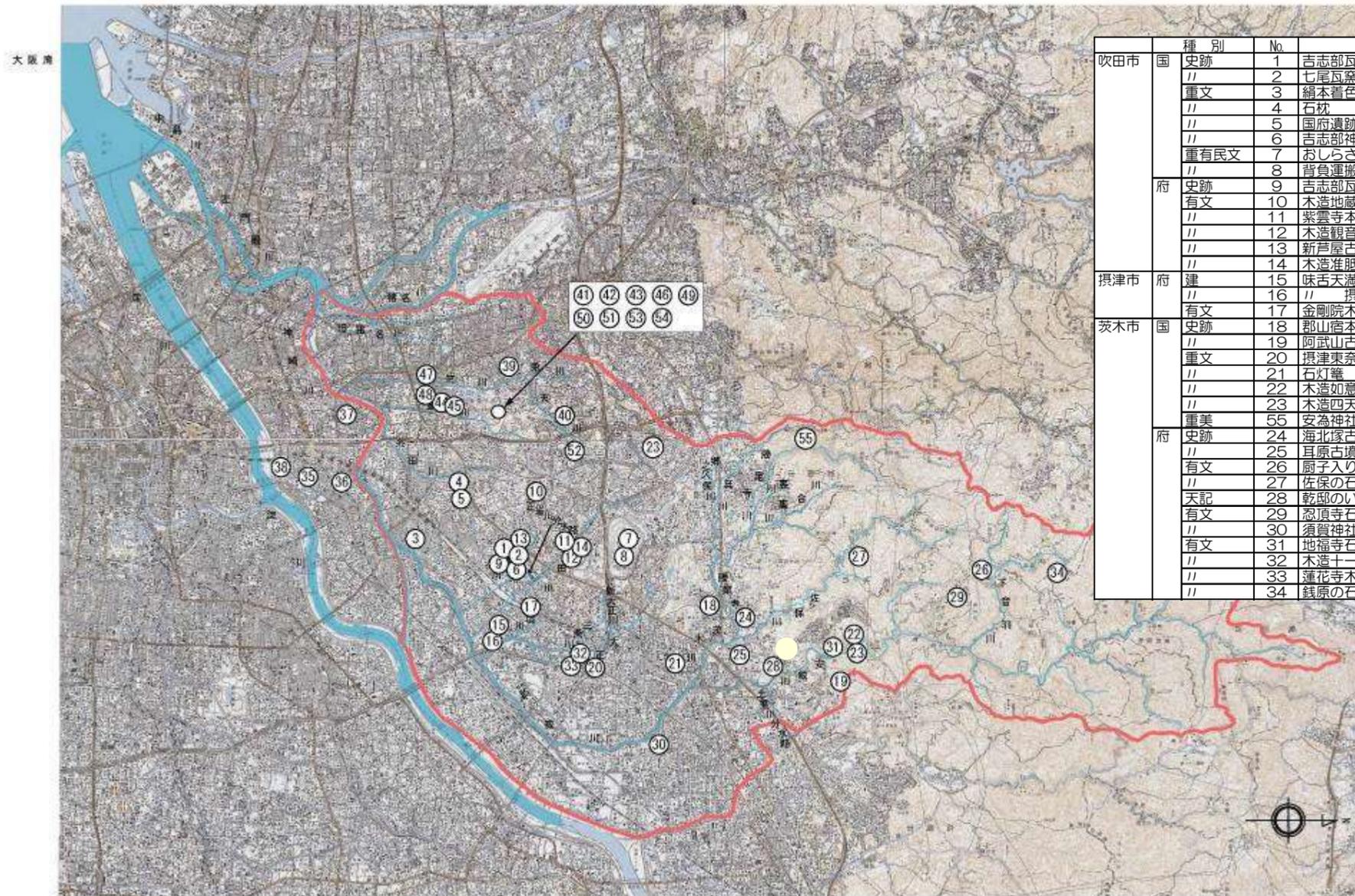
図-1.24 安威川変遷図

②文化財

ブロック内には、52箇所もの文化財が点在します。4～5世紀末にかけて形成された桜塚古墳群（国史跡ほか）をはじめ、平安京造営の際に宮殿の瓦を大量に生産したとされる吉志部瓦窯跡や七尾瓦窯跡等があり当時は窯業地帯であったことを示しています。さらに時の権力者によって建立された寺院や神社も数多くあります。また江戸時代には京都から西宮に通じる西国街道には郡山宿本陣があり、1721年に再建された建物が今も残っています。

表-1.20 文化財箇所数一覧表

	国指定	府指定	合計
豊中市	9	7	16
吹田市	8	6	14
摂津市	0	3	3
茨木市	7	11	18
箕面市	1	0	1
合計	25	27	52



市町村	種別	No.	名称	市町村	種別	No.	名称		
吹田市	国	1	吉志部瓦窯跡	大阪府	府	35	摂津県改称豊崎県庁跡		
		2	七尾瓦窯跡			36	須賀神社跡のくす		
		3	絹本着色般若菩薩像			37	渡辺邸		
		4	石枕			豊中市	国	38	水道記念館
		5	国府遺跡出土品					39	桜塚古墳群 大塚古墳 南天平塚古墳
		6	吉志部神社本殿			40	石造三重宝篋印塔		
		7	おしらさまコレクション			41	旧泉家住宅		
		8	背負運搬具コレクション			42	旧山田家住宅		
	府	9	吉志部瓦窯跡（工房跡）			43	旧椎葉家住宅		
		10	木造地藏菩薩立像			44	紙本金地著色仙人掌群鶏図		
		11	紫雲寺本堂内陣鳥獣図			45	紙本墨画蓮池図		
		12	木造観音菩薩立像			46	民家		
		13	新芦屋古墳出土馬具			47	住吉神社能舞台		
		14	木造准胝観音立像			府	48	春日大社南郷目代今西氏屋敷	
摂津市	15	味吉大満堂本殿	49	旧丸田家住宅					
	16	摂社八幡神社本殿	50	旧山下家住宅					
	17	金剛院木造不動明王立像	51	旧藤原家住宅					
茨木市	国	18	郡山宿本陣	52	旧新田小学校校舎				
		19	阿武山古墳	53	旧重光家高倉				
		20	摂津東奈良遺跡出土鎧筒関係遺物	54	旧吉田の農村歌舞伎舞台				
		21	石灯籠	箕面市	国	55	勝尾寺旧境内・示八天石蔵及び町石		
		22	木造如意輪観音坐像						
	23	木造四天王立像	国 特別天然記念物 オオサンショウウオ						
	府	24	海北塚古墳						
		25	耳原古墳						
		26	厨子入り象牙彫キリスト磔刑像						
		27	佐保の石槽						
28		乾邸のいちょう							
29		忍頂寺石造五重塔							
30		須賀神社のくす							
31		地福寺石造五重塔							
32	木造十一面観音立像								
33	蓮花寺木造地藏菩薩立像								
34	銭原の石槽								

出典：平成6年度大阪府教育委員会資料、平成7年度高槻市教育委員会資料

「豊中の文化財」豊中市教育委員会

茨木市統計書 H12 年度版

吹田市統計書 H12 年度版

大阪府文化財分布図 H12 年度 摂津市教育委員会

図-1.25 神崎川ブロック内の文化財位置図

## ●大阪市・東淀川区

### ○崇禅寺

天平年間(729～49)、行基の開創。法相宗ほっそうしゅうに属したが、嘉吉元年(1441)6月、播磨国主赤松満祐あかまつみつすけ・教康親子のりやすが足利義教を殺した際、その首級を当寺に葬ったことから、同2年、管領細川持賢もちたかが開基となり、義教の菩提樹として再興し、曹洞宗に改めた。以来足利幕府の崇敬厚く、寺運も栄えたという。

また、この寺は「敵討崇禅寺馬場」でも有名である。正徳5年(1715)11月4日、大和郡山藩士遠城兄弟が、末弟の仇、生田伝八郎を討とうとして、逆に返り討ちにあったという悲劇的な事件がおきた。境内にはこの遠城兄弟の墓、足利義教・細川ガラシャ夫人の墓などがある。



### ○中島大水道跡

大道村庄屋澤田九左衛門らを中心とする農民たちの手で、水害防止のために現在の淀川区淡路から西淀川区福町にかけて開削された水路で、延宝8年(1678)完成し、明治32年(1899)の淀川改修に至るまでその機能を失わず、住民に多大な恩恵を与えた。下水道整備にともなうつぎつぎと埋め立てられ、いまでは樋門と顕彰碑を残すだけとなっている。

### ○定専坊

石山本願寺ゆかりの寺で、浄土真宗中興の祖蓮如上人も立ち寄ったと伝えられる。室町時代の建築様式を今に伝える諸堂は、楠木正成の孫正勝が、正成が3代覚如法主に帰依していたのを追慕して、この寺に隠棲したのを始まりとして、一門が檀家と協力して造営したという。そのため、寺紋には「菊水」が使用されているという。なお、鐘楼前には楠木正勝から正盛・盛信に至る楠木一族の墓が並んでいる。



## ●大阪市・淀川区

### ○大願寺

長柄橋の人柱伝説でよく知られる寺である。推古天皇(592～628)の時代、長柄架橋工事のため一身を犠牲にして人柱となった垂水の長者巖いわおし氏の義拳を聞いた天皇が、その菩提を弔うため勅命で建てたもの。寺の裏北側の光明ヶ池跡地は人柱埋没の地とされ、その徳をたたえる巖氏の供養碑がある。

## ●吹田市

### ○吉志部神社

創建は崇神天皇の時代。大和から移し、大神宮と称したのに始まると伝えられる。現在の本殿は慶長15年(1610)8月、戦国末期の武将、三好長慶の次男、吉志部一次の再建と伝えられ、慶長時代の建築様式をよく残している。国の重要文化財に指定されている。

境内林に吉志部瓦窯跡きしべかわらがまあとが、その東約200メートル七尾瓦窯跡ななおかわらがまあとがあり、ともに国の史跡に指定されている。

### ○吉志部瓦窯跡群

平窯九基が約15メートル間隔で並び、社殿裏に登り窯四基がある。平安京造営の際に宮殿の瓦を大量に生産されたとされる。この千里山丘陵一体の土は、焼物をつくるのに適した粘土であり、古墳時代に須恵器がつくられていた窯業地帯であった。

### ○七尾瓦窯跡群

吉志部瓦窯跡よりも時代をさかのぼるものとみられている。ここでは、聖武天皇の難波京遷都の際に、その宮殿の瓦を生産したものとされている。

### ○円照寺

仁寿3年(853)、文徳天皇の勅を受けた慈覚大師が天皇の御厄除を祈るため、南河内叡福寺の聖徳太子廟に参籠し、霊夢を感じてこの地に千手観音菩薩を安置したのが始まりといわれている。その後奥院を建て、准胝観音菩薩像じゆんてい(大阪府の文化財に指定)を置き寺観を整えた。

●豊中市

○西福寺

延慶元年（1308）の開創。もと天台寺の寺院であったが、天保2年（1318）道念の時に浄土真宗に転宗、慶安年間（1648～52）に無住となり、元徳元年（1711）再建された。境内一面の庭に広がる「扇松」が知られ、松の寺ともよばれるが、国の重要文化財の伊藤若沖の「群鶏図襖絵」で有名である。



○桜塚古墳群

四世紀末から五世紀末にかけて、岡町から桜塚一带に形成された中期古墳群。明治時代の絵図によると、三六基の古墳が見つかるが、現在は大石塚・小石塚・大塚・御獅子塚・南天平塚の五基の古墳を残すのみである。各古墳からは、鉄製品が大量に出土し、特に甲冑などの武器・武具が多い。

○東光院

天平年間（729～49）行基の開創と伝える古刹。延宝9年（1681）靈全が堂宇を修築、文化年間（1804～18）弥天一州が堂宇を再興した。もと大阪中津にあったが大正3年現在地に移転した。菘の名所として知られ境内に子規の句碑があり一般に「菘の寺」として知られる。寺宝の木造釈迦如来坐像は国指定の重要文化財である。



○服部緑地公園

豊中市と吹田市にまたがる面積約129万平方メートルの府営公園で昭和26年に開園した。松林と竹やぶと10数個の池が広い園内丘陵に点在し、スポーツ施設・野外音楽堂・日本民家集落博物館・回転花壇などの施設がある。



●茨木市

○阿為神社

創建年代は明らかではないが、延喜式内社に列する古社で、天児屋根命を祀る。神社に伝えられる銅製ニ神ニ獸鏡は、径24センチの白銅鏡に二体の神像と二頭の獸形が描かれたもので、3世紀ごろ中国の魏の時代の作品とみられている。將軍山古墳から出土したものといわれ、国の重要美術品である。

○郡山宿本陣

本陣は、江戸時代、大名や幕府役人・公家などが参勤交代や公用で旅行するとき、宿泊・休憩をした施設。京都から西宮に通じる西国街道のほぼ中間にある郡山宿は玄関先に椿の老樹があって見事な



花を咲かせたところから「椿の本陣」ともよばれていた。現在の本陣の建物は、享保6年（1721）3月に再建されたもので、各四基ある本陣の遺構をよく残している。宿帳には播州赤穂城主浅野内匠頭長矩が、元禄13年（1700）、最後の参勤の際、ここに宿泊、また浅野家断絶の際、赤穂城受け取りの脇坂淡路守一行もその任の途中ここで一泊するなど、興味深い記録がある。国の史跡に指定されている。

○総持寺

寛平2年（890）、藤原高房の子中納言山陰が改創したと伝える古刹。寺伝によると、高房が大宰府に下る途中、殺されかけた一匹の亀を助けた。のちに船旅の途次、幼児が海に落ちたところを、亀がその幼児を背にのせ助けた。高房は観音の加護を謝し、遣唐使大神御井に託して白檀を求め、観音像を刻んだのが、現在本尊の千手観音だといふ。そののち、皇室の崇敬が厚く寺運も栄えた。元龜2年（1571）、織田信長の出火により、伽藍12等を数えた僧坊は焼失したが、慶長8年（1603）豊臣秀頼が片桐且元に命じて再建した。



○梅林寺

大永7年（1527）眠譽が開創。四世是頓の時、茨木城主中川清秀が帰依し寺運も栄えた。天正11年（1583）4月21日、清秀が賤ヶ岳の合戦で討ち死にした時。是頓は賤ヶ岳に赴いて遺骨を葬り、遺髪を持ちかえり、これを寺内に収めて供養した。墓地には清秀と、その子息淵之助の墓がある。寺宝として秀吉の書翰・森田橘左衛門像・中川清秀像などがある。秀吉の書翰は、本能寺の変について、清秀が備中高松城攻めの秀吉の急報したものに対する返事である。



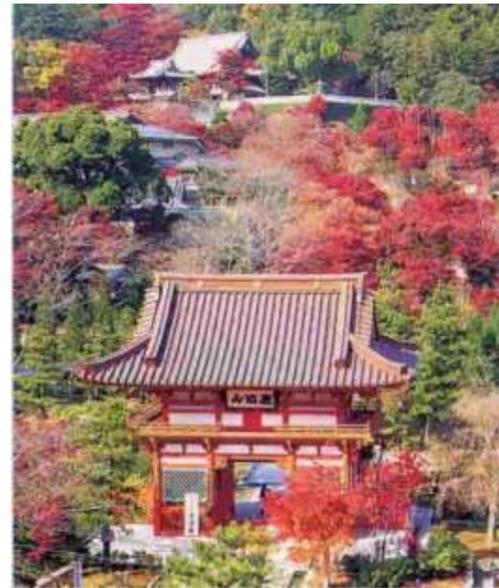
## ●箕面市

### ○勝尾寺旧境内、八天石蔵及び町石

寺領協会八ヶ所に平面三段石積みの方うじ（境内の協会の標示）がある。発掘調査の結果、方うじ中心の地下から高さ28～30cmの銅造の四天王像と四大明王像がそれぞれの寺に向けて埋めてあり、寺領の境界と、寺域のはかったことがわかった。「八天石蔵」といわれ全国でもめずらしい遺例である。町石は西国街道から分かれる勝尾寺の旧参道三六町のうち、山門から七町目に至る一町ごとに建立された八基の塔婆で、文献によれば宝治元年（1247年）建立と考えられ、町石として現存する最古の遺例である。

### ○勝尾寺

心頂山 善提院と号し、西国三十三カ所、第二十三番札所として有名である。摂津国司藤原敦房の子、善仲・善算が新亀4年（727）この地に草案を構え40年にわたり修行、天平護元年（765）光仁天皇の開成皇子が当山の登り、二人について修行した。二人の死後、二人を第一代の座主とし、宝亀6年（775）道場を建立、弥勒寺と称したのが起こりである。清和天皇の時、現寺号を賜り、以来皇室の崇敬が厚かった。元暦元年（1184）、源平合戦の際堂宇は焼失したが、源頼朝が再興を援助した。境内は箕面山の東に接し、開成皇子陵墓・光明院勝尾寺陵などのほか、本堂・仁王門・薬師堂・輪蔵・二階堂・六角堂・開山堂・荒神堂などがある。諸堂の多くは豊臣秀頼の命のより片桐且元が修築したものである。また、高さ1.56メートルの石造五輪塔は、熊谷直実塔と伝えられ、府の文化財に指定されている。



### ○明治の森 箕面国定公園

明治100年を記念して昭和42年に東京と八王子市の高尾とともに明治の森箕面国定公園に指定された。箕面滝・箕面山地の峡谷を中心に、春の桜、初夏の新緑、秋の紅葉と、四季折々の変化をみせる景勝の地である。園内の唐人辰岩、箕面の滝などは府下随一の景勝地である。また植物・昆虫の種類も多く、自然の宝庫として知られている。



### ○瀧安寺

箕面山吉祥院を号とする。白雉元年（650）、役小角が箕面滝に参籠して秘法を得得。諸堂宇を建立。箕面寺と称したのが始まりとされ、創建以来修験道の根本道場として発展した。

元弘の乱（1331）の失敗で後醍醐天皇が隠岐に流された際、護良親王は当寺に命じて天皇環御を祈願させ、

建武親政に際しては天皇から「瀧安寺」の寺号勅額が寄せられたという。慶長年間（1595～1615）に兵火・震災で堂宇は焼失・倒壊したが、明暦2年（1656）、後水尾天皇の勅命により再建された。約400年前の天正年間に当寺で宝くじが発祥し、これを求める大阪商人たちでにぎわった。今も毎年正月に修正会が行われ、このとき弁天道の前で古式富くじが行われる。



## ●摂津市

### ○金剛院

天平10年（738）、行基の開創によるもので、当時は放光山味舌寺と号した。寺伝によると、応仁年間（1467～69）のころ、この一帯に盗賊が出没したため、村人が本尊に盗賊追放の祈願をしたところ、本殿から数百匹の蜂が飛び出し、盗賊を追い払ったという。その蜂を供養して建てたのが、境内にある蜂塚である。これを機に寺号を蜂熊山蜂前寺と改めた。

### ○鳥飼院跡

平安中期、菅原道真を登用して藤原氏の勢力をおさえた宇多天皇の離宮であった。鳥飼は都から近いこともあり、山崎、水無瀬とともに離宮や別荘がつくられた。「大和物語」には、宇多天皇がたびたびこの地を訪れ、遊宴を催した事などが記されている。現在は工場・倉庫が建ち並ぶ新興住宅地となり、鳥飼離宮の面影をとどめるものはなにひとつ残っていない。

出典：「ふるさとの文化財 郷土資料事典 大阪府」人文社

「豊中市役所ホームページ」、「茨木市役所ホームページ」、「箕面市市役所」ホームページ、「京都国立博物館ホームページ」、「大阪府観光連盟ホームページ」より

### 3. 河川特性

#### (1) 神崎川

神崎川本川は、全区間にわたり河床勾配が水平から 1/6,000 程度と緩く、潮位の影響を受けやすい河川です。周辺は古くから開発が進み、市街地が形成されています。

市街化された周辺環境のもと、都市の中の貴重なオープンスペースとして自転車道、遊歩道をはじめとする高水敷の整備が行われています。これらのオープンスペースについては、地域の自治体や周辺の企業体の協力を得ながら維持管理（清掃など）がされています。



① 神崎川 西淀川区中島  
城島橋下流



② 神崎川 西淀川区御幣島  
神崎大橋上流



③ 神崎川 豊中市三国  
天竺川合流点



④ 神崎川 東淀川区西淡路  
新大吹橋下流



⑤ 神崎川 東淀川区相川  
阪急京都線下流



⑥ 神崎川 東淀川区南江口  
江口橋上流

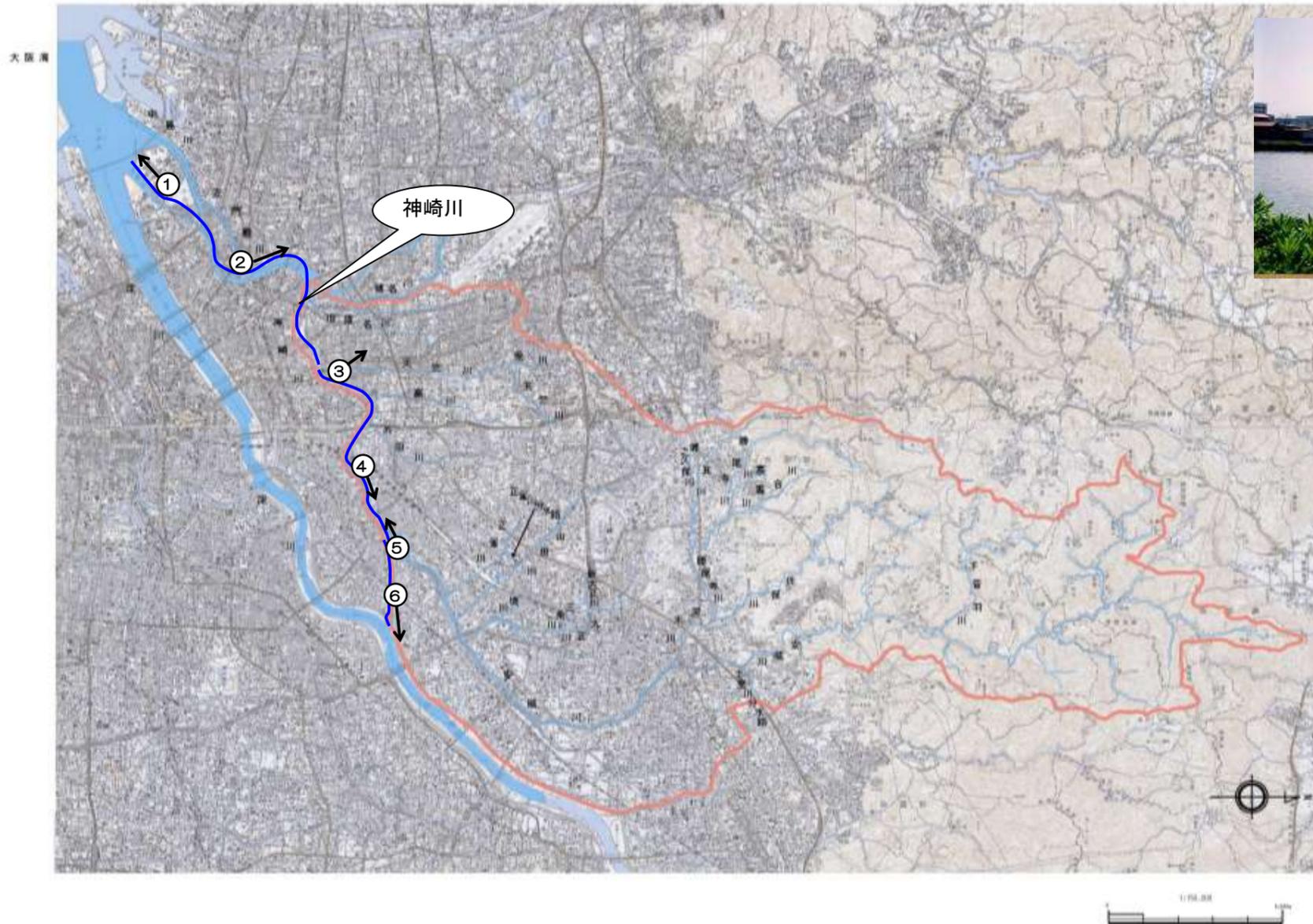


図-1.26 神崎川現況写真及び撮影位置図

(2) 安威川

・神崎川合流点～茨木川合流点付近

安威川下流（神崎川合流点から安威川新橋付近）では川幅が100m以上と広く、高水敷を有する複断面の河川がほぼ直線上に流れています。高水敷の一部は自転車道として活用されています。

大正川との合流部付近までは、感潮域<sup>7)</sup>となるため川幅いっぱいに水面が見られますが、河床勾配は1/1,500～1/2,000と非常に緩いため平常時は水の流れはほとんどありません。大正川合流部より上流の両岸には砂州が形成され、ツルヨシ等の生育が見られます。

安威川中下流（安威川新橋付近～茨木川合流点付近）では、川幅は70～80m程度となっています。高水敷を有する複断面であり、緩やかに蛇行しながら流れています。高水敷は、広場や遊歩道等として整備されているほか、桜堤<sup>8)</sup>の整備が実施されており、地域の人々の憩いの場となっています。流水の蛇行部には砂州が形成されています。河床勾配は1/500～1/900程度で緩やかに流れています。周辺には市街地が形成されています



① 神崎川・安威川 東淀川区相川  
高浜橋下流



② 安威川 茨木市新堂  
山科橋下流



③ 安威川 茨木市床  
千歳橋上流点



④ 安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流

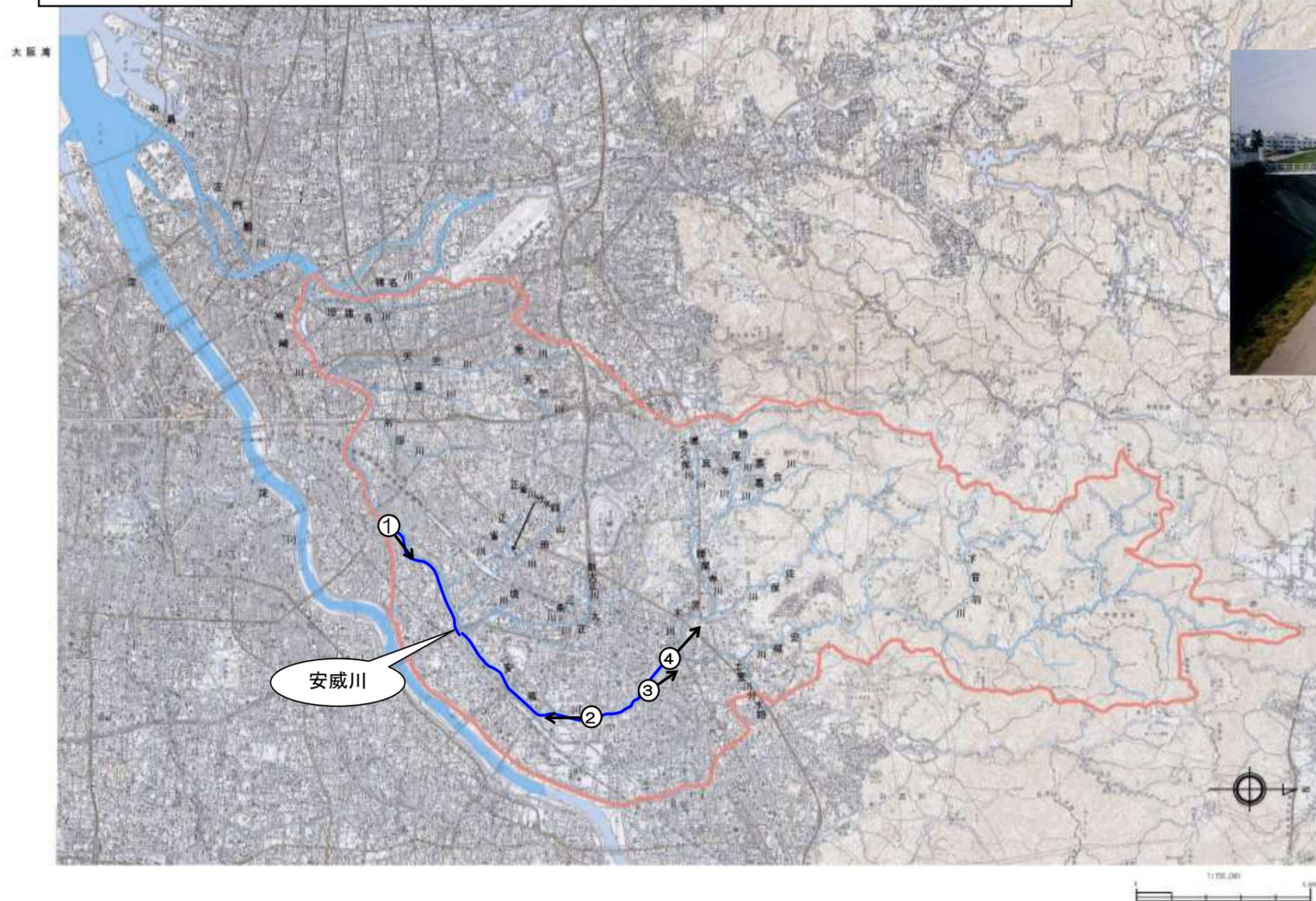


図-1.27 安威川（神崎川合流点～茨木川合流点付近）現況写真及び撮影位置図

7) 感潮域：海の潮汐の影響を受ける河川下流域のこと。  
8) 桜堤：堤防上で、河川の流水に影響のない範囲に桜を植樹した場所。

・茨木川合流点上流

安威川中上流（茨木川合流点付近～長ヶ橋<sup>おきが</sup>）では、川幅は50m程度となります。土室川分水路合流部までは複断面であり、高水敷には遊歩道の整備が施されています。河床勾配は1/300程度となっています。周辺には農地が見られるようになります。

安威川上流（長ヶ橋より上流）では、農地や樹林の間を蛇行しながら流下しています。川幅は20～30m程度と狭くなっています。河床材料は、砂から砂礫や礫に変わり、上流部では岩盤も見られます。河床勾配も1/100以下と急になります。山付き部は河畔林が水面まで迫る溪流の様相を呈します。瀬・淵の連続する多様な河川形態となっています。



② 安威川 茨木市桑原  
桑原橋下流



③ 安威川 茨木市車作  
登龍橋下流



① 安威川 茨木市三咲町  
茨木川合流点上流



④ 安威川 茨木市車作  
高橋上流



⑤ 安威川 茨木市車作  
車作大橋下流

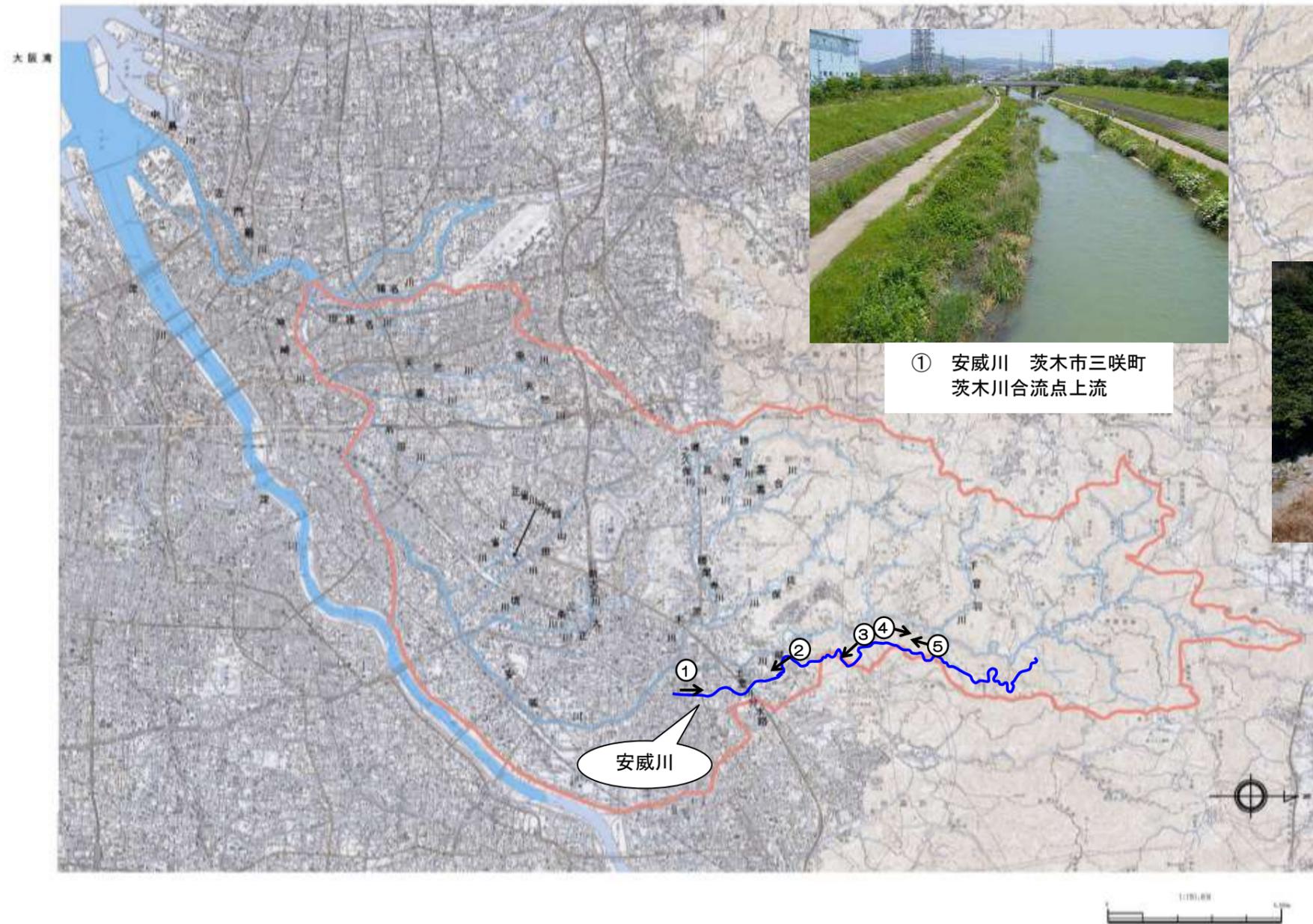


図-1.28 安威川（茨木川合流点上流）現況写真及び撮影位置図

(3) 天竺川・兎川、高川、糸田川、上の川（神崎川支川）

各河川とも急勾配のコンクリート護岸で整備され、水辺に近づきにくくなっています。また、流域の大半が市街化され、河床勾配が1/100～1/200と比較的勾配が急なため、大雨時には急激に水位が上昇することがあります。神崎川合流点付近は、河床勾配も緩く、一部は天井川となっている上、河道周辺は住宅が密集しているため、河川から氾濫した場合には甚大な被害が予想されます。

高川は、服部緑地より下流側で落差工直下の淵、景観に配慮したコンクリートの法面、河道へのアクセスのためのスロープなど、利用に配慮した整備がされています。

糸田川の中上流部では、川沿いに桜並木があり、一部で桜堤整備が実施されています。

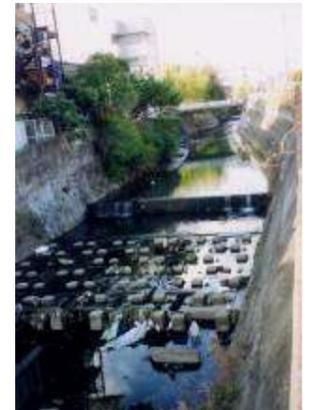
① 天竺川 豊中市豊南町  
日電橋付近（天竺川）



② 天竺川 豊中市浜  
天竺川橋下流



③ 天竺川 豊中市旭丘  
旭ヶ丘橋付近



④ 兎川 豊中市熊野町  
天竺川合流地点



⑤ 兎川 豊中市東豊中  
東豊中橋下流



⑥ 高川 吹田市江坂  
高川水路橋下流



⑦ 高川 吹田市春日  
一級河川始点下流



⑧ 糸田川 吹田市泉町  
豊津駅付近



⑨ 糸田川 吹田市南吹田  
新糸田川橋付近

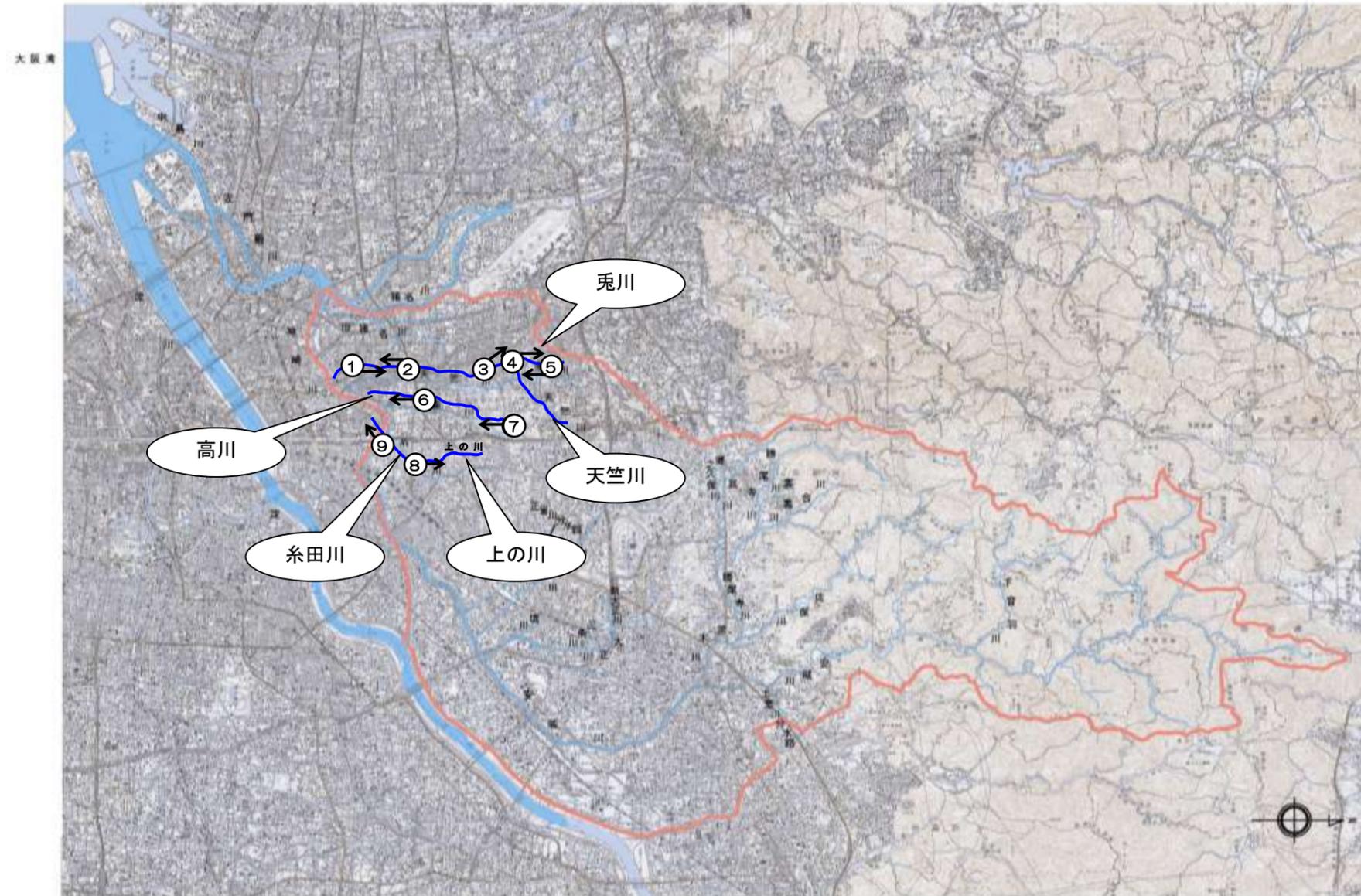


図-1.29 天竺川・兎川、高川、糸田川、上の川（神崎川支川）現況写真及び撮影位置図

(4) 大正川・新大正川、境川、三条川、山田川、正雀川・正雀川分水路（安威川中下流支川）

大正川の下流部は、安威川と同様に高水敷を有する複断面となっており、高水敷は、遊歩道等として整備されています。加えて桜堤整備も進められており地域の人々の憩いの場となっています。

大正川の上流部や山田川などの支川は、コンクリート護岸となっており、比較的勾配が急で、水辺には近づきにくくなっています。

各河川の周辺には市街地が形成されています。



① 山田川 摂津市正雀一の橋下流



② 山田川 摂津市千里丘下大神木橋上流



③ 大正川 摂津市三島鶴野中橋下流



④ 大正川 茨木市沢良宜大正川橋上流



⑤ 大正川 茨木市下穂積春日橋下流

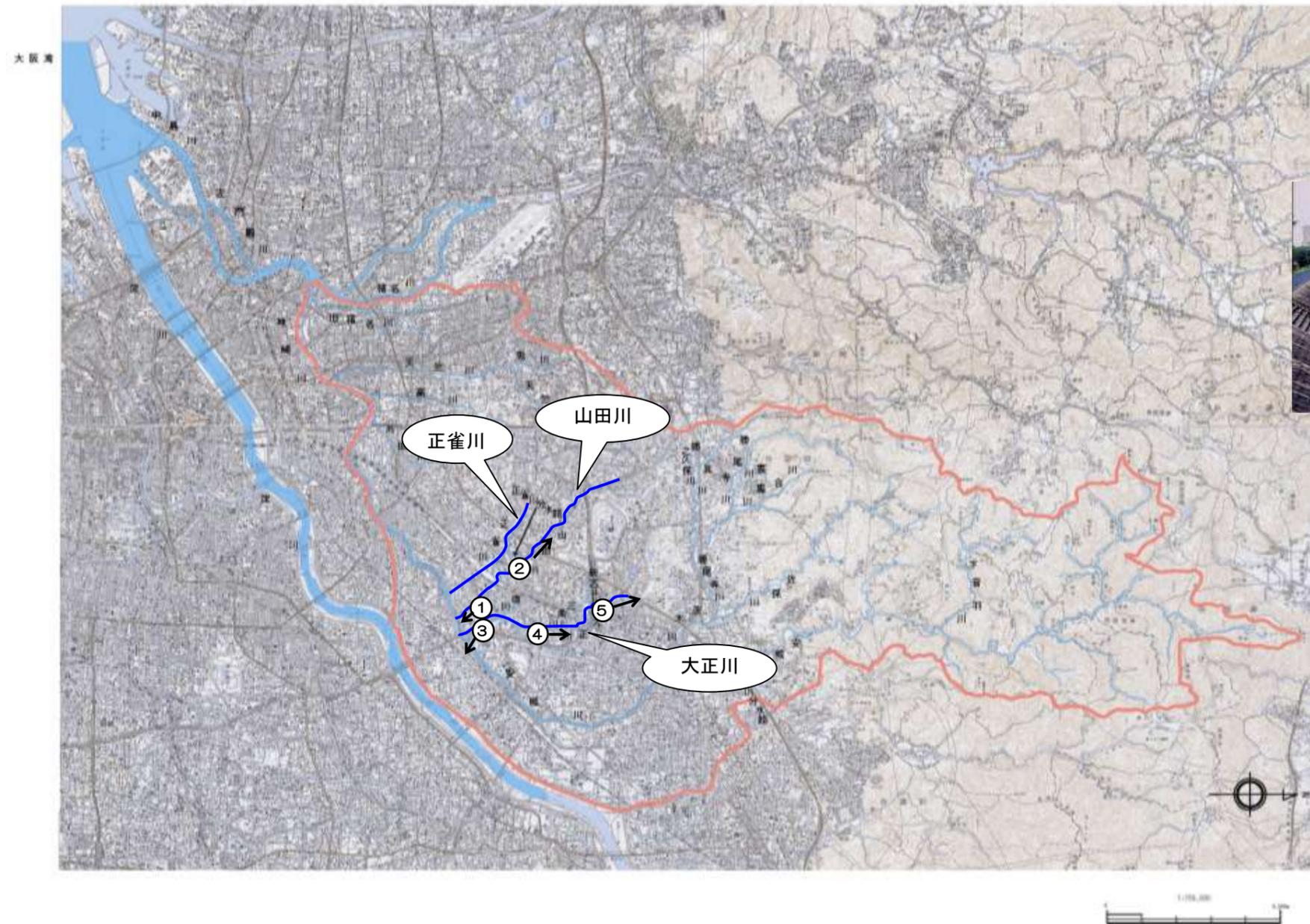


図-1.30 大正川、山田川、正雀川現況写真及び撮影位置図

(5) 茨木川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室川分水路  
下音羽川（安威川中上流支川）

茨木川は、川幅が40～50m程度、河床勾配が1/350程度となっています。昭和42年の北摂豪雨を契機に本格的な河川整備が進められ、安威川合流点から勝尾寺川合流点までの区間が改修済みとなっています。河道は、コンクリート護岸で整備されており、堤防には階段護岸、高水敷には遊歩道などが整備されています。人工的な護岸となっていますが、砂洲<sup>9)</sup>が発達してヨシ、クサヨシ等が生育しています。

河川の周辺には市街地が形成されています。

佐保川は、勝尾寺川合流点より上流の旧茨木川をさし、平成12年に名称変更がされました。上流は河床勾配が1/30ですが、集落があり古い護岸が築かれて河川になじんだ様相となっています。その下流は山地ですがところどころに田畑が開かれ、下流部では河床勾配が1/350とやや緩やかになり、住宅地が広がっています。佐保川の河川改修は、昭和42年から本格化し、昭和60年からは多自然川づくりが進められました。また、佐保川流域で彩都の開発が進められています。

勝尾寺川は、河床勾配が上流で1/30、下流で1/50となっています。河床勾配が急なため、落差工、取水堰等多くの横断工作物が設置されています。上流部は山地河川で両側に山が迫り、短い区間で瀬と落差が連続します。下流部では箕川が合流しており、その周辺は市街化が進み、河道はコンクリート護岸で整備されていますが、河川内には寄り州が形成され、瀬や河原のある多様な環境となっています。

川合裏川は、河床勾配が1/150、河川幅10m程度の急流河川でしたが、彩都の都市開発により、平成16年度にまちづくりと一体となった河川整備が完了し、そのまち開きが行われました。

下音羽川は、上流部では農地や樹林の間を蛇行しながら流下し、下流部では山付き部となり河畔林が水面まで迫る溪流となっています。



① 川合裏川 箕面市粟生間谷  
川合裏川上流



② 勝尾寺川 茨木市宿久庄  
川合橋可動堰



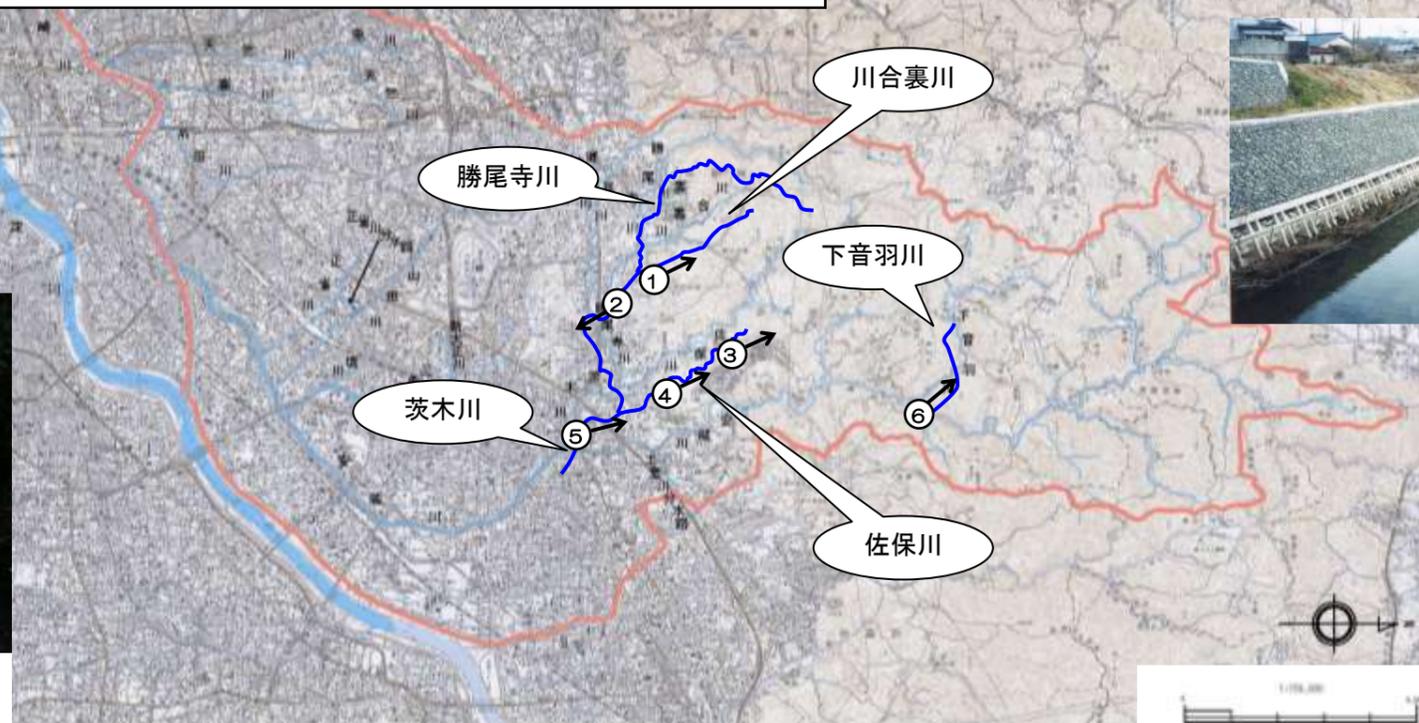
③ 佐保川 茨木市馬場  
馬場大橋付近



④ 佐保川 茨木市東福井  
福井橋下流



⑥ 下音羽川 茨木市車作  
安威川合流点付近



⑤ 茨木川 茨木市上野  
上野橋上流

図-1.31 茨木川、佐保川、勝尾寺川、川合裏川、下音羽川（安威川中上流支川）現況写真及び撮影位置図

<sup>9)</sup> 砂洲：河川内や河口付近、あるいは砂浜海岸などに形成される細長い砂礫の堆積した状態の場所。

## 第2節 河川整備の現状と課題

### 1. 治水の現状と課題

#### (1) 過去の洪水

神崎川ブロックでは、古くから氾濫や内水に悩まされてきました。

古くは宝亀3年(772年)、延暦3年(784年)に大洪水があり、この地区の治水対策として桓武天皇が淀川と神崎川を結んだとの記録が残っており、その後も近代まで、水路交通の要衝として栄える一方、たびたび氾濫に見舞われてきたとの記録が残されています。

明治期に入って抜本的な対策に取り組むようになるものの、洪水被害のたびに計画変更を余儀なくされるなど、たびたび洪水被害に見舞われています。

過去に起きた洪水のうち、記録に残っている中で最も被害が大きいのが北摂豪雨(昭和42年7月)で、茨木雨量観測所で総雨量が215.5mm、時間最大48mmもの降雨が記録されています。当時の資料によると死傷者61名、田畑冠水約1,500ha、家屋の全半壊41戸、床上・床下浸水約25,000戸、河川堤防決壊12箇所、橋梁被害13橋などとなっており、茨木市と摂津市の約1/3が浸水したといわれています。

表-1.21 過去の洪水

発生日	西暦	災害原因	概要
宝亀3年	772		
延暦3年	784		
天正18年	1590		唐崎(高槻市)にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
慶長14年	1609		大塚(高槻市)にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
寛永5年	1628		唐崎にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
寛永10年	1633		三島江(高槻市)淀川堤防八十間決壊。神崎川流域に内水がたまる。
明暦元年	1655		大塚にて淀川堤防決壊。神崎川流域に内水がたまる。
嘉永元年 8月	1848		島本町の淀川堤防、別府村の安威川堤防などが決壊、島上・島下両郡が大洪水となる。
慶応2年 2月	1866		神崎川右岸の別府村の堤が切れて水が逆流、唐崎村から三島江村・柱本村・西面村・鳥養郷五ヶ村・一津屋村・新在家村など12ヶむらの人家、田畑が水につかる。 安威川筋では、味舌村の堤が切れ、人家・田畑を水底にして濁流は村境の山田川に入り込み、岸部郷村々に溢れた。
明治元年 4月	1967		別府村(今の摂津市別府付近)の御国役堤、字外嶋が大破したのをはじめ、安威川・境川・茨木川・山田川などの諸川も決壊した。 鳥飼組村々や一津屋・新在家・別府村など、神崎川に至る村々の数多くの家屋が流失・転倒。
明治9年 10月	1876		神崎川が氾濫して味生村大字別府堤防二十二間を決して、耕地三六四町歩余(約3.6平方km)を浸した。
明治15年 8月	1882	暴風・大雨	唐崎(高槻市)の淀川堤防と吹田村下新田の神崎川堤防が決壊し、耕地二〇〇町歩余(約2平方km)が水没した。
明治18年 6月	1885	大雨	【吹田市】6月上旬からの長雨で淀川が満水になりは停止、淀川右岸が一面に浸水。6月末、再び降雨による洪水が発生し被害増大。 【大阪市】橋はほとんど流失、中之島付近では軒下15cmまで浸水
明治29年 7月21日	1896	大雨	鳥飼村の淀川堤防、味生村大字別府の安威川堤防、味舌村大字味舌下および三宅村大字鶴野の安威川堤防が決壊、付近一帯が水没。 稗島・千船・歌島村(大阪市西淀川区)に被害
明治29年 9月8日	1896		【西淀川区】御幣島・歌島・加島・稗島など浸水 【東淀川区】三津谷・野中・堀・今里・小島・木川・堀上・加島・南宮原・宮原新家・東宮原・十八條・西・川口・南方・山口・淡路・濱・薬師堂・南方新家の各村が浸水、農作物も皆無に記す。
大正6年 9月30日～ 10月1日	1917	台風	【吹田市】10月1日淀川右岸一帯が浸水し、安威川、神崎川の破堤を誘発。淀川右岸堤防に沿って濁水が大坂湾に流出。
昭和7年 7月8日	1932		【茨木市】茨木川が田中で十数間にわたって堤防決壊。人家が多数浸水。田畑の被害は数百町歩。

発生日	西暦	災害原因	概要
昭和9年 7月	1934		【茨木市】安威川筋では十日市・馬場・目垣・十一の堤、茨木川筋では田中・沢良宜西および同東の堤防が決壊。被害は大。
昭和9年 9月21日	1934	室戸台風	【西淀川区】死者・行方不明者243人、重軽傷505人、流失・全半壊516戸 【東淀川区】死者33人、重軽傷者155人、流失・全半壊662戸、半流失10戸、床上浸水106戸 【茨木市】死者7人、負傷者136人 【摂津市】死者12人、負傷者48人、全半壊295戸
昭和10年 6月29日	1935		【茨木市】茨木川筋では中河原右岸120m、五日市右岸60m沢良宜西・同東の両岸160m決壊。安威川筋では十日市右岸350m、西河原および戸伏で左右両岸各50m、二階堂上手で右岸100mが決壊。付近一帯に氾濫して大被害。 【摂津市】茨木川・安威川の堤防が各所で決壊 【箕面市】勝尾寺川などの河川が増水し、橋梁の流失・護岸堤防決壊。大被害発生。
昭和10年 8月10日	1935		【茨木市】護岸堤防の決壊が相続ぐ。浸水家屋5000戸、流失ならびに半流失家屋350戸。 【摂津市】茨木川・安威川の堤防が各所で決壊。鳥飼村で約35haの免租申請。 【箕面市】集中豪雨により、被害がさらに増大。
昭和25年 9月3日	1950	ジェーン台風	【西淀川区】死者・行方不明者58人、重軽傷者1,049人、流失・全半壊8,786戸、床上浸水6,130戸、床下浸水2,614戸 【東淀川区】死者4人、重傷者7人、全半壊1,288戸、床上浸水198戸、床下浸水1,642戸、非住家被害162戸 【茨木市】負傷者15人、全半壊233戸 【吹田市】負傷者6人、全半壊297戸 【摂津市】負傷者32人、全半壊294戸、非住家被害1,220戸
昭和26年 7月11日～ 15日	1951		【茨木市】西河原橋・永久橋が多額の被害。道路決壊12箇所、被害総額7600万円。 【摂津市】味舌町で浸水被害。
昭和28年 9月25日	1953	台風13号	【茨木市】死者1人、負傷者6人、全半壊81戸、床上浸水420戸、床下浸水1,263戸 【摂津市】床上浸水1,030戸、床下浸水561戸、非住家浸水457戸
昭和36年 9月16日	1961	第二室戸台風	【大阪市】死者6人、負傷者682人、流失・全半壊1,726戸、床上浸水51,500戸、床下浸水54,000戸 【茨木市】死者1人、負傷者9人、全半壊41戸
昭和40年 5月26日～27日	1965	台風6号	【摂津市】床上浸水22戸、床下浸水226戸
昭和42年 7月9日～13日	1967	梅雨前線	【茨木市】死者1人、負傷者9人、床上浸水1,892戸、床下浸水10,618戸 【吹田市】死者1人、負傷者50人、床上浸水2,695戸、床下浸水7,413戸 【摂津市】床上浸水933戸、床下浸水1,791戸、
昭和43年 7月2日	1968	梅雨前線	【茨木市】死者1人、床上浸水19戸、床下浸水1,764戸 【吹田市】床上浸水87戸、床下浸水1,168戸 【摂津市】床上浸水92戸、床下浸水881戸、非住家浸水2戸
昭和44年 6月25日	1969	梅雨前線	【茨木市】半壊1戸、床上浸水23戸、床下浸水646戸 【摂津市】床上浸水2戸、床下浸水61戸、非住家浸水1戸
昭和47年 9月16日	1972	台風20号	【茨木市】半壊2戸、一部破損9戸、床上浸水5戸、床下浸水211戸 【吹田市】一部破損3戸、床下浸水350戸 【摂津市】床上浸水3戸、床下浸水150戸
昭和54年 9月30日	1979	台風16号	【茨木市】床上浸水3戸、床下浸水313戸 【吹田市】半壊1戸、床上浸水9戸、床下浸水189戸 【摂津市】床下浸水28戸
昭和56年 10月9日	1981	大雨	【茨木市】床上浸水9戸、床下浸水105戸 【吹田市】床上浸水17戸、床下浸水250戸 【摂津市】床下浸水22戸
昭和58年 9月28日	1983	台風10号	【茨木市】床上浸水10戸、床下浸水139戸 【吹田市】床下浸水84戸 【摂津市】床上浸水66戸、床下浸水663戸
平成9年 8月7日	1997	大雨	【茨木市】床上浸水24戸、床下浸水43戸 【吹田市】床上浸水75戸、床下浸水168戸、非住家浸水209戸 【摂津市】床上浸水2戸、床下浸水116戸、非住家浸水23戸
平成11年 6月29日～30日	1999	梅雨前線	【茨木市】床上浸水2戸、床下浸水40戸 【摂津市】床上浸水102戸、床下浸水32戸、非住家浸水33戸 【吹田市】床下浸水28戸
平成24年 8月13日～14日	2012	大雨	【摂津市】床上浸水51戸、床下浸水137戸 【茨木市】床上浸水2戸、床下浸水45戸
平成25年 8月25日	2013	大雨	【大阪市】床上浸水22戸、床下浸水499戸 【豊中市】床上浸水3戸、床下浸水121戸 【吹田市】床上浸水19戸、床下浸水187戸 【摂津市】床下浸水2戸 【茨木市】床下浸水2戸

出典：「西淀川区史」、「東淀川区史」、「茨木市史」、「吹田市史」、「摂津市史」、「箕面市史」等

○北摂豪雨（昭和42年7月）

梅雨前線が7日朝から太平洋南岸沿いに停滞していましたが、そこに2日に発生した台風7号の北上に伴い梅雨前線も北上し、近畿地方の中南部を主として各地で雷雨を伴う強い雨が降った。台風7号は8日には熱帯低気圧となり、前線も南下し活動も弱まったが、9日には熱帯低気圧は梅雨前線上に吸収され東北東に移動したため、梅雨前線の活動が活発になり、大阪中北部で集中豪雨が発生しました。

流域内の茨木市では日雨量215.5mm（9日）、時間雨量48.0mmが観測されました。

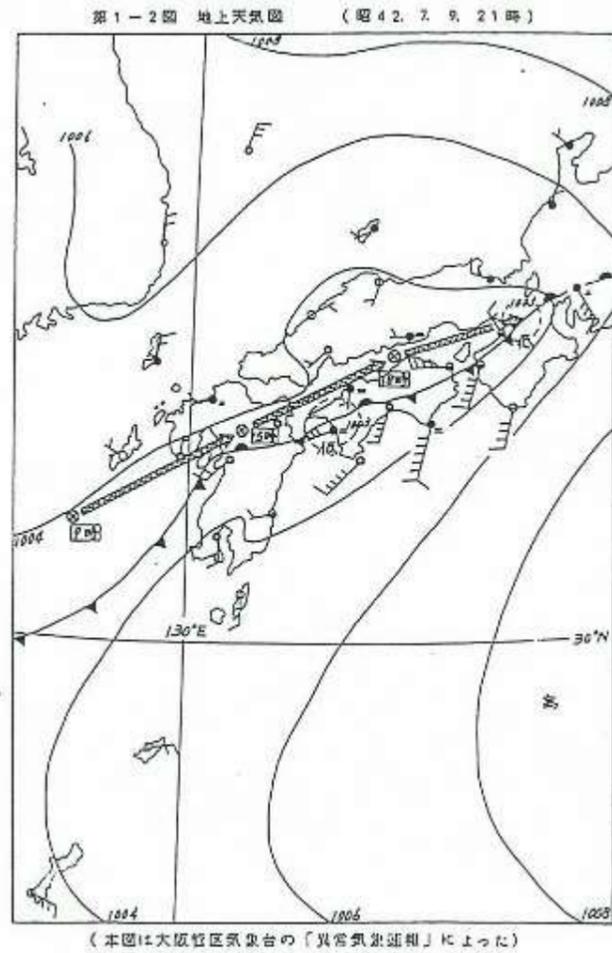


図-1.32 地上天気図

資料：「昭和42年7月豪雨災害 概要」 大阪府

表-1.22 日雨量 単位：mm/日

観測場所	7日	8日	9日	10日	11日	12日	計
箕面（气象台）	19.0	17.0	267.0	0	43.0	9.0	355.0
見山	20.0	16.5	256.0	0	75.5	10.0	378.0
茨木	18.5	14.5	215.5	0	56.0	10.0	314.5
池田	15.5	19.0	245.5	0	36.0	6.5	322.5
三国	8.0	44.0	200.0	0	35.0	13.0	300.0

表-1.23 時間雨量 単位：mm/時間

日時	見山	茨木	池田	三国
7月9日 06				
07				
08				
09				
10	5.5	3.5	3.0	5.0
11	9.0	11.0	9.5	3.0
12	2.5	1.5	0.0	8.0
13	11.5	10.5	24.5	0.5
14	13.5	0.5	20.0	0.0
15	4.5	0.0	1.5	0.0
16	1.5	0.0	1.0	19.0
17	46.0	27.0	21.0	4.0
18	20.0	3.5	37.0	6.0
19	24.0	29.0	16.5	26.0
20	34.0	35.0	31.0	45.0
21	43.0	48.0	51.0	39.0
22	38.0	44.5	28.5	26.0
23	2.0	0.5	0.5	1.0
24	0.5	0.5	0.5	0.5
7月10日 01				
02				
03				
04				
05				

出典：「昭和42年7月豪雨災害 概要」 大阪府

○北摂豪雨による被害状況



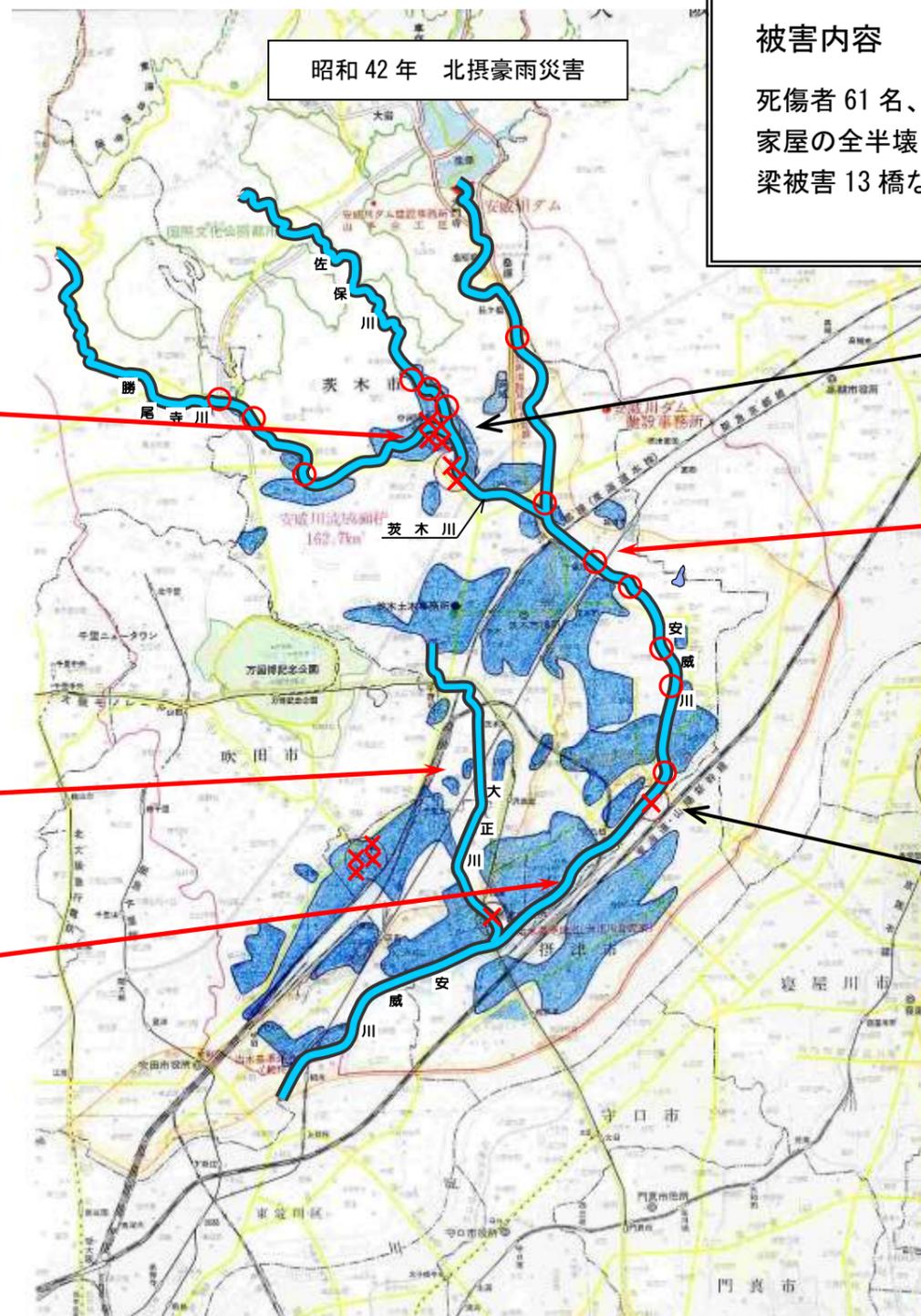
茨木川・勝尾寺川合流点付近（茨木市中河原町）



（茨木市沢良宜）



JR 鳥飼基地  
（摂津市安威川南町）



**被害内容**  
 死傷者 61 名、田畑冠水約 1,500ha  
 家屋の全半壊 41 戸、床上・床下浸水約 25,000 戸、河川堤防決壊 12 箇所、橋梁被害 13 橋など「茨木・摂津市の約 1/3 が浸水」。（市広報より）

昭和 42 年 7 月 9 日 21 時 30 分 決壊  
 勝尾寺川左右岸（茨木市中河原地区）  
 【昭和 42 年 7 月豪雨災害：大阪府】



千歳橋の橋脚破損（茨木市戸伏町）

昭和 42 年 7 月 9 日 22 時 00 分 決壊  
 安威川左岸（茨木市野々宮地区）  
 【昭和 42 年 7 月豪雨災害：大阪府】

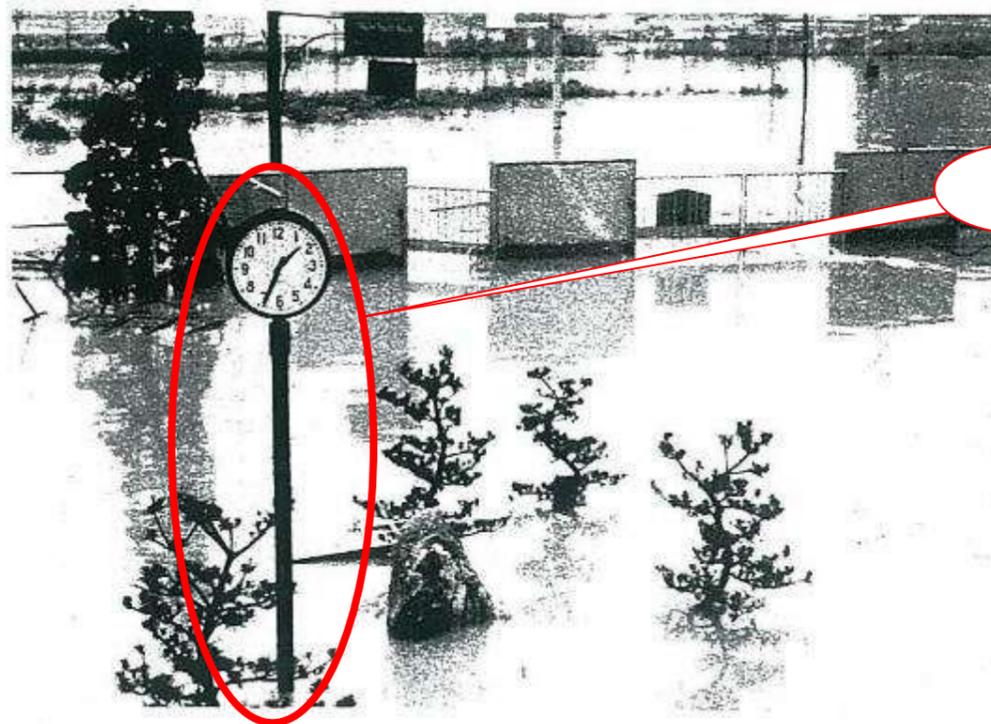
凡 例	
	安威川流域界
	洪水氾濫防止区域
	水位観測所
	雨量観測所
	災害時浸水区域
	堤防決壊箇所
	橋梁被害箇所

図-1.33 被害状況

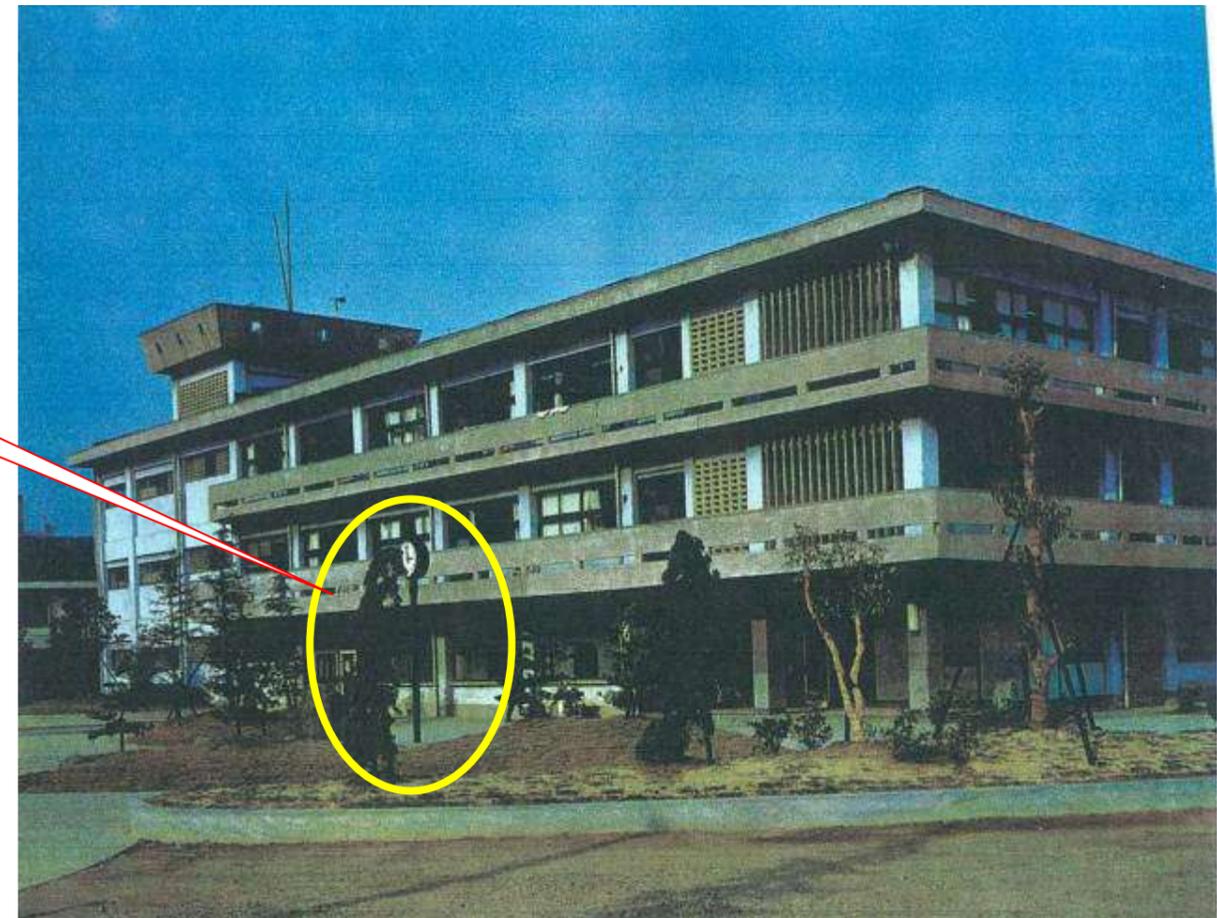
○北摂豪雨被害の再検討

昭和 42 年 7 月の北摂豪雨の状況を再検討するために、被災当時のニュース映像を入手して、被災箇所の特特定を行ったり、当時の状況を知っている人にインタビューをしたりして、資料収集を行いました。

当時、摂津市役所に隣接していた三島中学校の状況から、当時の被災状況を伺い知ることができます。



時計



当時の三島中学校

摂津市三島付近（出典：近畿水害写真集）  
 旧三島中学校正門前の浸水状況  
 （三島中学校跡地に現在の摂津市役所がある）

○内水被害の状況

近年では、平成 11 年の洪水被害の後、外水被害は出ていませんが、内水被害については、その後も大阪市東淀川区や摂津市など毎年のように発生しています。

表-1.24 内水被害の発生状況

年	地区	床下浸水世帯数	浸水事業所数	被害額(千円)
H12	豊中市、摂津市	4	21	58,271
H14	大阪市東淀川区	10	1	9,528
H15	大阪市東淀川区 摂津市	84	37	136,742
H16	大阪市東淀川区または淀川区（十八条処理区内）	0	1	1,899

出典：水害統計平成 12～16 年

## (2) 治水の現状

### ①神崎川

昭和9年の室戸台風と昭和25年のジェーン台風、昭和36年の第2室戸台風による高潮の被害を受けたため、昭和期から高潮対策を中心に堤防の整備が進められました。

昭和36年から神崎川改修事業が開始され、昭和42年7月豪雨（北摂豪雨）を契機に神崎川基本計画（昭和42年11月）が策定され改修が進められてきました。

多数架けられている橋梁の橋脚への影響を考慮して神崎川全体計画（平成9年11月）が策定され、加島基準点での計画高水流量<sup>10)</sup>を1,300m<sup>3</sup>/sとする改修が行われています。現在は、時間雨量50ミリ程度<sup>11)</sup>の降雨による洪水に対応できない区間があります。

また、平成7年の阪神淡路大震災を契機に大阪府では「地震防災アクションプログラム」を策定し、耐震対策が必要な大豊橋から神洲橋間について、耐震対策工事を実施し、平成26年度に完了しており、さらには、東日本大震災を契機に「河川構造物の耐震性能照査指針」<sup>12)</sup>に基づき南海トラフ巨大地震等に対する照査を実施した結果、地震による浸水については、上町断層等の直下型地震により堤防等の沈下が生じて、河川の平常時の最高水位<sup>13)</sup>に対して沈下後の堤防高の方が高いため、沿川が浸水することは想定されません。また、津波による浸水についても、近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震等の海溝型地震により堤防等の沈下が生じて、地震に伴い発生する津波水位に対して沈下後の堤防高の方が高いため、沿川が浸水することは想定されません。

神崎川の安威川合流点より上流に流入する番田水路の合流点には、番田水路の堤防高が低いため、洪水時に神崎川の洪水が同水路に逆流し溢水する可能性があることから、その対策として番田水門を平成19年度に建設しました。

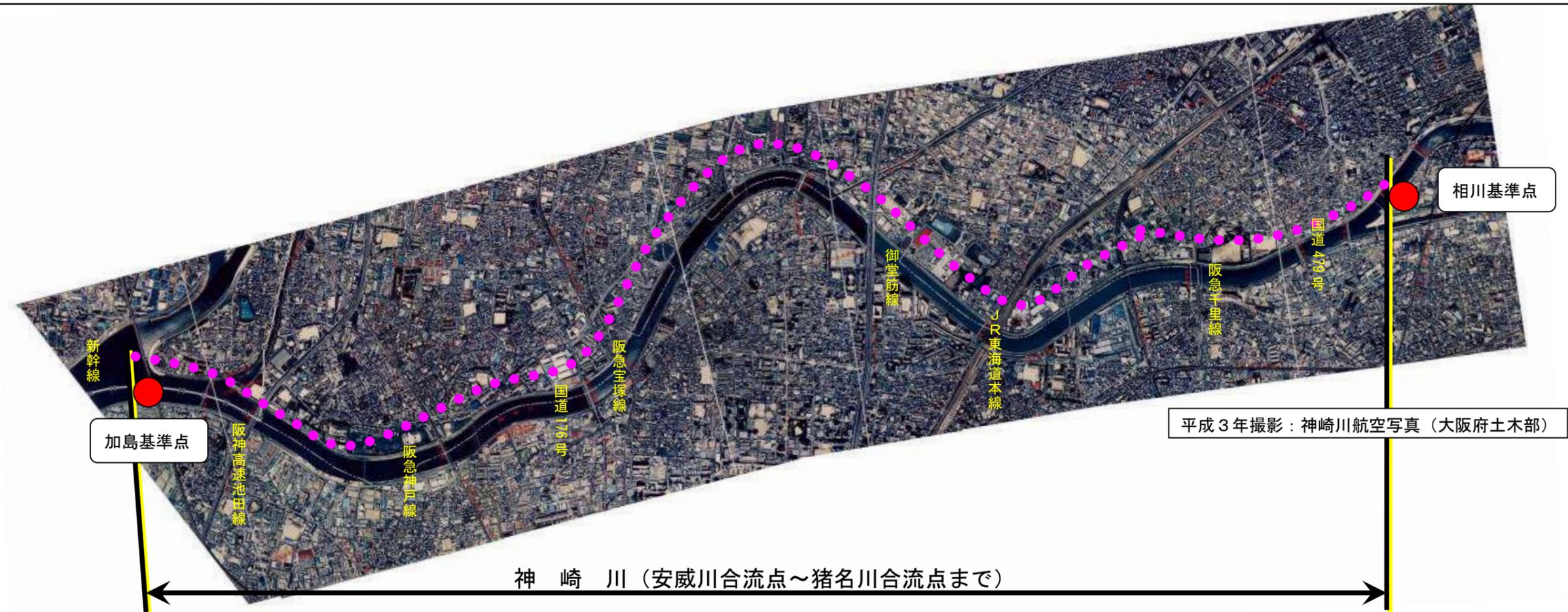


図-1.34 治水の現状

<sup>10)</sup> 計画高水流量：貯留施設等により洪水調節を行ったときの河川流量。

<sup>11)</sup> 時間雨量50ミリ程度：10年に1度程度発生する恐れのある雨量。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/10であること。

<sup>12)</sup> 「河川構造物の耐震性能照査指針」：平成28年3月 国土交通省水管理・国土保全局治水課 参照。

<sup>13)</sup> 平常時の最高水位：平常時の最高水位は、近年に発生した大規模な地震により被災した堤防の地震後の復旧が、概ね14日間で完了していることを考慮して14日間に発生する確率が1/10の水位とするとされている。また、水位の算定にあたっては、14日間に発生する確率が1/10の河川流量に対応する水位、または朔望平均満潮位に14日間に発生する確率が1/10の波高を用いて算出した打ち上げ高を考慮して求める水位のうち、いずれか高い方の水位で設定する。

○神崎川流域の現状と整備標準横断面図

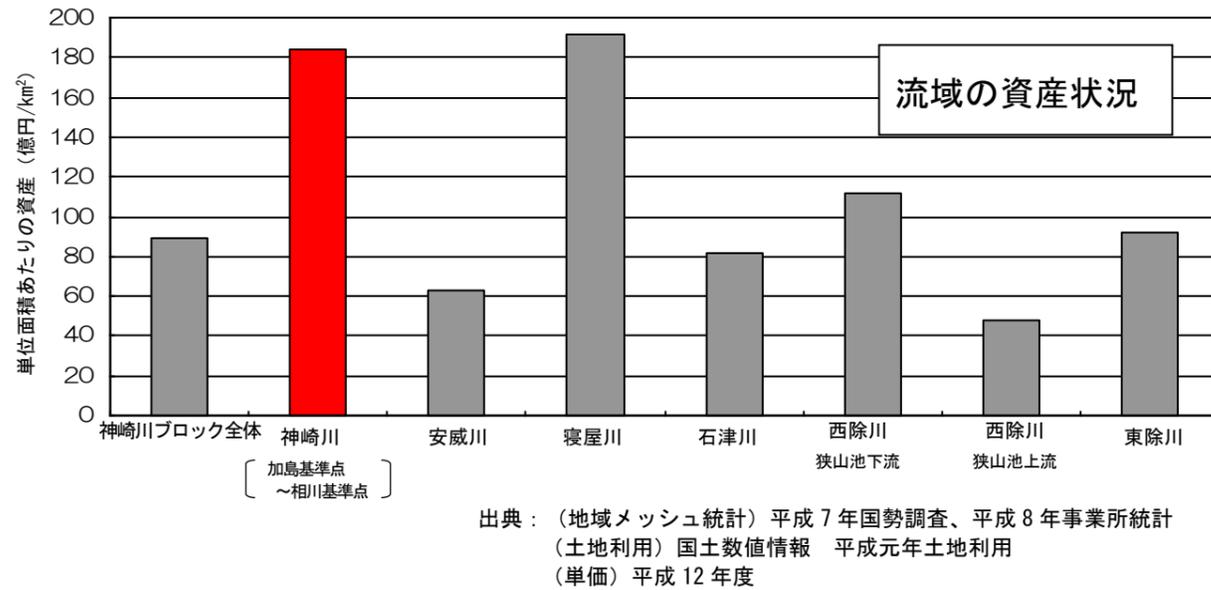


図-1.35 流域の資産状況

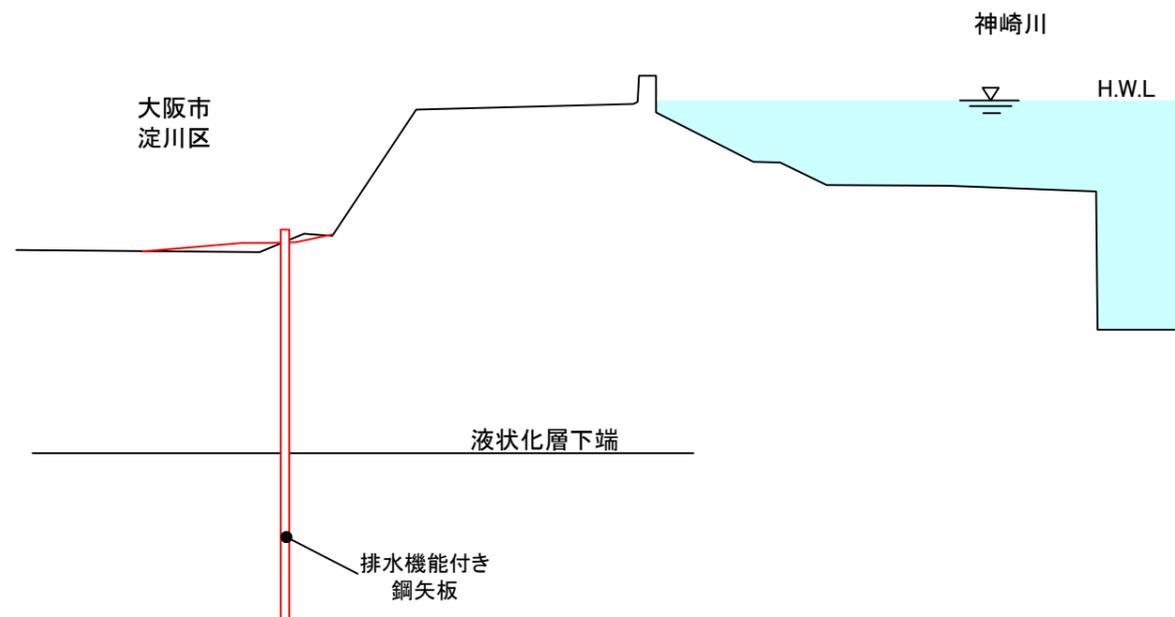
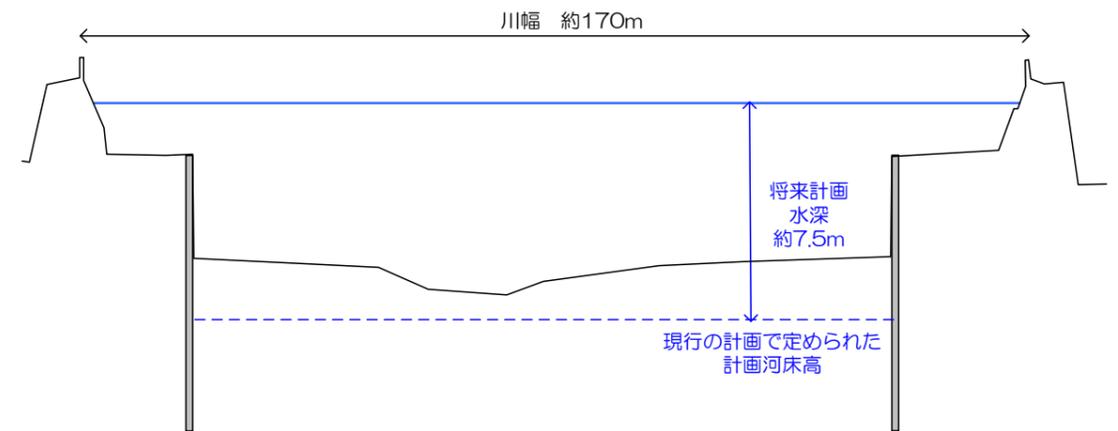


図-1.36 耐震補強



(注) 護岸については、現行計画の構造物として対応

図-1.37 神崎川中流 (河口から10km付近) の横断形状のイメージ

## ②安威川

昭和 10 年の水害を契機に改修工事（計画高水流量 418m<sup>3</sup>/s）に着手し、茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流するように付け替え、安威川の河道を複断面とし、拡幅、築堤、低水路掘削を実施しました。

その後、計画流量を上回る昭和 26 年 7 月および昭和 28 年 9 月の台風に伴う災害復旧工事により、低水路拡幅による河積の拡大を図りました。

昭和 36 年には計画高水流量を 690m<sup>3</sup>/s とした河川改修事業に着手し、下流より鶴野橋<sup>つるの</sup>まで概成しました。高水敷を掘削・整備し、低水路を拡幅するとともに築堤して河積の拡大を図りました。

昭和 42 年 7 月の集中豪雨（北摂豪雨）により堤防法面の崩壊、橋梁流失の他、茨木市野々宮<sup>ののみや</sup>で破堤したことを契機に、下流神崎川を含めた改修計画を再検討し、昭和 46 年に相川基準点での計画高水流量を 1,250m<sup>3</sup>/s とした治水計画をたてました。

その改修内容は河川の拡幅や河床掘削を可能な限り行い、洪水疎通に支障となる堰の撤去を積極的に行い、それでも不足する洪水流量を上流ダムにより調節するというものです。

これまで、河川改修とダムの建設を内容とした治水事業を進めてきており、下流部の河川の改修については、昭和 61 年度末には茨木川合流点から下流の護岸工事が概ね完了し、阪急下安威川橋梁の架替及び河床切り下げ工事も平成 9 年に完了しています。現在は、時間雨量 50 ミリ程度の降雨による洪水に対応できない区間があるため、安威川ダムの建設を進めており、平成 26 年 3 月からダム本体の建設工事を行っています。



ダム建設に伴う付替道路

H24. 4 現在



ダム堤体（下流面）

ダム堤体（上流面）

42



代替地（車作地区）

H29. 1 現在

### ③天竺川・高川・糸田川・上の川（神崎川支川）

天竺川は、昭和 21 年から天竺川橋基準地点での計画流量を 80m<sup>3</sup>/s とする改修が始まり、昭和 40 年に完成しました。昭和 42 年 7 月の集中豪雨（北摂豪雨）による洪水被害を受けて、計画流量を 110m<sup>3</sup>/s とする改修が昭和 42 年から昭和 45 年にかけて行われましたが、現状で、時間雨量 50 ミリ程度の降雨による洪水に対応できない区間があります。

高川は、昭和 34 年から昭和 39 年にかけて計画流量を 60m<sup>3</sup>/s とした改修が行われました。

新石橋下流では計画流量を 85m<sup>3</sup>/s とした改修が実施され、現在、時間雨量 50 ミリ程度の治水安全度は確保できています。

その他、府道豊中吹田線を横過している水路橋及び、その下流部の護岸の老朽化が問題となっていたため、水路橋の架け替えなどの老朽化対策工事を実施し、平成 26 年度に完了しています。

糸田川は、昭和 58 年に全川的な河床掘削が行われ、昭和 62 年には下流から中流区間において河床掘削が行われました。護岸の一部は昭和 61 年にはすでに整備されており、その後昭和 63 年までに現在の護岸が整備されました。下流の特殊嵩上げ堤防は、昭和 63 年に整備されました。

上の川は、千里ニュータウンの開発にあわせて護岸の整備がされています。沿川には、人家が張り付いており、これまでに何度も浸水被害が出ていますが、河道の拡幅による河川改修が困難な状態になっています。このため平成 15 年に上の川調節池が整備され、上の川橋基準点での計画流量 28m<sup>3</sup>/s を目標とした改修が行われましたが、平成 25 年 8 月の豪雨により、阪急電鉄関大前駅付近で浸水被害が発生しました。現在、再度災害防止を目的に上の川調節池の貯留水の排水能力を増強する工事を行っています。名神高速道路上流ではいくつかの箇所時間で時間雨量 50 ミリ程度の降雨による洪水に対応できない区間があります。

関西大学とその周辺のまちづくりを推進するため、関西大学、阪急電鉄、大阪府、吹田市により、上の川治水対策をはじめ、様々な地域課題の解消に向けた協議が行われているところであり、この中で、上の川の治水対策についても、様々な手法の提案や検討が進められています。

※ 神崎川、安威川では日雨量を用いているが、神崎川ブロックの流域面積が小さい支川においては時間雨量を基に治水計画をたてていることから、現状の治水安全度は時間雨量を用いています。



天竺川 豊中市浜 天竺川橋上流



糸田川 吹田市広芝町 広芝橋上流



兎川 豊中市熊野町 無名橋上流



上の川 吹田市山手町 豊津駅付近上流



高川 豊中市豊南町東 神崎川合流点付近



高川 吹田市江坂町 水路橋

④正雀川・山田川・大正川（安威川中下流支川）

正雀川、山田川は、万国博覧会に関連して改修が行われました。山田川では名神高速道路上流において平成9年に浸水被害が発生しています。これを契機として特殊嵩上げ堤防の嵩上げや橋梁部の止水高欄化などの対策を実施し、現在は、時間雨量50ミリ程度の治水安全度は確保しています。正雀川も時間雨量50ミリ程度の治水安全度は確保しています。

大正川は、昭和56年から平成元年にかけて河床掘削が行われました。護岸及び高水敷は平成2年までに整備されました。

現在は、安威川合流点から春日橋下流では時間雨量80ミリ程度<sup>14)</sup>の降雨による洪水に対応できる整備が完了していますが、春日橋上流では対応できていない区間があります。



山田川 摂津市東正雀 中道橋下流



大正川 摂津市香露園 味舌橋上流

⑤茨木川・佐保川・勝尾寺川・川合裏川（安威川中上流支川）

茨木川は、流出土砂が多く、昔より大きな災害に見舞われてきました。本格的な改修に着手したのは、昭和7年の洪水と昭和10年の洪水を契機に茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流させ、安威川の断面を拡幅する工事が着手されました。昭和12年には茨木川の流路が変更され、昭和18年まで大規模な工事が進められました。

その後戦後の度重なる洪水においても安威川、茨木川は決壊を免れましたが、昭和42年7月の集中豪雨（北摂豪雨）に見舞われ、安威川、勝尾寺川、箕面川が増水し、堤防の決壊、氾濫、橋の流出等の大被害が発生しました。この洪水とわが国初の万国博覧会を大阪で開催すること等の理由により、昭和42年より安威川筋の改修工事が本格的に実施されました。

その後、茨木川では、流域の開発により洪水流量の増大が懸念され、これまでの計画を見直し、茨木川全体計画（平成7年12月）、川合裏川防災調節池全体計画（平成8年2月）が策定され、河川改修を実施してきました。

現在、茨木川、佐保川、勝尾寺川は、時間雨量65ミリ程度<sup>15)</sup>の降雨による洪水に、川合裏川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水に対応できる整備が完了しています。



茨木川 茨木市上野町 上野橋上流



川合裏川 箕面市粟生間谷 裏川橋上流



勝尾寺川 茨木市清水 無名橋下流



佐保川 茨木市西福井 福井橋下流

<sup>14)</sup> 時間雨量80ミリ程度：100年に1度程度発生する恐れのある雨量。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/100であること。

<sup>15)</sup> 時間雨量65ミリ程度：30年に1度程度発生する恐れのある雨量。統計学上は、毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30であること。

(3) 治水の課題

神崎川ブロックは、200万人を超える人口と、国土軸である名神高速道路、東海道新幹線などを抱えた大阪府下でも重要な流域であり、堤防の決壊などの洪水被害は甚大なものとなります。

治水の現状で述べたように、当ブロックでは、古くから治水事業を実施していますが、現状でも、神崎川、安威川、天竺川・兎川、上の川、高川、山田川、正雀川・正雀川分水路、大正川及び、箕川で、人家への浸水被害が想定されることから、更なる治水安全度の向上が必要です。

しかしながら、市街化の進行した当ブロックでは、河道拡幅や河床掘削による対応が困難となってきた地域が増えてきています。

こうした現状から、ダムや調節池などの洪水調節施設の整備や、流域市などとの連携によるため池などの既存施設の有効活用など、流出抑制対策が必要となってきました。

また、神崎川ブロックの各河川では、土砂の堆積や河床低下、河川管理施設の老朽化等が見られることから、適切な維持管理が必要です。

さらに、計画を超える規模の降雨が発生する可能性が高まっていることや、整備途上においても洪水が発生する恐れがあることから、農地の減少に伴う潰<sup>かい</sup>壊の可能性があるため池の保全を図るとともに、ため池の雨水貯留機能を活用した流域対策や、洪水が発生した場合に、速やかな避難を実現するための地先における洪水リスク情報の提供、住民主体の防災マップづくりへの支援、降雨や河川水位等の河川情報の提供等の取り組みが必要となっています。

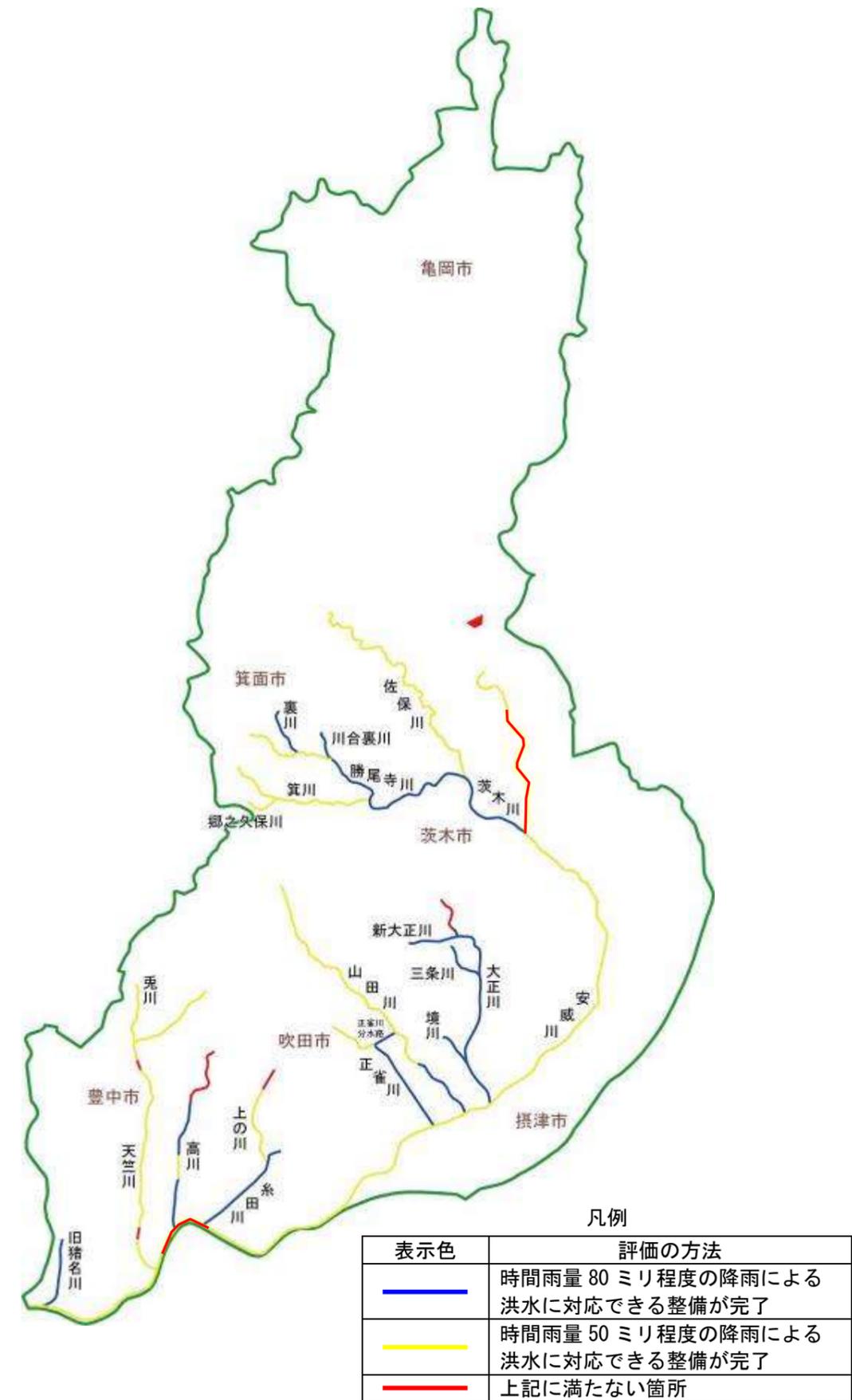


図-1.38 治水安全度現況図

## 2. 河川利用及び河川環境の現状と課題

### (1) 水質、底質

#### ・水質

河川の水質汚濁に係る環境基準は、安威川上流（茨木市取水口より上流）、安威川下流（茨木市取水口から大正川合流点まで）、佐保川、茨木川、大正川、勝尾寺川ではA類型に指定されており、河川の代表的な汚濁指標とされているBOD<sup>16)</sup>（生物化学的酸素要求量）の環境基準は2mg/L以下となっています。神崎川、安威川下流（大正川合流点より下流）ではB類型に指定されており、河川の代表的な汚濁指標とされているBODの環境基準は3mg/L以下となっています。また、天竺川についても、平成29年1月に新たにB類型に指定され、BODの環境基準は3mg/L以下となっています。

神崎川ブロックにおける公共水域の水質測定地点における平成23年度から27年度までの5年間のBOD75%値は、A類型に指定されている安威川、佐保川、茨木川、大正川、勝尾寺川の6地点ではいずれも2mg/L以下、B類型に指定されている神崎川、安威川、天竺川の4地点ではいずれも3mg/L以下と、環境基準を満足する良好な水質で推移しています。また、類型指定がされていない山田川では平成25年度に5.3mg/L、正雀川では平成24年度に12mg/Lでしたが、平成26年度以降はいずれも3mg/L以下の良好な水質となっています。

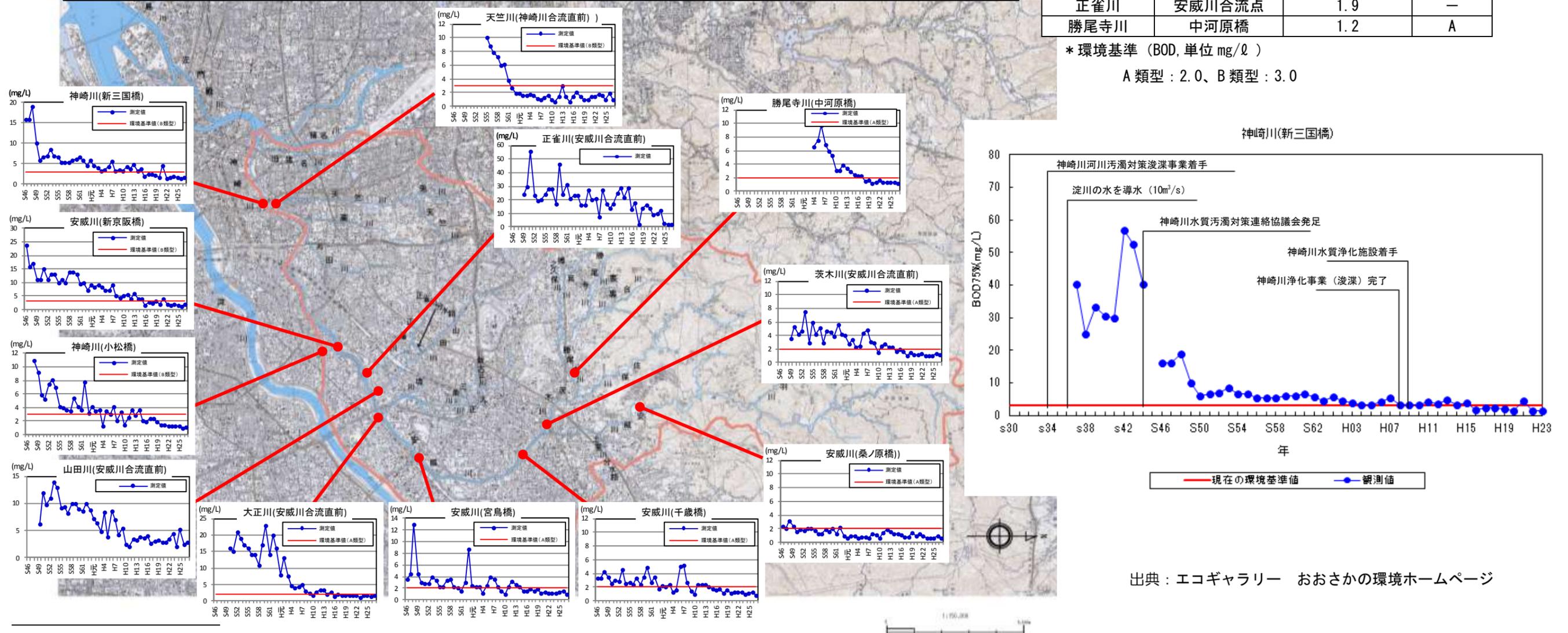
生物の生息や親水性の向上の観点から、水質の維持・改善が必要です。

表-1.25 神崎川ブロックの水質観測地点と平成27年度の測定結果

河川	地点	BOD75% (mg/l)	類型指定
神崎川	新三国橋	1.2	B
	小松橋	1.2	B
天竺川	神崎川合流点	1.0	B
安威川	新京阪橋	0.6	B
	宮鳥橋	0.8	A
	千歳橋	1.0	A
	桑原橋	2.1	A
茨木川	安威川合流点	1.2	A
大正川	安威川合流点	1.7	A
山田川	安威川合流点	2.8	—
正雀川	安威川合流点	1.9	—
勝尾寺川	中河原橋	1.2	A

\* 環境基準（BOD, 単位 mg/l）

A 類型：2.0、B 類型：3.0



16) BOD: Biochemical Oxygen Demand (生物化学的酸素要求量) の略で、河川等の水の有機汚濁の度合いを示す指標。水中の有機物質が好気性微生物によって分解される時に必要とされる酸素量から求める。75%値は年間観測データを値の小さい方から並べて上位から75%目の数値であり、環境基準への適合性の判断に用いられる。

図-1.39 神崎川ブロックの水質測定地点と測定値

出典：エコギャラリー おおさかの環境ホームページ

○下水道の普及状況

神崎川ブロックの関連市町村の下水道普及率（汚水）は、平成 27 年度末時点で 99%を越えており高い整備水準を示しています。出典：大阪府下水道統計

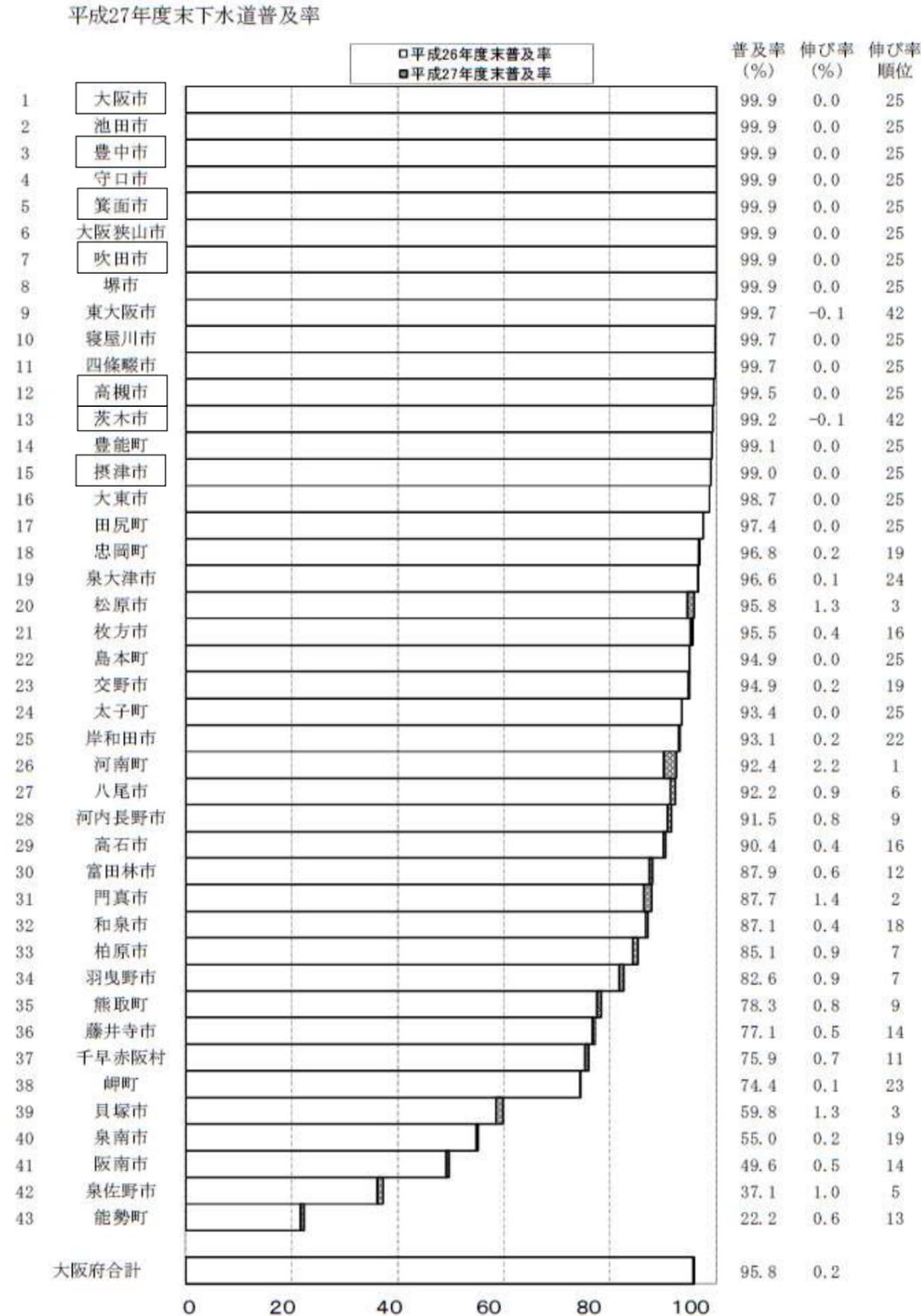


図-1.40 平成 27 年度末時点の下水道普及率

表-1.26 平成 27 年度末時点の下水道普及率

市	下水道普及人口	下水道普及率	市	下水道普及人口	下水道普及率
大阪市	2,683,153 人	99.9%	摂津市	84,610 人	99.0%
豊中市	402,147 人	99.9%	箕面市	135,435 人	99.9%
茨木市	277,582 人	99.3%	高槻市	353,204 人	99.6%
吹田市	367,216 人	99.9%			

出典：大阪府下水道統計

表-1.27 処理区別普及率

名称	処理区名	計画区域内人口 (人) [A]	整備人口 (人) [B]	普及率% [C=A/B]	雨水放流先
猪名川流域下水道	原田	419,876	419,860	99.9	猪名川
安威川流域下水道	中央	574,702	572,583	99.6	安威川
淀川右岸流域下水道	高槻	420,643	418,425	99.5	淀川
大阪市	大野	225,228	225,224	99.9	神崎川
	十八条	217,807	217,805	99.9	神崎川
豊中市	庄内	124,096	124,063	99.9	神崎川
	尼崎北部	3,460	3,460	100.0	神崎川
吹田市	川面	30,828	30,828	100.0	神崎川
	南吹田	122,207	122,122	99.9	神崎川

出典：大阪府下水道統計 平成 27 年度末の状況

・底質

また、神崎川では、ダイオキシン類等による底質<sup>17)</sup>の汚染が確認されており、対策を行う必要があるほか、油流出などの水質事故が多発していることから、その対策も必要となっています。

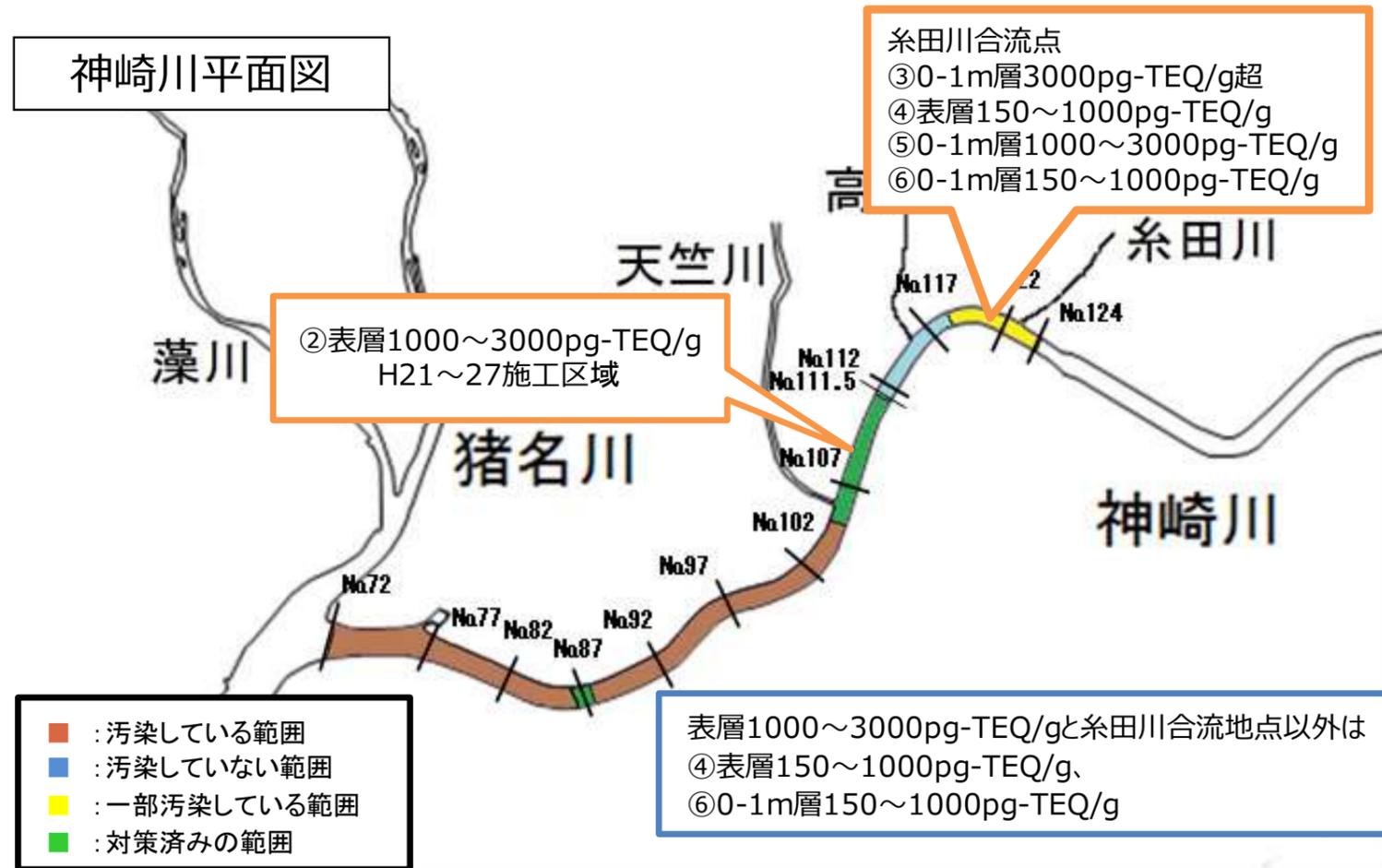


図-1.41 神崎川のダイオキシン類による底質の汚染状況

- ・ ダイオキシン類に係る底質の環境基準は 150 pg-TEQ/g。  
pg-TEQ/g :  
pg (ピコグラム) は1gの1兆分の1。  
TEQとは、ダイオキシン類の毒性の強さを、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い「2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン」に換算した値。

出典：平成 28 年度 第 1 回大阪府河川及び港湾の底質浄化審議会 資料

<sup>17)</sup> 底質：河川、湖沼、海洋、水路等 の水域において、水底を構成している表層。

(2) 水量、水利用

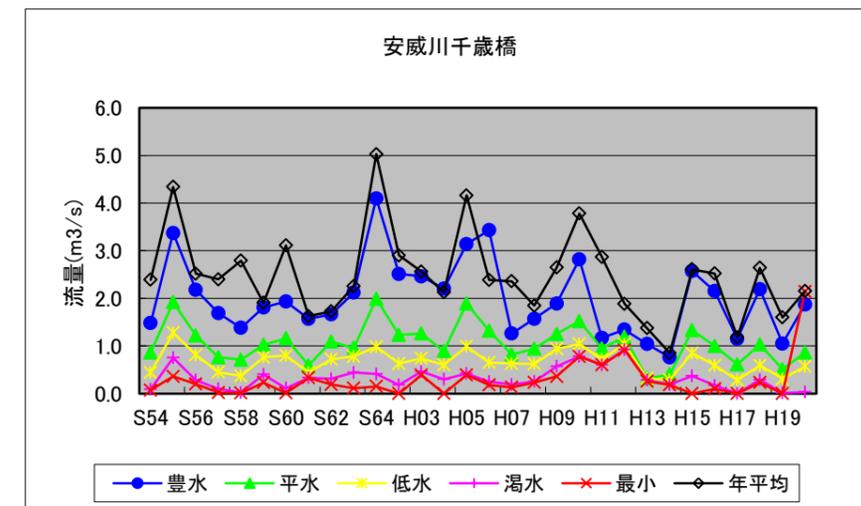
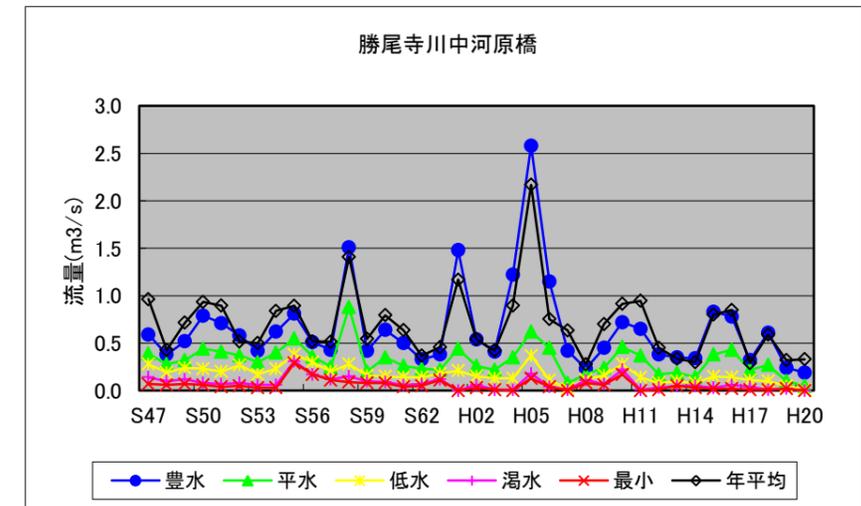
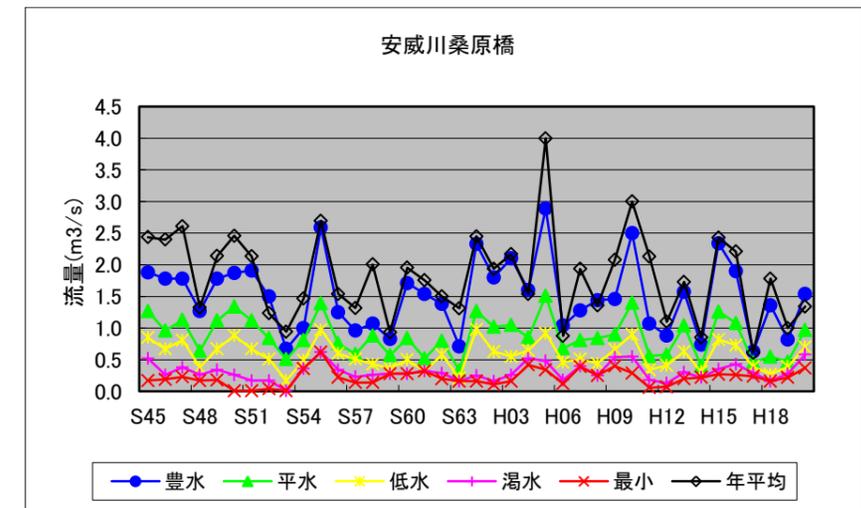
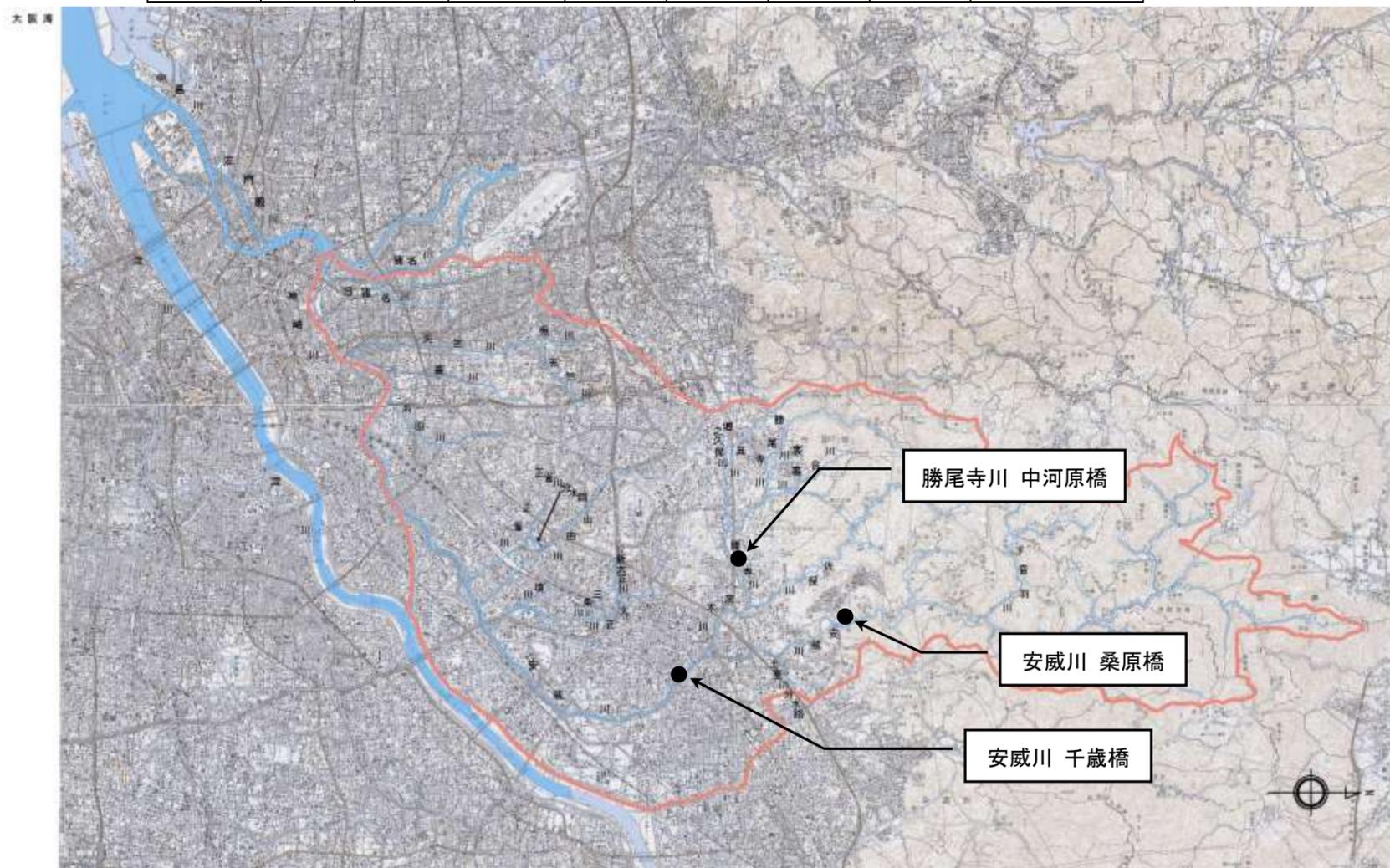
神崎川は、淀川右岸・一津屋取水口から分派しています。この分派により平常時において河川浄化用として10m<sup>3</sup>/sの水が神崎川に供給されています。

河川の水利用においては、神崎川では工業用水および上水として利用されており、安威川流域等の上流域では、主に田畑などへのかんがい用水として利用されています。

また、神崎川ブロックでは、平成6年や平成12年をはじめとし、過去に幾度となく多くの渇水を経験しています。渇水による影響には、農業用水に代表される水利用への悪影響だけでなく、瀬切れ<sup>18)</sup>(瀬枯れともいう)が発生することによる自然環境への負荷などが考えられるほか、流量が少なくなることによる水質の悪化も考えられることから、維持流量の確保が求められています。

表-1.28 神崎川ブロックにおける近年30年(昭和54年~平成20年)の流況表

	河川名	地点名	流域面積 km <sup>2</sup>	豊水 流量 m <sup>3</sup> /s	平水 流量 m <sup>3</sup> /s	低水 流量 m <sup>3</sup> /s	渇水 流量 m <sup>3</sup> /s	平水流量/ 流域面積 m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup>
神崎川 ブロック	安威川	桑原橋	52.2	1.48	0.84	0.56	0.32	0.016
		千歳橋	96.9	1.91	1.02	0.64	0.27	0.011



- 豊水流量・平水流量・低水流量・渇水流量は、一年を通じての日流量を大きい方から小さい順に並び替えて算出し、それぞれ次のように示している。
- [豊水流量] 1年を通じて95日はこれを下らない流量を言う。
- [平水流量] 1年を通じて185日はこれを下らない流量を言う。
- [低水流量] 1年を通じて275日はこれを下らない流量を言う。
- [渇水流量] 1年を通じて355日はこれを下らない流量を言う。

18) 瀬切れ：降雨が少ない状態が続き、河川の流量が少なくなり、流水が途切れてしまう状態。

表-1.29 神崎川ブロックの許可水利権一覧

河川	取水場所	取水者 届出者	種類	取水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考
神崎川	北江口2丁目 333番の1地先	西宮市	上水道	0.136	淀川に水利権 が存在 (国許可)
		神戸市	工業用水	1.323	
	北江口4丁目 350番地先	尼崎市	工業用水	1.762	
	東淀川区南江 口町1丁目59 番地先	三島製 紙	工業用水	0.045	
	合計			3.266	

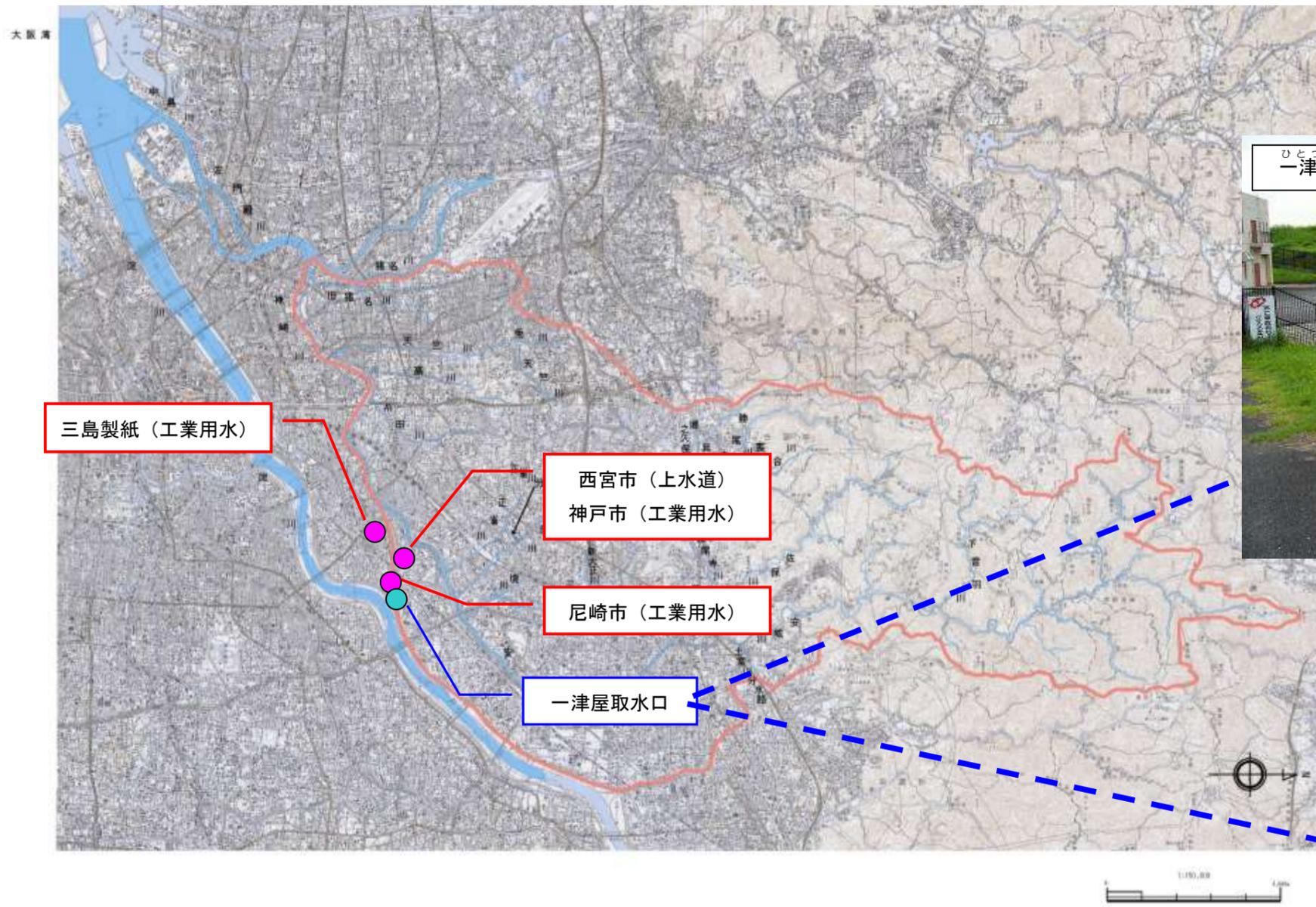


図-1.43 取水位置図

(水利用)

○農業用水

河川法施行に伴い神崎川ブロックの慣行水利権の届出調査が昭和42年に行われました。また平成10年に農業用水実態調査が行われました。昭和42年に169の届け出がありましたが、平成10年の調査では50の取水実績となりました。取水堰の統廃合や農地から宅地等への転用などにより現在の取水実績になったと考えられます。

表-1.30 届け出件数と取水実績

	昭和42年	平成10年
安威川	54	13
糸田川	2	0
上の川	1	0
高川	3	1
正雀川	6	0
大正川	10	1
山田川	8	4
三条川	7	0
境川	1	0
茨木川	29	14
元茨木川	2	0
佐保川	1	0
勝尾寺川	25	10
裏川	4	0
箕川	5	3
下音羽川	11	1
淀川から神崎川流域へ	不明	3
合計	169	50

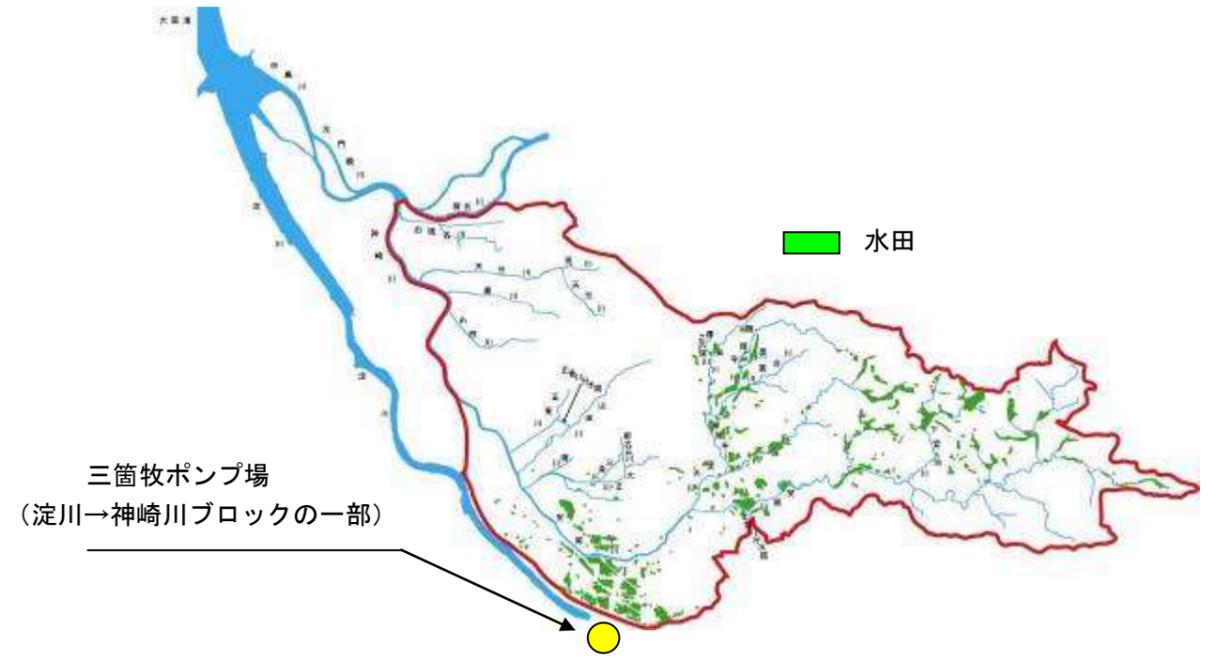


図-1.44 水田と三箇牧ポンプ場位置図

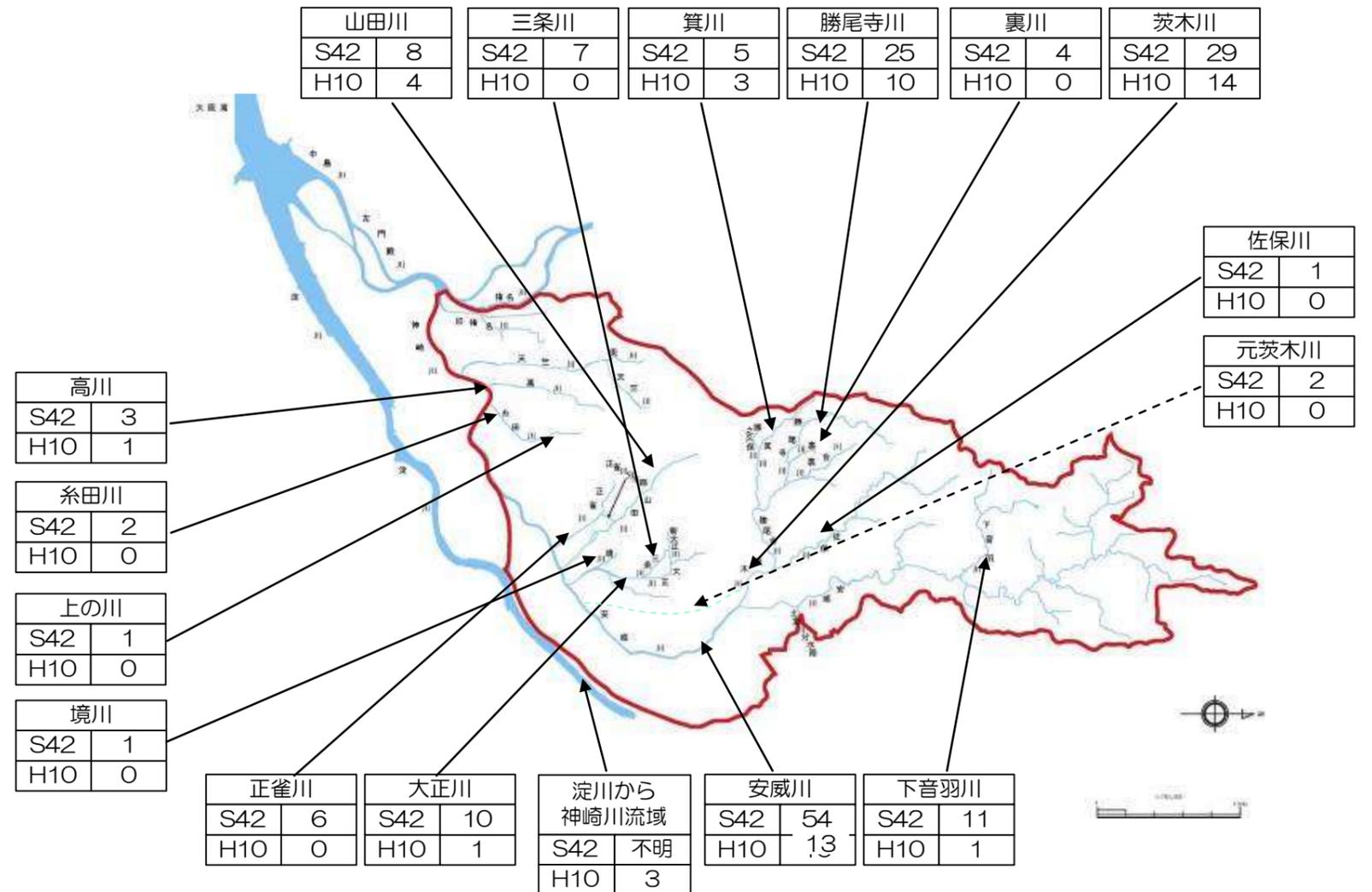


図-1.45 届出件数と取水実績

○利水被害

発生期間	取水制限等の状況
S53. 9. 1～S54. 2. 8	淀川取水制限最大 10% 134 日間
S59. 10. 8～S60. 3. 12	淀川取水制限最大 20% 156 日間
S61. 10. 17～S62. 2. 10	淀川取水制限最大 20% 117 日間
H6. 8. 22～H6. 10. 4	淀川取水制限最大 20% 44 日間
H12. 9. 9～H12. 9. 10	淀川取水制限最大 10% 2 日間
H14. 9. 30～H15. 1. 8	淀川取水制限最大 10% 101 日間

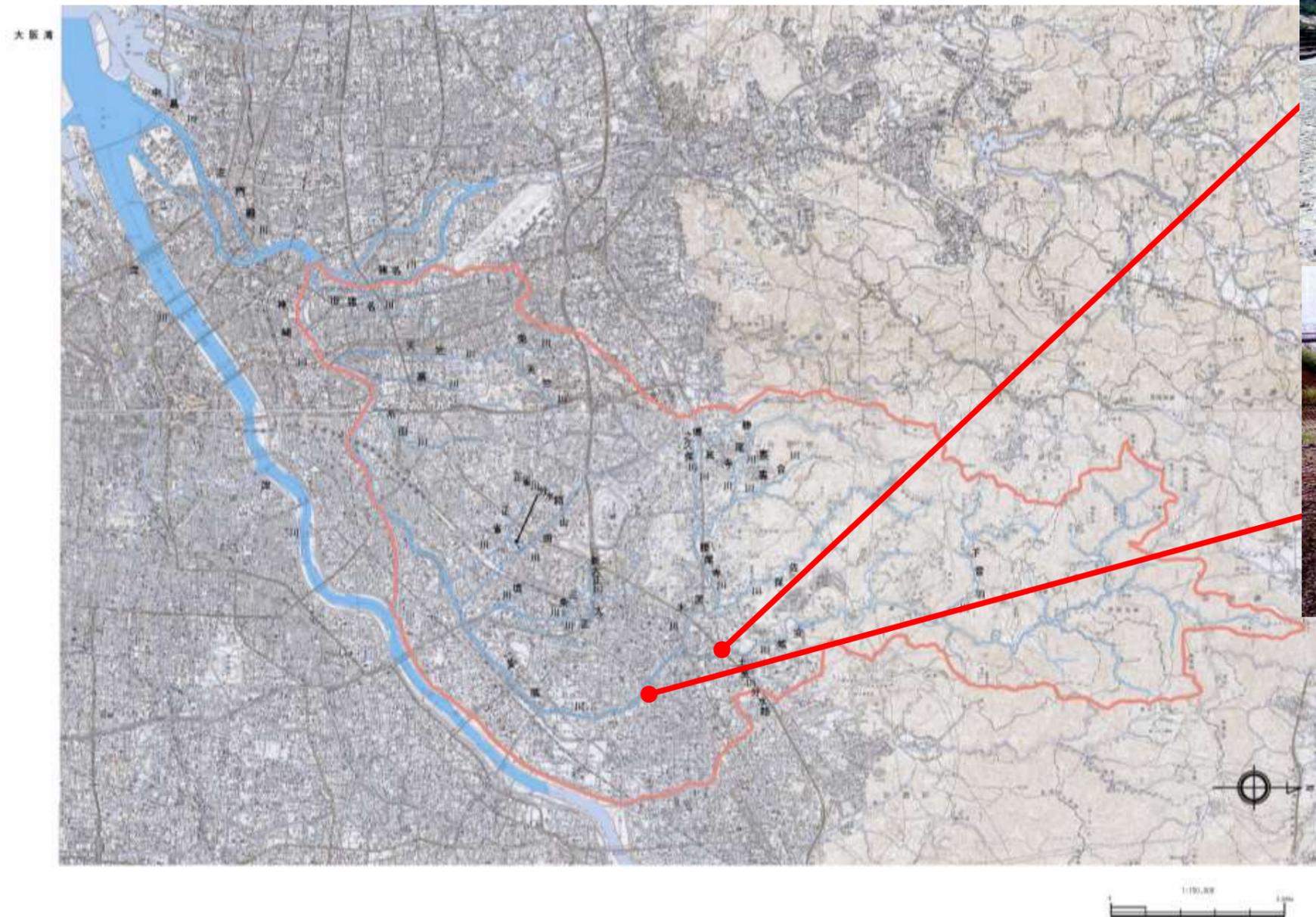


図-1.46 利水被害状況

### (3) 空間利用

河川の空間利用において、神崎川では高水敷に、なにわ自転車道等が整備されており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。全体的に多目的広場などの親水公園が数多くあり、都市域における貴重なオープンスペースとして豊かな市民生活を実現するため広く利用されています。

また、阪神・淡路大震災時に水上からの緊急物資の輸送が有効であったことが確認され、河川を利用して「震災時に必要な物資」を荷揚げしたり、「救命・救急活動」を行ったりする施設として防災船着場を整備しています。なお完成した船着場は平常時には水辺に親しむ広場として開放しています。

安威川中下流や大正川下流においても、「水と緑の回廊計画」（昭和 61 年）に基づく、高水敷整備や桜堤整備が行われており、散歩やジョギングなどを楽しむ人々が見られます。安威川上流や下音羽川の安威川合流点付近では、内水面漁業権が設定され、漁業組合により、アユ・マスが放流されて、遊漁が行われています。

このように、これまで行われてきた河川の様々な利用を踏まえ、今後は人びとが川に親しみ、学べる空間を創出することにより、人と川のつながりをより深めることが重要です。また周辺のまちづくりと一体となった川づくりを行い、市民との協働を行いながら、生活に密着した川を目指す必要があります。さらに人びとが川に近づくことになったことにより、水難事故防止への対応として利用者への注意喚起なども進めています。

また、安威川ダム周辺において、自然と人の営みの中で形成されてきた美しい景観や歴史・文化とダム湖により新たに生まれる地域景観は府民の財産です。これらの財産を活かし、府民のレクリエーション需要に応えるとともに、水源地域の振興、地域間交流の活性化につなげる必要があります。



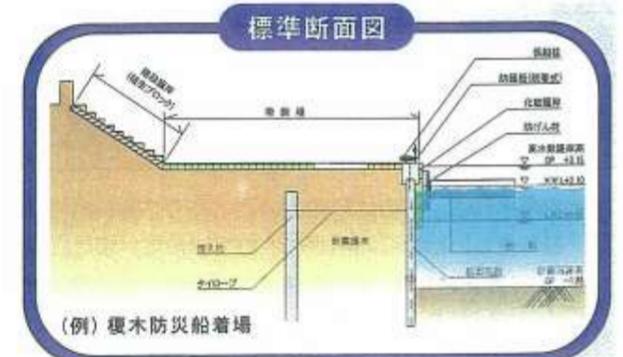
神崎川親水公園



なにわ自転車道



図-1.47 河川空間利用状況 (神崎川・天竺川)



# 神崎川防災船着場マップ

## ◎西島防災船着場 (H22 概成)

- 所在地
- 船着場仕様
  - ・整備延長
  - ・バース数
  - ・接岸可能船舶

検討中



色	種別	種別	種別
赤	完成済	完成済	完成済
黄	概成	概成	概成
青	検討中	検討中	検討中
緑	未定	未定	未定
紫	未定	未定	未定

## ◎榎木防災船着場 (H14 完成)

- 所在地 吹田市芳野町地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=228.8m
  - ・バース数 2バース(50m×2箇所)
  - ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道423号・国道479号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄 道 市営地下鉄東三国駅、江坂駅
  - ・路線バス 榎木橋バス停



## ◎高浜防災船着場 (H10 完成)

- 所在地 吹田市内本町3丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=259.2m
  - ・バース数 2バース(50m×2箇所)
  - ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 府道大阪高槻京都線
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄 道 阪急電鉄上新庄駅、相川駅
  - ・路線バス 御旅町バス停、中の島公園前バス停



## ◎佃防災船着場 (H12 完成)

- 所在地 大阪市西淀川区佃2丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=58.5m
  - ・バース数 1バース(50m×1箇所)
  - ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道2号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄 道 阪神電鉄千船駅
  - ・路線バス 神崎大橋バス停、佃バス停

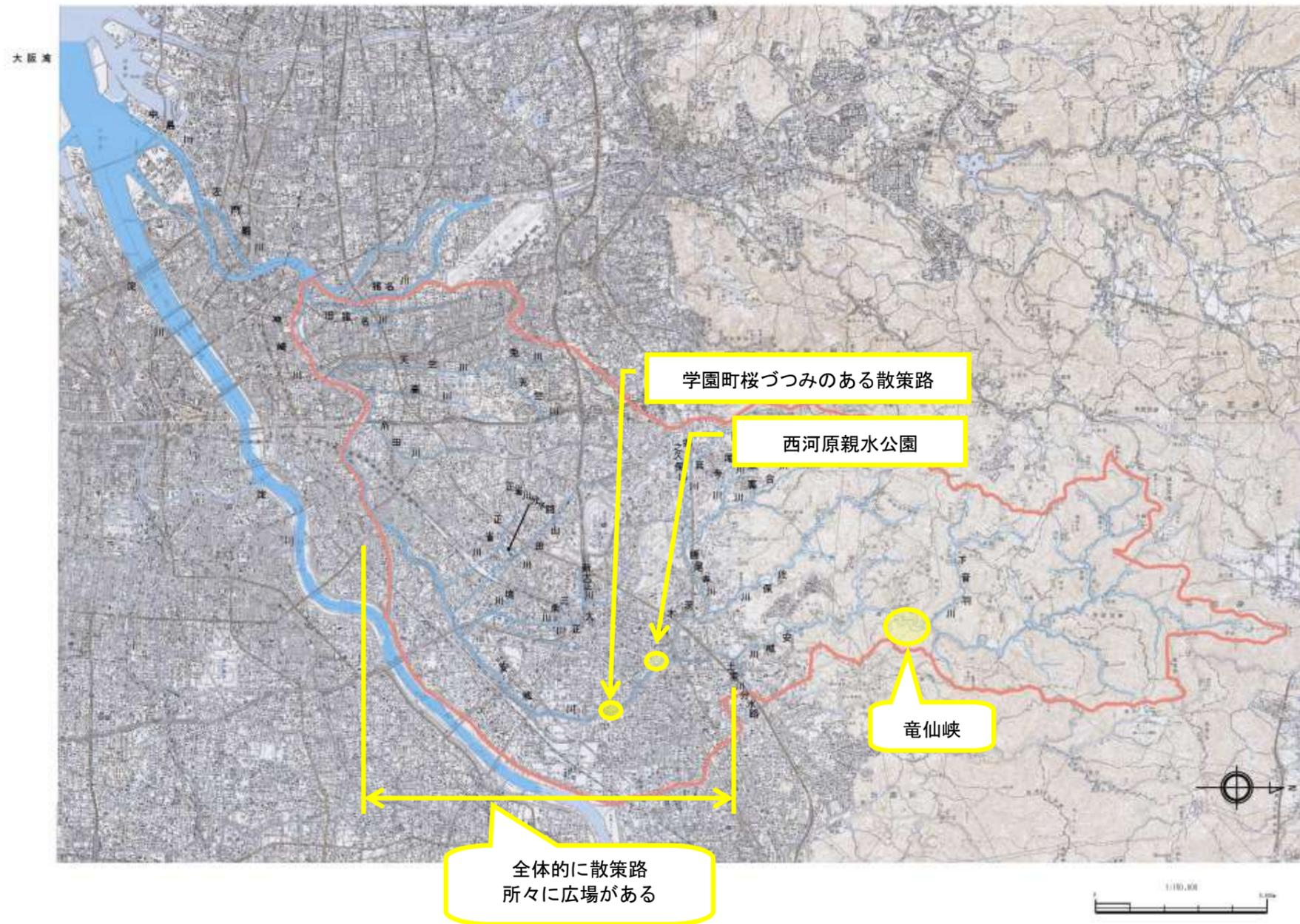


## ◎三国防災船着場 (H15 完成)

- 所在地 大阪市淀川区新高5丁目地先
- 船着場仕様
  - ・整備延長 L=572.0m
  - ・バース数 3バース(50m×3箇所)
  - ・接岸可能船舶 50t~400t級台船
- 緊急交通路 国道176号
- 交通アクセス(交通機関)
  - ・鉄 道 阪急電鉄神崎川駅、三国駅
  - ・路線バス 新三国橋バス停



図-1.48 神崎川防災船着場マップ



学園町桜づつみのある散策路



西河原親水公園

図-1.49 河川空間利用状況（安威川）

出典：大阪府 HP より

(4) 自然環境

神崎川ブロックは、山地から市街地まで様々な流域特性を備えたブロックであり、全体の自然環境をひとくくりにして論じることが困難であるため、現存植生と土地利用から「都市部」、「里地部」、「山地部」に分け、さらに各河川の「河床勾配」、「地形区分」、「河床材料の粒径や構成物質」、「蛇行や侵食の程度」、「低水路の平均深さ」などの5つの指標をもとに分類し、これらを組み合わせて、「都市を流れる河川」、「まちを流れる小河川」、「まちを流れる中河川」、「里地を流れる中小河川」、「山地を流れる中小河川」の5つのエリアに区分し、その特性とそのエリアの特徴となる動植物について以下に記述します。

ただし、安威川については、「都市を流れる河川」、「まちを流れる中河川」、「里地を流れる中小河川」、「山地を流れる中小河川」の4エリアにわたるため、安威川全体として環境の現状も最後に記載しています。

凡例

ヤブツバキクラス域自然植生	植林地・耕作地植生
アラカシ群落	常緑針葉樹植林
サカキーコジイ群落	スギ・ヒノキ・サワラ植林
ヤブツバキクラス域代償植生	竹林
コナラ群落	常緑果樹園
伐採群落	落葉果樹園
ススキ群落	桑園
アカマツ群落	畑地雑草群落
モチツツジーアカマツ群落	牧草地
ヤブムラサキーコナラ群落	水田雑草群落
フナクラス	その他(市街地・工場地帯・裸地など)
ススキ群団	市街地
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生	緑の多い住宅地
ヨシクラス	工業地帯
	造成地
	開放水域

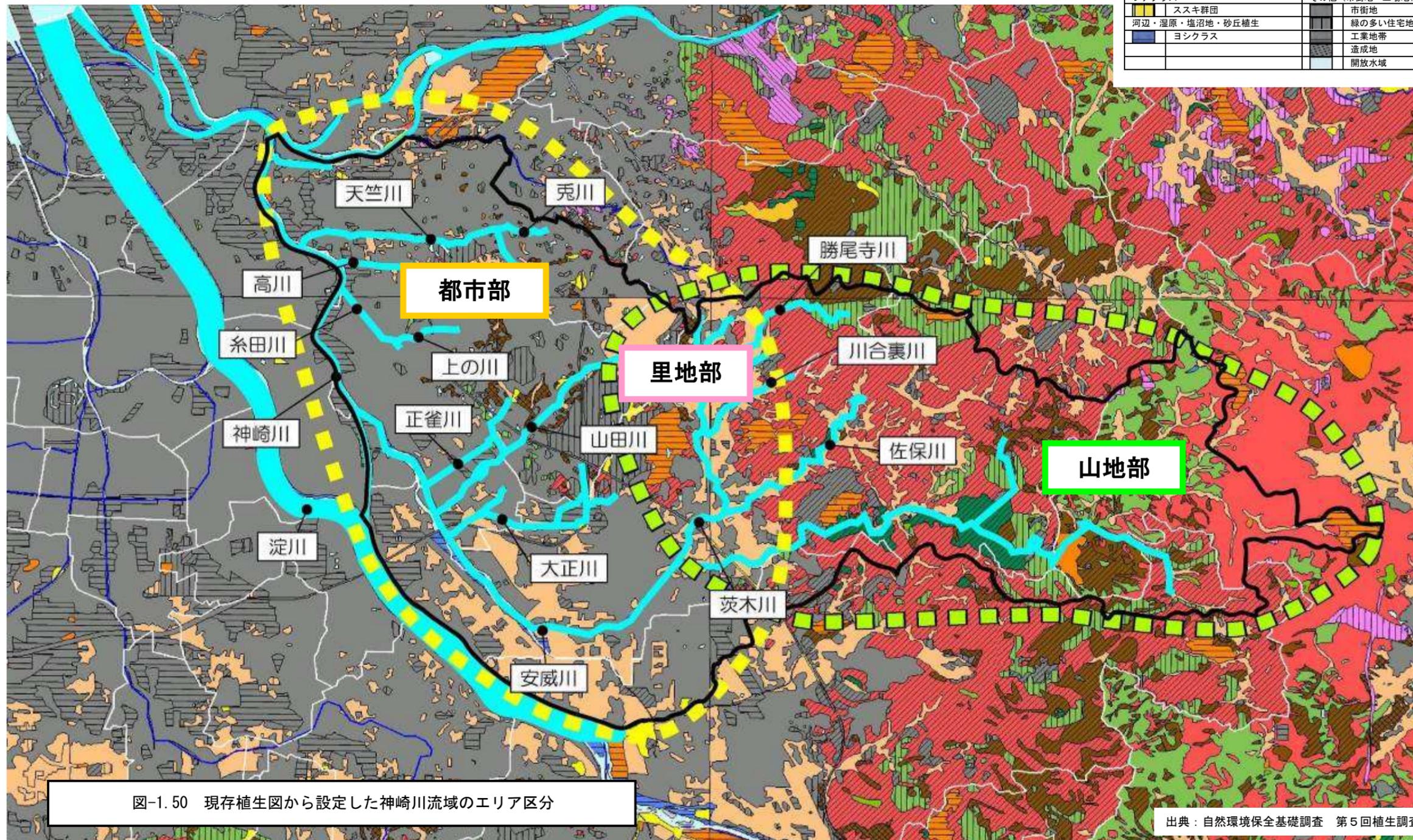


図-1.50 現存植生図から設定した神崎川流域のエリア区分

出典：自然環境保全基礎調査 第5回植生調査 (H6~10)

# 河川の特徴による区分

土地利用・現存 植生図による区分	本川	支川
都市	<p style="text-align: center;">①都市を流れる河川</p> <p>神崎川 安威川（～大正川合流点）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・感潮区間</li> <li>・デルタ地帯～</li> <li>・勾配は 1/2,000～</li> </ul> </div>  <p style="text-align: center;">神崎川 (住友金属裏上流)</p>	<p style="text-align: center;">③まちを流れる小河川</p> <p>天竺川・兎川 高川 糸田川・上の川 山田川 大正川</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・水路状の川が多い</li> <li>・勾配は 1/90～500</li> <li>・川幅は 3～20m (大正川下流は～60m)</li> </ul> </div>    <p style="text-align: center;">天竺川 (日電橋付近)      兎川 (東豊中橋下流)      高川 (染の井公園付近)</p>     <p style="text-align: center;">糸田川 (新糸田川橋付近)      上の川 (豊津駅付近)      山田川 (一の橋下流)      大正川 (春日橋下流)</p>
	<p style="text-align: center;">②まちを流れる中河川</p> <p>安威川（大正川合流点～茨木川合流点）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・勾配は 1/500～1,500</li> <li>・寄州が発達</li> </ul> </div>  <p style="text-align: center;">安威川 (山科橋下流)</p>	
里地	<p style="text-align: center;">④里地を流れる中小河川</p> <p>安威川（茨木川合流点～桑原橋）</p>  <p style="text-align: center;">安威川 (桑原橋下流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郊外を流れる</li> <li>・川幅が狭い</li> <li>・勾配は 1/100～350</li> </ul> </div>	<p>茨木川 佐保川（～熊ヶ谷川合流点付近） 勝尾寺川（～西田橋） 川合裏川</p>    <p style="text-align: center;">茨木川 (上野橋上流)      佐保川 (福井橋下流)      川合裏川 (裏川橋上流)</p>
山地	<p style="text-align: center;">⑤山地を流れる中小河川</p> <p>安威川（桑原橋～）</p>  <p style="text-align: center;">安威川 (車作大橋上流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山地を流れる</li> <li>・川幅が狭い</li> <li>・勾配は 1/30～70</li> <li>・瀬や淵が連続する</li> </ul> </div>	<p>佐保川上流(熊ヶ谷川合流点付近～) 勝尾寺川上流(西田橋～)</p>   <p style="text-align: center;">佐保川 (免山橋上流)      勝尾寺川 (勝尾寺橋上流)</p>

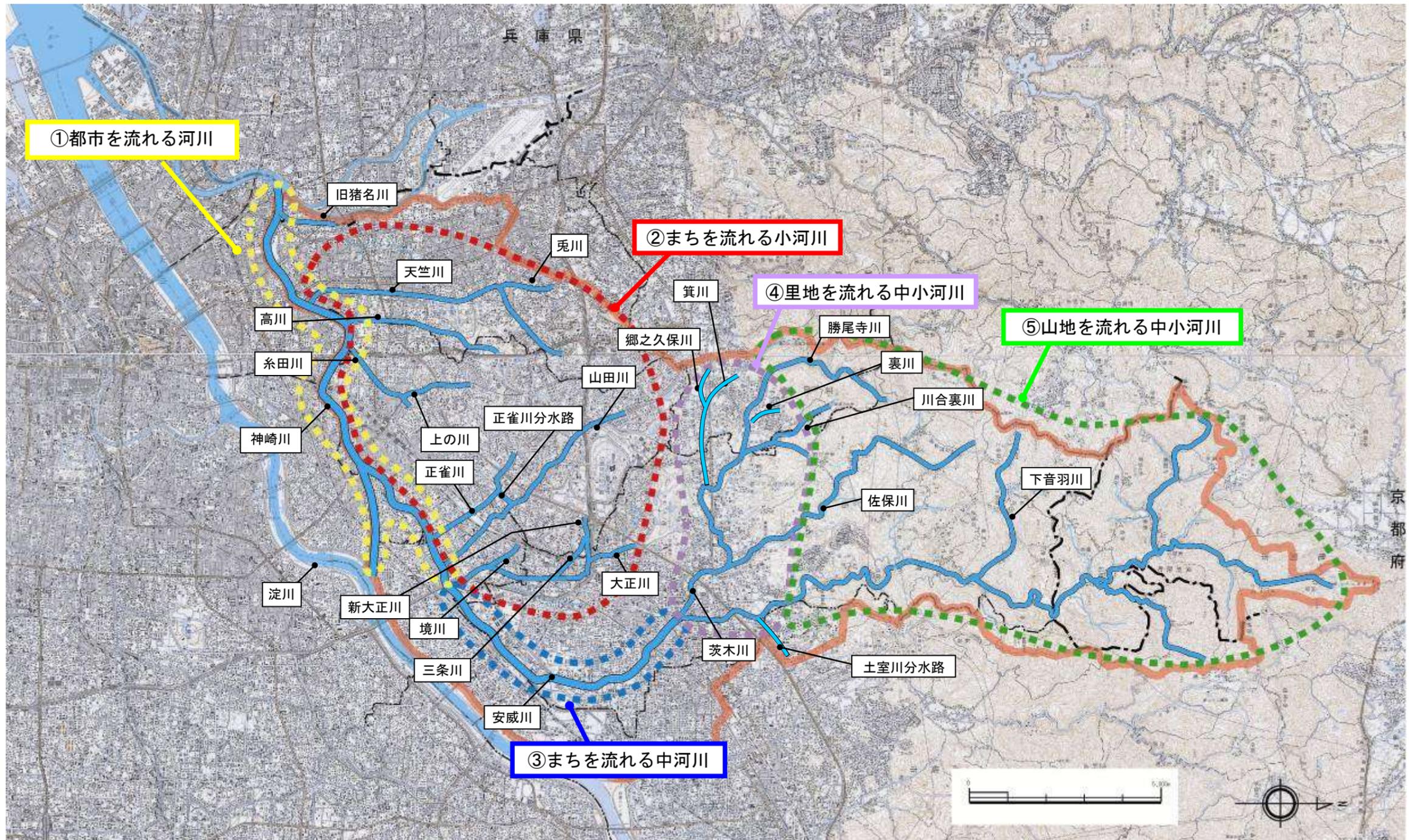


図-1.51 エリア区分

①都市を流れる河川（神崎川、安威川下流（神崎川合流点～大正川合流点））

神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）の沿川は市街化が進み、河道は堤防とコンクリート護岸で整備されており、水深は深く、干潟等の浅場の少ない環境で、入り組みの少ない単調な環境となっています。

魚類は、ボラ、スズキといった汽水域に生息するもの、および緩やかな流れを好むギンブナ、流れのある砂礫底を好むニゴイなどのほか、オイカワなどの淡水魚やアユが確認されています。回遊性生物としてはモクズガニが確認されていますが、種類、量ともに少ない状況にあります。

神崎川（安威川合流点～淀川分派点）もコンクリート護岸となっていますが、河岸には入り組みがあり場所によっては水草やヤナギ等の植物が進入しています。出現魚種としては下流の魚種に加えて最新の調査では清浄な水質を代表する種であるハス、コウライモロコその他、カマツカなどが確認されています。底生動物の出現種は15種と神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）の約4倍となっており、ヤマトシジミ、セタシジミ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、オオタニシ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、トンガリササノハガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）が確認されています。ここは一津屋樋門の取水口下流にあり、淀川から生物の移入があることと、河岸・河床が神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）に比べて多様なことが要因と考えられます。

安威川下流（神崎川合流点～大正川合流点）の沿川も市街化が進み、コンクリート護岸となっていますが、出現魚種としては、汽水魚のボラや淡水魚ではコイ、フナ類があり、その他にもモツゴ（都市河川の一般的な種）、タイリクバラタナゴ（外来種、中下流、沼地の代表的な種）、カダヤシ（外来種）などが一般的に見られ、スジシマドジョウ（型は不明）、ミナミメダカ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）なども散発的に確認されるようになり、下流に比べると生息空間が多様化しているものと考えられます。

このように、「都市を流れる河川」では、一部を除き、生息環境が単調であるため、生物の種が貧困となっており、多様な生息環境を創成するための、生物の生息・生育環境の整備が必要です。

神崎川 豊中市三国 三国橋上流



神崎川 東淀川区南江口 江口橋下流



安威川 東淀川区相川 新京阪橋下流



②まちを流れる小河川（天竺川、高川、糸田川、上の川、山田川、大正川）

これらの川は千里丘陵周辺を水源として流下する河川であり、神崎川本川に比べて勾配の急な河川が多くなっています。昭和30年代の丘陵地開発により急激に都市化が進んだ地域です。平成のはじめ頃までは非常に汚濁した水質環境でした。このことも現在の生物相に影響しているものと思われます。

河道は、大正川の下流部を除いてコンクリート護岸で整備されており、低水路部までコンクリート化された河川が多くなっています。このため、河川内は入り組みの少ない単調な環境となることが多くなっていますが、ところどころ州が形成されています。大正川の下流部では、安威川と同様「水と緑の回廊計画」に基づいた高水敷の遊歩道整備や桜堤整備が行われています。また、服部緑地等緑地が残されているところもあり、その周辺では両岸に樹木が覆い茂る環境となっています。

天竺川、山田川、大正川では魚類が18種、底生動物が53種確認されています。魚類はコイ、ギンブナ、タモロコ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、ドジョウ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ミナミメダカ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）や、外来種のおオクチバスとブルーギルなどが確認されています。いずれも富栄養で流れのゆるやかな場所を好む魚類です。

底生動物はモノアラガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、サカマキガイ（外来種）、イトミミズ、ミズムシ、トンボ類など富栄養な水域に棲む種の他、回遊性のモクズガニが服部緑地付近まで遡上しているのが確認されています。

周辺にはため池が多いのも特徴であり、ため池にはサギ類、カモ類等多種の水鳥が飛来しています。このように、「まちを流れる小河川」では、一部を除き、生息環境が単調であるため、生物の種が貧困となっており、多様な生息環境を創成するための、生物の生息・生育環境の整備が必要です。

また、平常時の流量が少ないことも貧困な生物種数の一因となっていることから、既存のため池の貯留水や下水道の処理水などの有効利用による維持流量確保のための対策が必要です。

天竺川 豊中市城山町 緑地公園前



高川 豊中市小曾根 名神高速上流



糸田川 吹田市広芝町 広芝橋上流



山田川 吹田市山田南 名神高速下流

### ③まちを流れる中河川（安威川中下流（大正川合流点～茨木川合流点））

茨木川合流点から下流の護岸工事は昭和 61 年に概ね完了し、河岸は兩岸ともにコンクリート護岸と なっていますが、高水敷は遊歩道として整備されています。大正川合流点～茨木川合流点付近では、 水際に砂州、植物帯が形成されています。

魚類は、一般的な河川において中下流域によくみられるオイカワをはじめとして、コイやギンブナ、 モツゴ、タイリクバラタナゴ（外来種）、タモロコ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）など緩や かな流れを好む魚種が確認されています。砂礫底を好むカマツカやドンコ、カワヨシノボリ等も見ら れるようになり、多くの種類の魚類が生息しています。また、底生動物ではサカマキガイ（外来種）、 イトミミズ、ミズミミズ、ヒル類、ユスリカ類、ミズムシ類など富栄養な水域を好むものが目立ちま す。植生帯を生息場とするエビ類やカゲロウ類、トンボ類も確認されています。マシジミ（環境省 レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、モノアラガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッド リスト：準絶滅危惧種）などの生息も確認されています。

このように「まちを流れる中河川」では、比較的多くの生物種が生息していることが確認できてお り、瀬と淵、河岸植生などを保全する必要があります。

安威川 茨木市 山科橋下流



安威川 茨木市西河原 茨木川合流点



### ④里地を流れる中小河川（安威川中上流（茨木川合流点～桑原橋付近）、茨木川、佐保川 下流、勝尾寺川下流、川合裏川）

北摂山地へ続く山麓部であり、宅地開発が進められていますが、いまだ田畑や緑地等が残されてい る区間です。なお、佐保川流域には、彩都の都市開発が進められています。

河川は、改修済みの区間が大部分であり、コンクリート護岸の断面が多くなっていますが、場所によ っては魚巢ブロック<sup>19)</sup>が置かれていたり、蛇籠が川底に敷き詰められていたりする等の整備が実施 されています。

魚類の出現種をみると流れの緩やかな場所に生息するギンブナをはじめ、砂底に潜る習性のあるズ ナガニゴイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）、砂や砂礫を好むカマツカやドンコ、平瀬を好む カワヨシノボリ、流れがある場所を好むオイカワ等が確認されています。瀬や淵の連続する箇所には カワムツも確認されており、変化に富んだ生息空間が形成されているものと考えられます。横断構造 物が多く、上下流の連続性に乏しい箇所では、ブルーギル、ブラックバスなどの外来種の定着が見ら れます。

底生動物は、カゲロウ類、サナエトンボ類、カワゲラ類、トビケラ類が多く確認され、カワニナ、 モノアラガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、サワガ ニなども確認されています。

ドジョウ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ミナミメダカ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧 Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ゲンジホタル等も確認されており里地的な環境が残さ れています。

このように「里地を流れる中小河川」では、周辺に水田や樹林があり、川と背後地の連続した環境 が維持されているため、鳥類、昆虫類の生息場となっていることから、これらを保全していく必要が あります。

安威川 茨木市西河原 茨木川合流点上流



勝尾寺川 茨木市清水 無名橋下流



<sup>19)</sup> 魚巢ブロック：内部に空洞部分を設け、主に魚類の生息、避難ができるように人工的に設置するもの。

⑤山地を流れる中小河川（安威川上流（桑原橋～）、佐保川上流、勝尾寺川上流）

山付き部の河畔林が連続し、瀬・淵の連続がみられるなど、多様な生物の生息環境が残されている区間です。特に安威川と下音羽川の合流点付近は府内でも稀少なアラカシ群落となっています。

魚類では、カワムツ、カマツカ、ドンコ、オイカワ、タカハヤ、ムギツク（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ズナガニゴイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）、アユ（放流魚）などがみられ、石礫の下にカワヨシノボリ、アカザ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、カジカ（大卵型）（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、ギギ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、アジメドジョウ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、西限）などが確認されているなど、良好な生息環境が形成されています。アジメドジョウは伏流水の発生する箇所にも生息し、安威川の個体群が日本での生息箇所の西限となっています。

底生動物では、トビゲラ類、カワゲラ類、カゲロウ類が数多く確認されています。アオサナエ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、ホンサナエ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ゲンジボタル等も確認されています。

安威川の調査及び佐保川の調査ではオオサンショウウオ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、特別天然記念物）が確認されています。

このように「山地を流れる中小河川」では、豊かで良好な自然環境が残されており、周辺環境と一体となった河川環境の保全が必要です。

下音羽川 茨木市車作 安威川合流点付近



安威川 茨木市車作 車作大橋下流



佐保川 茨木市佐保 免山橋上流



勝尾寺川 箕面市粟生間谷 つるしま橋下流



⑥安威川

安威川は、下流部が護岸工事の完了した単調な都市河川である一方、上流側に比較的多様で良好な生息環境が残っています。安威川の4つのエリアの種数を外来種や放流魚を除いた魚種についてみると、下流から9種、10種、12種、16種、底生生物については下流から36種、50種、104種、146種いずれも上流ほど種多様性が高くなっています。また、貴重種が多いのも安威川の特徴となっています。

○安威川下流部（神崎川合流点～大正川合流点）

河床勾配は、1/2000程度と緩やかで、感潮域となっています。河道は堤防とコンクリート護岸で整備され、単調な水際線となっています。水深は深く、干潟等の浅場の少ない環境で、入り組みの少ない単調な環境となっています。

魚類は汽水性の魚類としてはボラが、淡水魚ではコイ、ギンブナ、モツゴ、タイリクバラタナゴ（外来種）、カダヤシ（外来種）、ブルーギル（外来種）、カムルチー（外来種）など、いずれも水質には幅広く耐性のある種が主ですが、スジシマドジョウ（型は不明）、ミナミメダカ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ドジョウ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）なども確認されています。底生動物では、サカマキガイ（外来種）、イトミミズ、ミズミミズ、ヒル類やユスリカ類、ミズムシなど貧酸素に強い種が多く見られますが、タイリクバラタナゴが広く分布することから、産卵宿主となる二枚貝の生息が推測されます。河岸よりにあるわずかな植物帯でクロベンケイガニが確認されています。

○安威川中下流部（大正川合流点～茨木川合流点）

河床勾配は、1/1500～1/500程度となっており、コンクリート護岸が整備されています。土砂堆積がみられるのがこの区間の特徴であり、寄り州が発達し、水際には砂州、植生帯が形成されています。深い大きな淵はありませんが、緩やかに蛇行しており、中流型の河川形態を示しています。

魚類は、大正川合流点下流で見られたコイやギンブナ、モツゴ、タイリクバラタナゴなども生息しますが、淀みに棲むタモロコ、砂底の底生魚カマツカ、瀬を好み遊泳力のあるオイカワ、生きた魚や底生動物を食べるので多くの生物の生息を必要とするドンコなど、生息環境を反映して下流よりも多くの魚種が生息しています。また、底生動物では下流部同様の貧酸素に耐性のある種が目立ちますが、確認種数は下流部よりも多くなっています。植生帯を生息場としていると思われるエビ類が多く出現しています。モノアラガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）が生息しますが、競合する外来種のサカマキガイがより広く優勢な分布域を示しています。

○安威川中上流部（茨木川合流点～桑原橋付近）

北摂山地へ続く山麓部に位置し、河床勾配は1/300程度と急勾配になってきています。コンクリート護岸が整備されていますが、場所によっては多自然型工法によって整備されている区間もみられます。長ヶ橋付近より上流側は砂礫底の蛇行した河川形態を示しており、水質も清澄で良好な生息環境となっています。

魚類では、茨木川合流点下流にも見られたオイカワ、カマツカ、ドンコなどのほかに、上中流に特徴的なカワムツ、カワヨシノボリが連続的に分布するようになります。貴重な種としてはムギツク（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、ズナガニゴイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）、シマド

ジョウ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）などが確認されています。ムギツクには他の魚の巣に卵を産みつけて、その巣の親（宿主）に卵を守ってもらう托卵という習性があり、この水域ではドンコを宿主としていると考えられます。ズナガニゴイ、シマドジョウはいずれも砂底にもぐる習性を持つので、水が浸透してやわらかい砂底があることが必要です。底生動物は、清澄な水質を反映してカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類が多く確認され、カワニナ、モノアラガイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）、ホンサナエ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、アオサナエ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）が確認されています。

○安威川上流部（桑原橋付近～上流）

河床勾配が1/70程度と急勾配の河川となり、河畔林が水際まで迫る溪流の様相を示し、瀬・淵の連続する多様な河川形態を示しています。多様な生物の生息環境が残されています。

魚類では、桑原橋の下流でも見られたオイカワ、カマツカ、ドンコ、カワムツ、カワヨシノボリ、ズナガニゴイ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）、シマドジョウ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）などの他に、タカハヤ、アジメドジョウ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、地域個体群）、ギギ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、アカザ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、カジカ（大卵型）（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧種）などの貴重種が多種生息しています。アジメドジョウは冬季には伏流水に深く潜るなど生態が特異で、生息に必要な条件を具える河川は多くありません。日本固有種で分布が限られており、安威川の個体群は西限にあたるので環境省レッドリストにおいて「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されています。カワヨシノボリは日本固有のハゼで個体群ごとの遺伝的変異が大きいことで知られています。止水域では生息できないのでダム湖の区間からは消失することが予想されます。底生動物では、トビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類が多く、さらにアミカ類、カワニナ、ミヤマサナエ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、キイロサナエ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、アオサナエ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧種）、ゲンジボタルが確認されています。

また、両生類では、オオサンショウウオ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、特別天然記念物）やカジカガエルが確認されています。

なお、安威川ダム建設予定地は、豊かな自然環境が残されているところであることから、多くの自然環境が失われることを認識した上で、周辺自然環境への影響を可能な限り少なくする保全対策を実施する必要があります。

表-1.31 安威川における魚類・底生動物・両生類の生息状況

		下流～大正川合流点	大正川合流点～茨木川合流点	茨木川合流点～桑原橋	桑原橋～上流
魚類 (魚類は放流魚を除く)	種数	9	10	12	16
	貴重種	ドジョウ メダカ	タモロコ カマツカ ドンコ ハス	タモロコ、ムギツク カマツカ ズナガニゴイ シマドジョウ ドンコ	タカハヤ、ムギツク、 ズナガニゴイ、ギギ、 アジメドジョウ、アカザ、 シマドジョウ、ドンコ、 陸封型カジカ、アブラハヤ カマツカ、イトモロコ
底生動物	種数	36	50	104	146
	貴重種		モノアラガイ	カワニナ チリメンカワニナ モノアラガイ ホンサナエ アオサナエ	カワニナ、モノアラガイ、 ホンサナエ、ヒメサナエ、 チリメンカワニナ、 ミヤマサナエ、アオサナエ キイロサナエ ゲンジボタル
両生類	貴重種				オオサンショウウオ カジカガエル

表-1.32 神崎川ブロックにおける将来計画一覧

大項目	内容	出典
自然環境の保全	自然環境の保全	箕面市総合計画、都市計画マスタープラン 吹田市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 摂津市総合計画、都市計画マスタープラン
	自然に配慮した改修工事	豊中市都市計画マスタープラン 吹田市みどりの基本計画 摂津市緑の基本計画 茨木市都市計画マスタープラン 神崎川ネオ・リバープラン
	緑地の保全整備	豊中市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 箕面市都市計画マスタープラン 吹田市みどりの基本計画
	市民参加による河川沿川の緑化	豊中市みどりの基本計画
	水質改善	吹田市みどりの基本計画 摂津市総合計画
	自然環境と共生	摂津市都市計画マスタープラン、摂津市緑の基本計画
	流水の正常な機能維持	茨木市総合計画
親水	親水公園、自然のふれあいの場などの整備	豊中市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 箕面市総合計画 吹田市総合計画、都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 摂津市総合計画 茨木市総合計画 神崎川ネオ・リバープラン
	オープンスペースとしての活用	豊中市都市計画マスタープラン 箕面市都市計画マスタープラン 吹田市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 茨木市総合計画
	連続したオープンスペースとしての活用	豊中市都市計画マスタープラン 箕面市都市計画マスタープラン 吹田市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 摂津市総合計画
	ネットワーク形成	豊中市都市計画マスタープラン 箕面市都市計画マスタープラン 吹田市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 摂津市総合計画
	観光・レクリエーション施設の整備	箕面市都市計画マスタープラン（勝尾寺川、箕川） 茨木市総合計画（安威川ダム）、都市計画マスタープラン（広域レクリエーション拠点）
	高水敷の活用	摂津市総合計画 神崎川ネオ・リバープラン
	イベント、レガッタ観覧、歴史スポットなどと一体の整備	神崎川ネオ・リバープラン
安全	水害防止を目的とした河川改修	豊中市都市計画マスタープラン 箕面市総合計画、都市計画マスタープラン 吹田市総合計画、都市計画マスタープラン 摂津市総合計画、都市計画マスタープラン 茨木市総合計画、都市計画マスタープラン（安威川、茨木川、勝尾寺川）
	災害に強いまちづくり	豊中市都市計画マスタープラン 箕面市都市計画マスタープラン 茨木市総合計画、都市計画マスタープラン
	災害時の避難・救援救助に資する施設整備	吹田市みどりの基本計画
	安威川ダムの早期実現	摂津市総合計画 茨木市総合計画
	総合的な流出抑制対策	茨木市総合計画
利水	水源涵養林の育成	吹田市みどりの基本計画
	利水機能の向上	摂津市都市計画マスタープラン 茨木市総合計画
景観	河川の緑化	豊中市都市景観形成マスタープラン 箕面市都市計画マスタープラン 吹田市総合計画、都市計画マスタープラン 摂津市都市マスタープラン 茨木市緑の基本計画 神崎川ネオ・リバープラン
	景観と調和した河川環境の創造	豊中市都市計画マスタープラン、豊中市都市景観形成マスタープラン 箕面市総合計画、都市計画マスタープラン 吹田市都市計画マスタープラン、みどりの基本計画 摂津市都市計画マスタープラン、緑の基本計画 茨木市都市計画マスタープラン（元茨木川緑地、安威川）、緑の基本計画
その他	緑と水のネットワーク	吹田市みどりの基本計画 摂津市都市計画マスタープラン、緑の基本計画 茨木市総合計画、都市計画マスタープラン
	水と緑の回廊計画	茨木市総合計画
	彩都	茨木市総合計画

### 第3節 流域の将来像

神崎川ブロックは、北摂山地と淀川に挟まれた古くから交通の要衝として栄えてきた地域です。今後も、名神高速道路や東海道新幹線など国道交通幹線により、中国地方、北陸地方、東海地方などと大阪を結ぶ広域連携の結節点となる地域です。

万国博覧会やそれに伴う千里ニュータウン開発などにより、府域でも都市化が急速に進展した地域であり、丘陵部の新たな開発地を除けば、都市型社会と呼べるような成熟した社会構造を有する地域となりつつあります。

一方、神崎川から安威川下流部の地域は、工場や住宅地が密集し、内水域と呼ばれる低平地で洪水や内水による被害が発生しやすい地域であり、持続的な発展を継続するにあたり、着実な治水対策が求められる地域となっています。

大阪府の総合計画や国土利用計画及び各市の総合計画などによると、地域の個性と魅力を活かしたまちづくりを進める観点から次のような流域の将来像が示されています。

既成密集市街地やその周辺地域については、行政・住民・企業等の連携により、市街地の再生を進めることが求められています。その際に、市街地を流れる河川やため池、水路などの水辺は貴重なオープンスペースやゆとり・やすらぎの空間として保全・活用を図ることにより、みどり豊かな都市空間の創出を目指すこととされています。

市街地と丘陵部との田園地域では、里山や農空間の保全を図りつつ、良好な自然環境に配慮したまちづくりが求められています。

北摂山地に繋がる山地については、都市近郊の比較的豊かな森林を優れた自然の風景地とし、公益的機能を十分発揮しうるよう積極的な保全・整備を図るとともに、自然環境を活かしたレクリエーション等の場としての活用を進めることとされています。

丘陵部における彩都の開発では、新しい居住空間の創造とライフサイエンス分野における国際的な研究開発拠点の形成を目指したまちづくりが進められています。

主要な河川や水路などは、山地の豊かな自然と既成市街地を結ぶ水と緑のネットワークの形成などの観点から保全や整備をすすめることにより、府民が身近なみどりや水辺に親しめる魅力ある空間となることも期待されています。また河川や水路は市街地のなかではオープンスペースとして、延焼防止や災害時の避難地としても貴重であり、地域の防災拠点機能の整備も必要とされています。

流域には大阪府総合計画や大阪 21 世紀の新環境総合計画及び右表のような流域各市の総合計画により将来計画が策定されています。

これらの総合計画には、以下のような共通項目がみられます。

- ・ 治水、利水機能を高め、水害を未然に防止すると共に、水辺環境の保全と親水空間の創出を図る。
- ・ 河川沿いをオープンスペースとしての活用し、水と緑の環境軸（エコロジカルネットワーク軸）を形成する。

また茨木市には、以下の項目が特筆されています。

彩都に隣接しており、新名神高速道路が整備される予定である安威川ダムのダム湖周辺の整備を推進するとともに、広域的なレクリエーション拠点の形成を図る。